

第十五條 總督府ニ民政部、陸軍部、海軍幕僚ヲ置ク  
陸軍部條例及海軍幕僚條例ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百六十二號臺灣總督府官制(明治三十年十月二十一日官報)抄録  
第十五條 總督府ニ民政部、陸軍幕僚、海軍幕僚ヲ置ク  
陸海軍幕僚條例ハ別ニ之ヲ定ム

朕樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第四十五號(官報 三月二十三日)

第一條 樺太ニ於ケル小學校ニ關シテハ小學校令中第一條乃至第三條、第五條、第十六條乃至第三十二條、第三十五條乃至第三十九條、第四十二條、第四十三條及第四十五條乃至第四十八條ノ規定ニ依ル但シ文部大臣ノ職務ハ内務大臣、府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官、市町村長ノ職務ハ樺太廳支廳長之ヲ行フ

第二條 小學校令ノ規定ニ依リ難キ場合アルトキハ樺太廳長官ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三條 樺太ニ於ケル小學校ノ正教員及准教員ハ普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

第四條 樺太廳立小學校職員ノ名稱待遇及等級配當方ニ關シテハ明治二十四年勅令第二百十八號及明治二十五年勅令第二十九號ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第四十六號(官報 三月二十五日)

陸軍服制中左ノ通改正ス

將校服制圖例刀帶ノ部(騎兵)尉官ノ項製式ノ欄中「長サ七寸」ヲ「長サ一尺」ニ、同騎兵特務曹長ノ項製

式ノ欄中「長サ五寸」ヲ「長サ一尺」ニ改ム

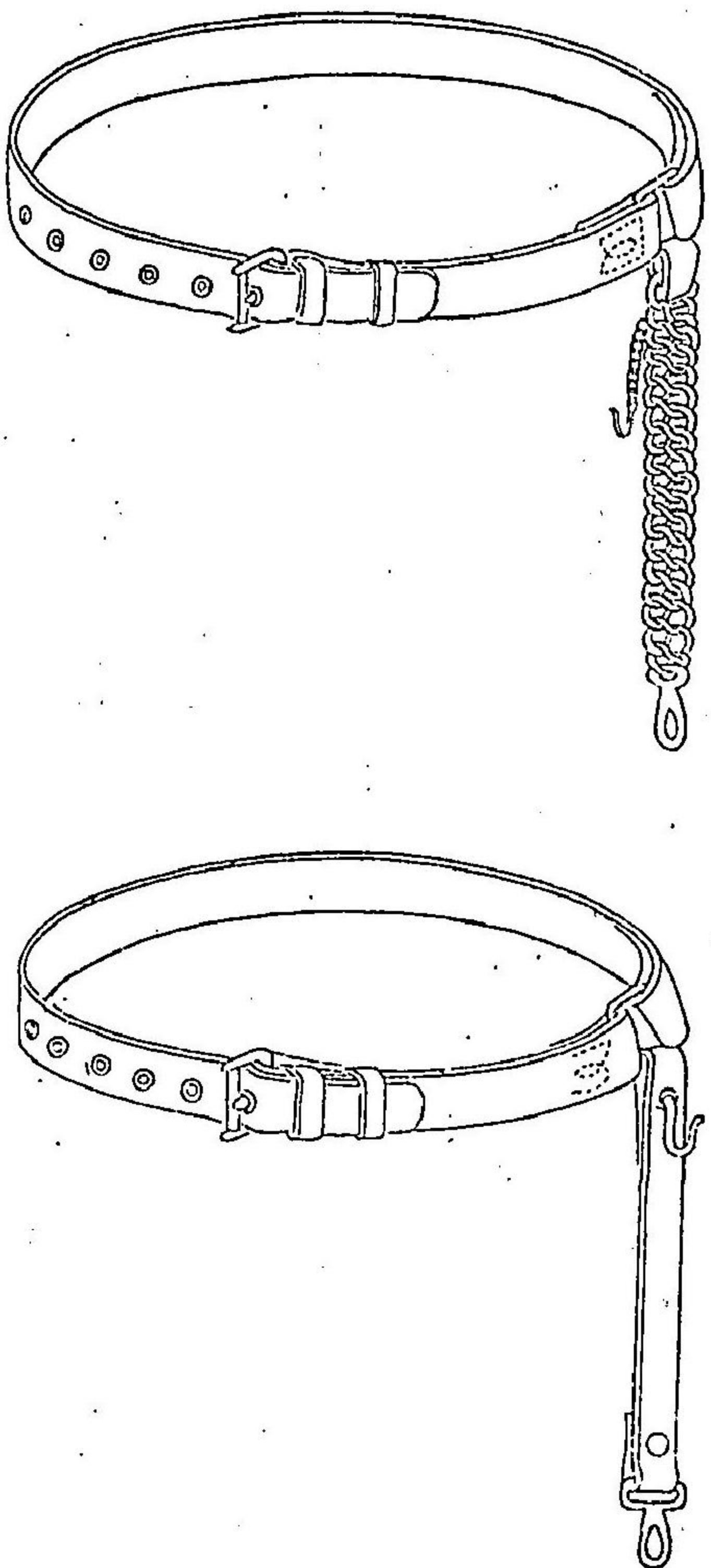
同服制圖例ノ備考ヲ削ル

將校服制圖中臺灣守備隊將校同相當官襟部徽章ノ圖並國民軍ニ屬スル將校同相當官及准士官襟部徽章ノ圖ヲ削ル

同服制圖中刀帶ノ部騎兵(尉官)及騎兵准士官ノ圖ヲ左ノ如ク改ム

騎兵(尉官)

騎兵准士官



附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第四十七號(官報三月二十五日)

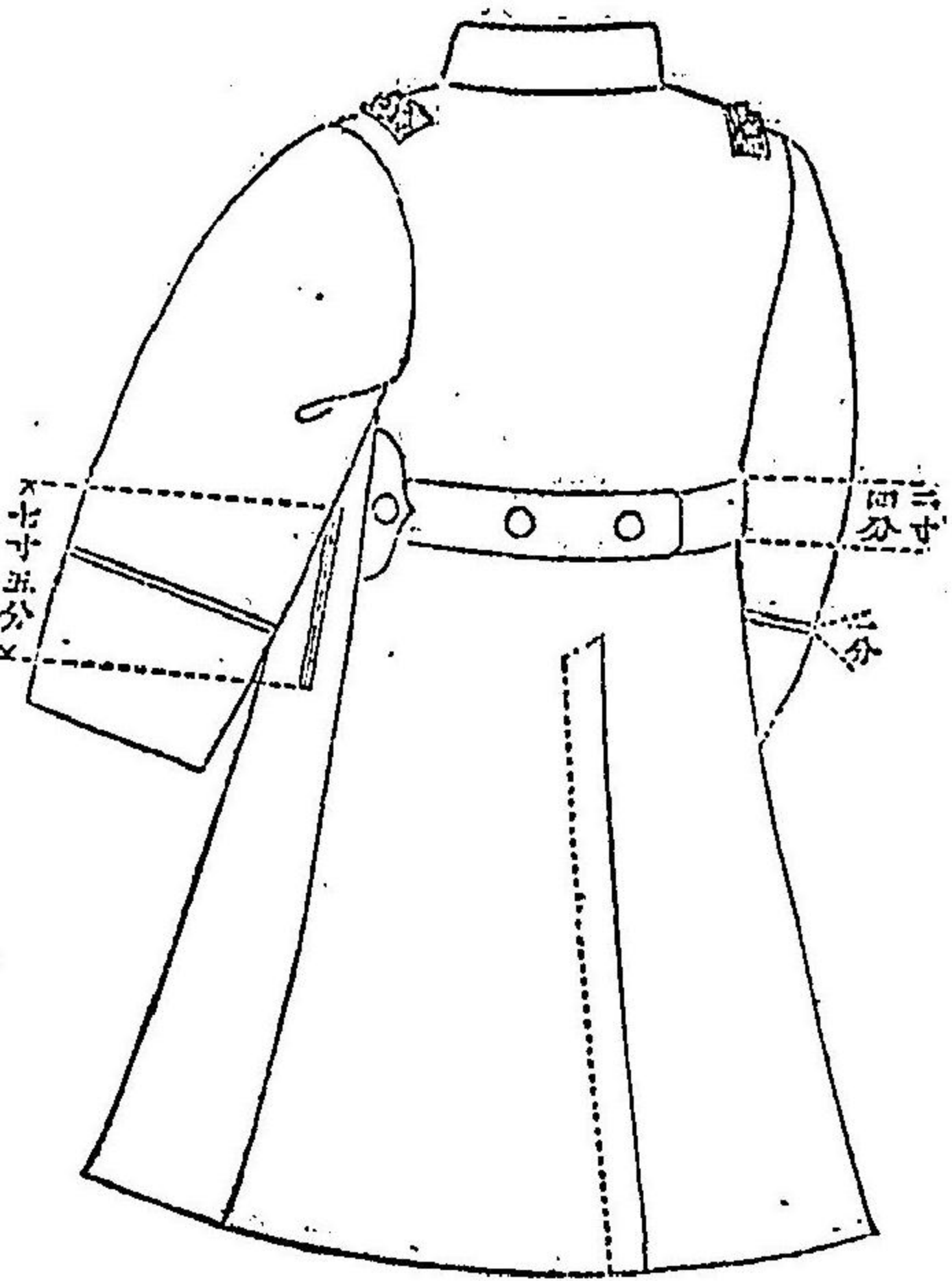
陸軍軍服制中左ノ通改正ス

將校同相當官服制圖例備考第三項中「其ノ製式形狀圖ノ如シ」ヲ「但シ山砲兵大隊、臺灣步兵聯隊、臺灣山砲兵中隊、重砲兵聯隊及獨立守備大隊附將校同相當官ハ襟ノ左ニノミ之ヲ附シ襟ノ右ニ特別ノ徽章(將校ハ金色、同相當官ハ銀色ノ金屬製)ヲ附ス製式形狀圖ノ如シ」ニ改ム

四 重砲兵獨立大隊及交通兵諸隊附將校ハ金色、同相當官ハ銀色ノ金屬製襟部徽章ヲ襟ノ左右ニ附ス其ノ製式形狀圖ノ如シ

同備考第五項ヲ第六項ニ改メ同項中前二項ヲ前三項ニ改ム

將校同相當官服制圖中第二種帽(イ)ノ寸法「七寸八分」ヲ「七寸五分」ニ(ロ)ノ寸法「一寸五分」ヲ「一寸三分」ニ改メ外套ノ背面圖ヲ左ノ如ク改ム



同服制圖中襟部徽章ノ部ニ左ノ圖ヲ加フ

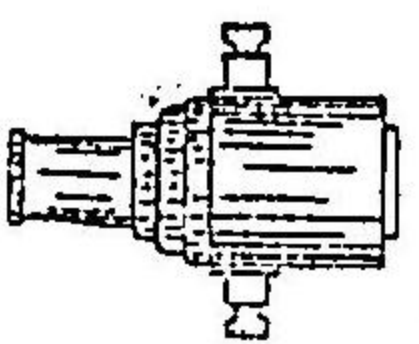
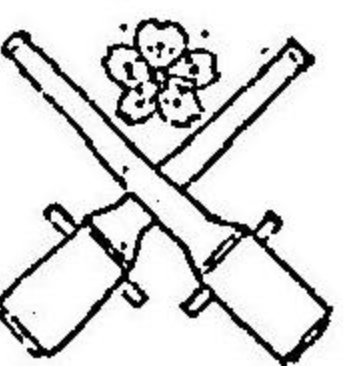
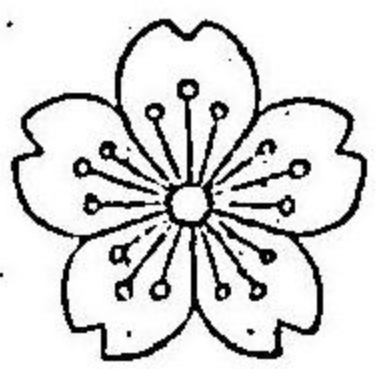
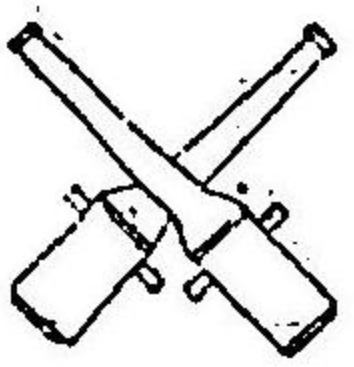
山砲兵大隊附  
將校同相當官

臺灣步兵聯隊附  
將校同相當官

臺灣山砲兵中隊附  
將校同相當官

重砲兵聯隊(獨立)大隊附  
將校同相當官

外以字數



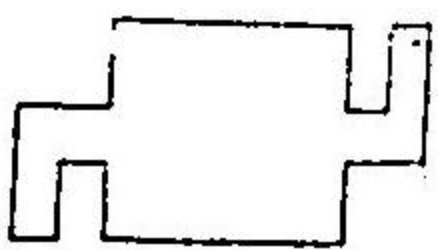
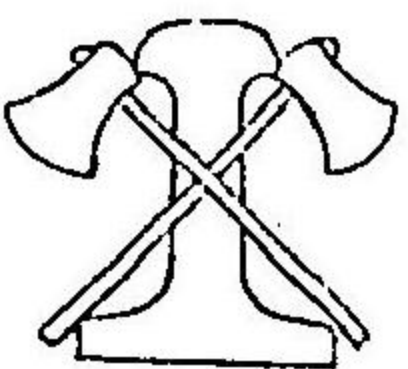
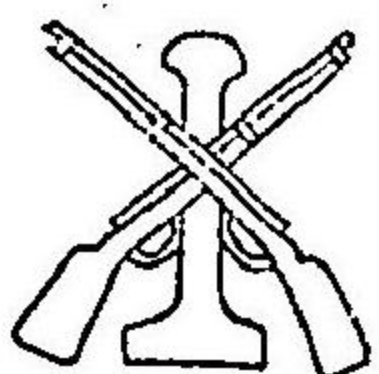
部徽章

獨立步兵大隊附  
將校同相當官

臺灣步兵聯隊附  
將校同相當官

電信大隊附  
將校同相當官

氣球隊附  
將校同相當官



本圖ハ實物ノ大ヲ示ス

下士兵卒服制圖例中雨覆ノ部ヲ左ノ如ク改ム

名	稱	地質	鈕	製	式	形狀
覆	蓋兵下士上等兵茶褐絨	褐色四ツ目角	胸部用徑五分五厘長 頭巾用徑四分五厘廣 襟幅一寸八分	前面ハ襟下ヨリ一尺六寸 背面ハ一尺八寸二分	如圖	如圖

同服制圖例肩章ノ部各兵兵卒ノ項星章ノ欄中「雜卒」ヲ「輸卒」ニ、同各部兵卒ノ項星章ノ欄中「雜卒」一箇ヲ「二等卒相當」一箇ニ改ム

同服制圖例備考第二項中「其ノ製式形狀圖ノ如シ」ヲ、但シ山砲兵大隊、臺灣步兵聯隊、臺灣山砲兵中隊、重砲兵聯隊及獨立守備大隊附下士兵卒ハ襟ノ左ニ「ミ」之ヲ附シ襟ノ右ニ特別ノ徽章各兵科ハ金色、各部ハ銀色ノ金屬製ヲ附ス製式形狀圖ノ如シニ改メ同項ノ次ニ左ノ二項ヲ加ヘ第三項ヲ第五項ニ改ム

三 重砲兵獨立大隊及交通兵諸隊附各兵下士兵卒ハ金色、同各部下士兵卒ハ銀色ノ金屬製襟部徽章ヲ襟ノ左右ニ附ス其ノ製式形狀圖ノ如シ

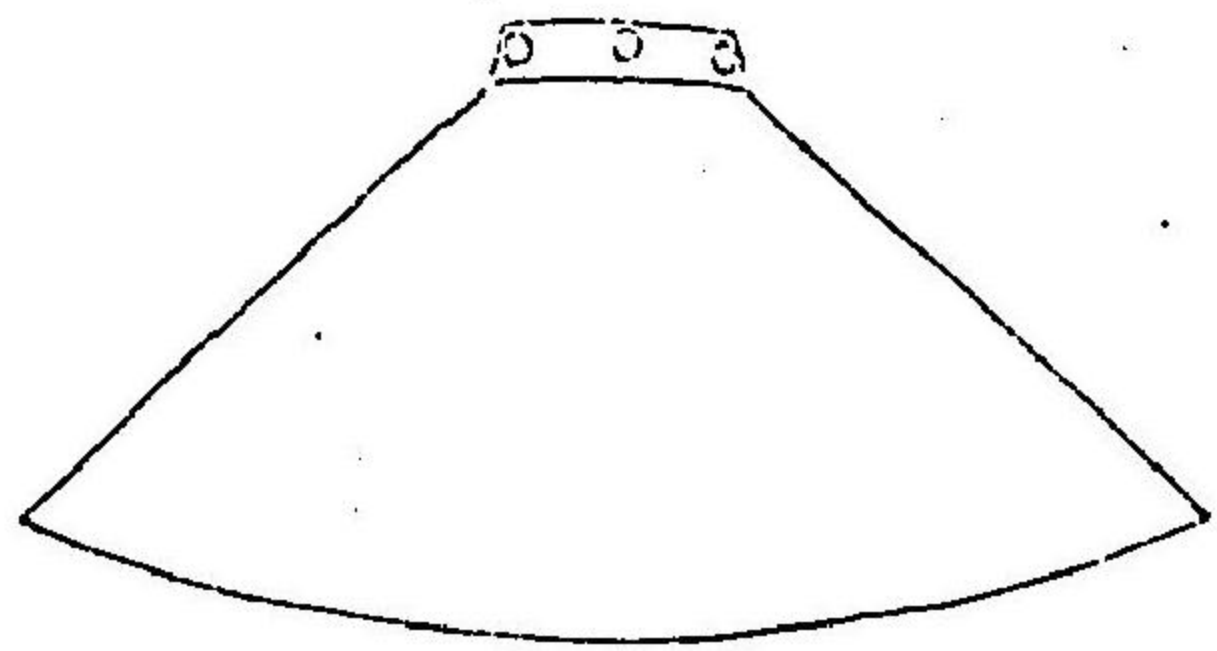
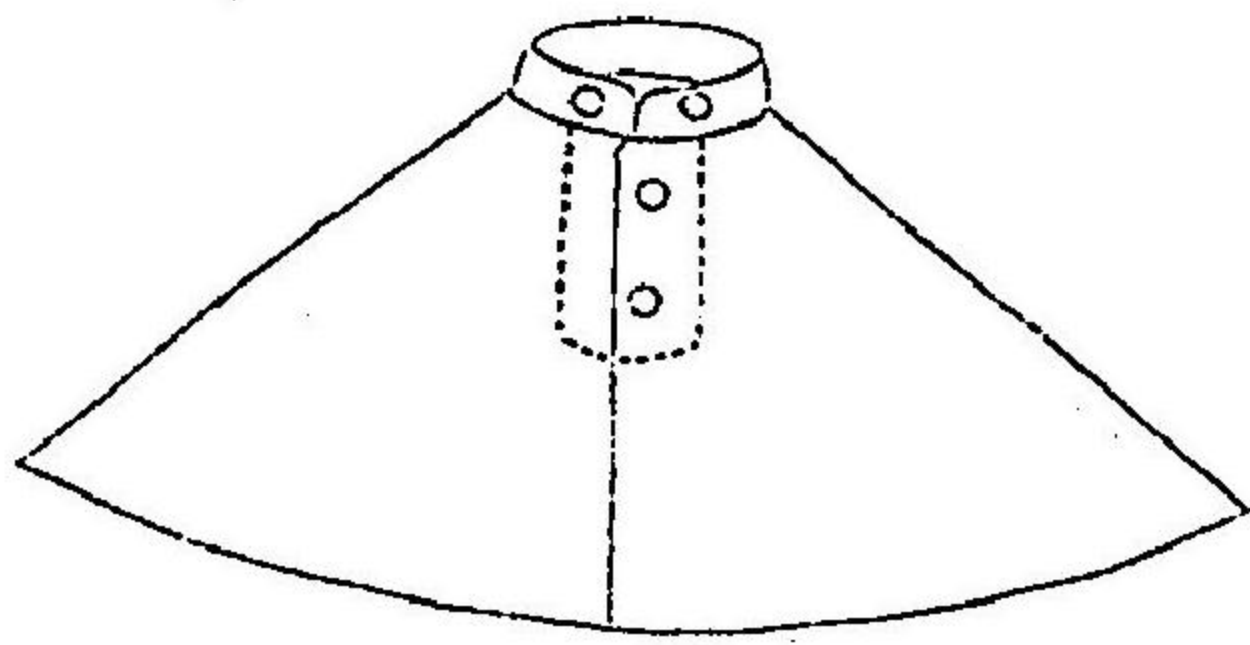
四 戶山學校、騎兵實施學校、野戰砲兵射擊學校及重砲兵射擊學校ノ教導大(中)隊附各兵下士兵卒ハ前二項ノ徽章ノ外襟ノ左右ニ金色ノ金屬製特別徽章ヲ附ス其ノ製式形狀圖ノ如シ

同備考第四項ヲ第六項ニ改メ同項中「長靴」ノ下ニ「半長靴」ヲ加ヘ次ニ左ノ一項ヲ加フ

七 砲兵助卒ノ肩章ハ輪卒ニ同シ

下士兵卒服制圖中第二種帽(イ)ノ寸法「七寸八分」ヲ「七寸五分」ニ(ロ)ノ寸法「一寸五分」ヲ「一寸三分」ニ改メ防寒襟ノ次ニ左ノ圖ヲ加フ

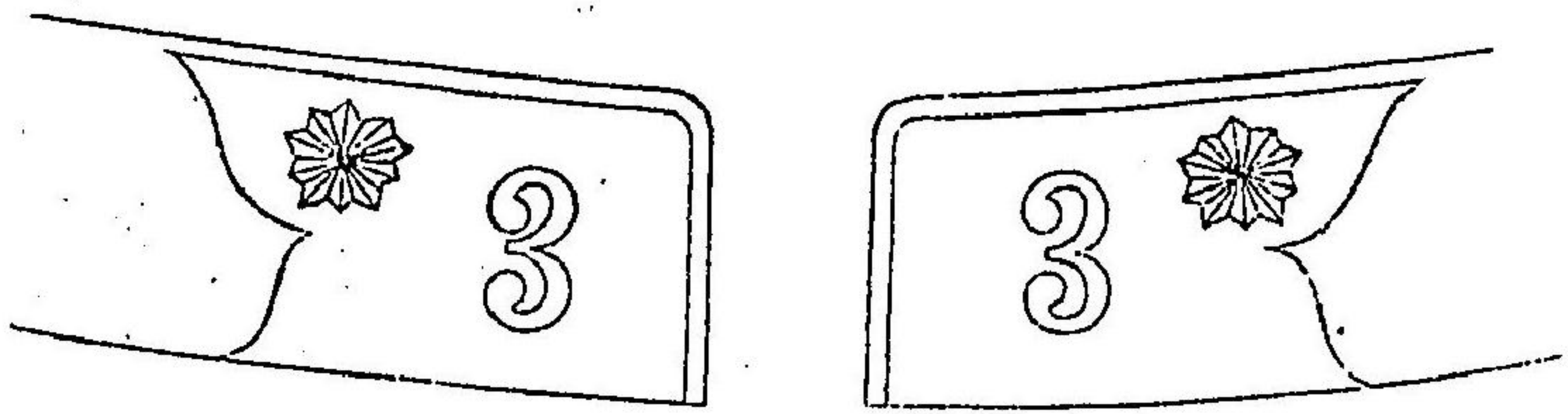
覆 雨  
兵等上士下兵憲



同服制圖中肩章ノ部「一等卒」ヲ「二等卒及同相當卒」ニ「二等卒及雜卒」ヲ「二等卒同相當卒及輪卒」ニ改ム

同服制圖中襟部徽章ノ部國民軍附下士兵卒ノ圖ノ次ニ左ノ圖ヲ加フ

卒兵士下附隊導教校學諸



同服制圖中襟部徽章羅馬數字ノ次ニ左ノ圖ヲ加フ

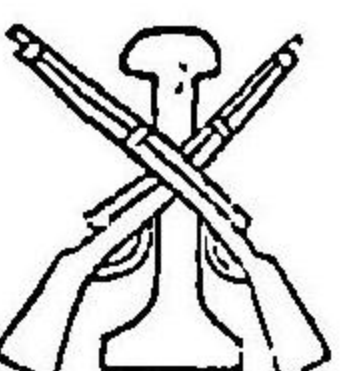
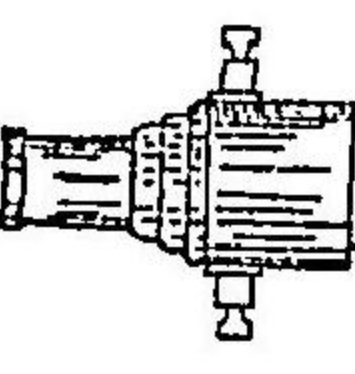
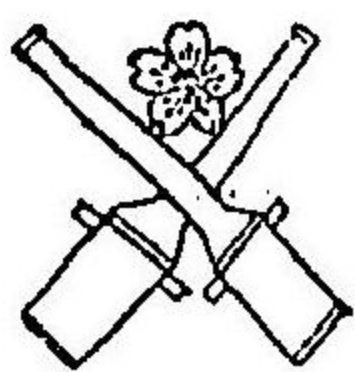
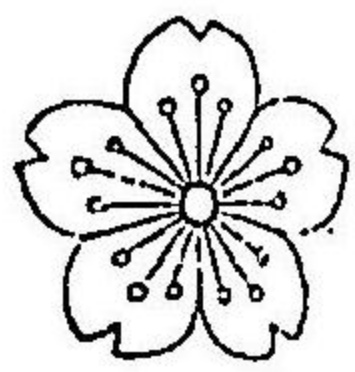
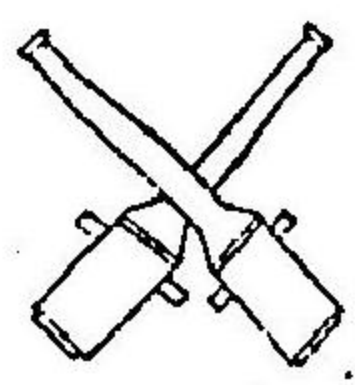
山砲兵大隊附  
下士兵卒

臺灣步兵聯隊附  
下士兵卒

臺灣山砲兵中隊附  
下士兵卒

重砲兵聯(獨立大)隊附  
下士兵卒

獨立守備大隊附  
下士兵卒



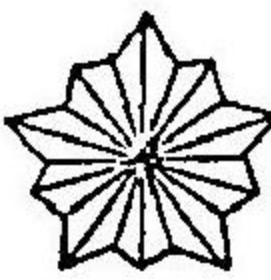
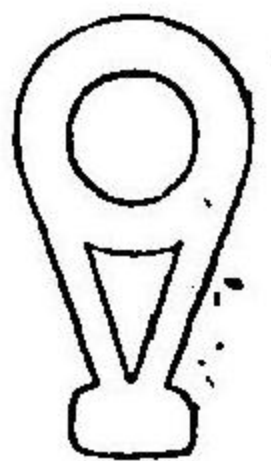
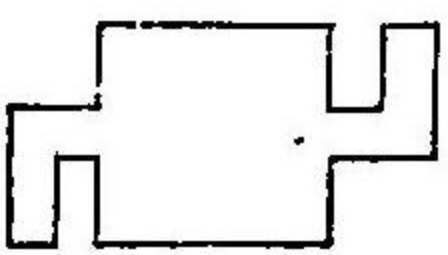
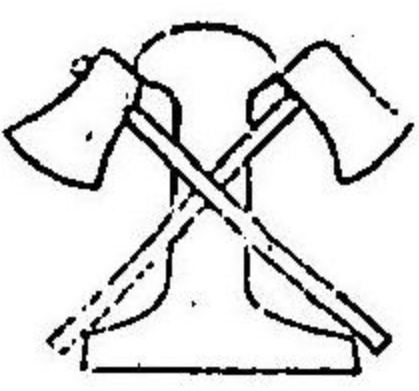
鐵道聯隊附  
下士兵卒

電信大隊附  
下士兵卒

無線隊附  
下士兵卒

諸學校教導隊附  
下士兵卒

数字以外ノ部徽章



本圖ハ實物ノ大ヲ示ス

士官、下士兵候補者服制圖例中各兵科ノ部第二種帽乃至防寒襟ノ欄ニ「但シ見習士官ノ外套ハ左脇下ニ裂目(長七寸五分)ヲ附シ其ノ頭巾ハ著脱製トス」ヲ加フ

同服制圖例經理部ノ部第二種帽乃至防寒襟ノ欄中「歩兵科」ヲ「經理部」ニ改メ「但シ見習主計ノ外套ハ左脇下ニ裂目(長七寸五分)ヲ附シ其ノ頭巾ハ著脱製トス」ヲ加ヘ同部夏衣袴乃至肩章ノ欄中「歩兵科」ヲ「經理部」ニ改ム

同服制圖例中一年志願兵ノ部「所屬隊兵科」ノ下ニ「(主計生ニ在リテハ經理部、軍醫生及藥劑生ニ在

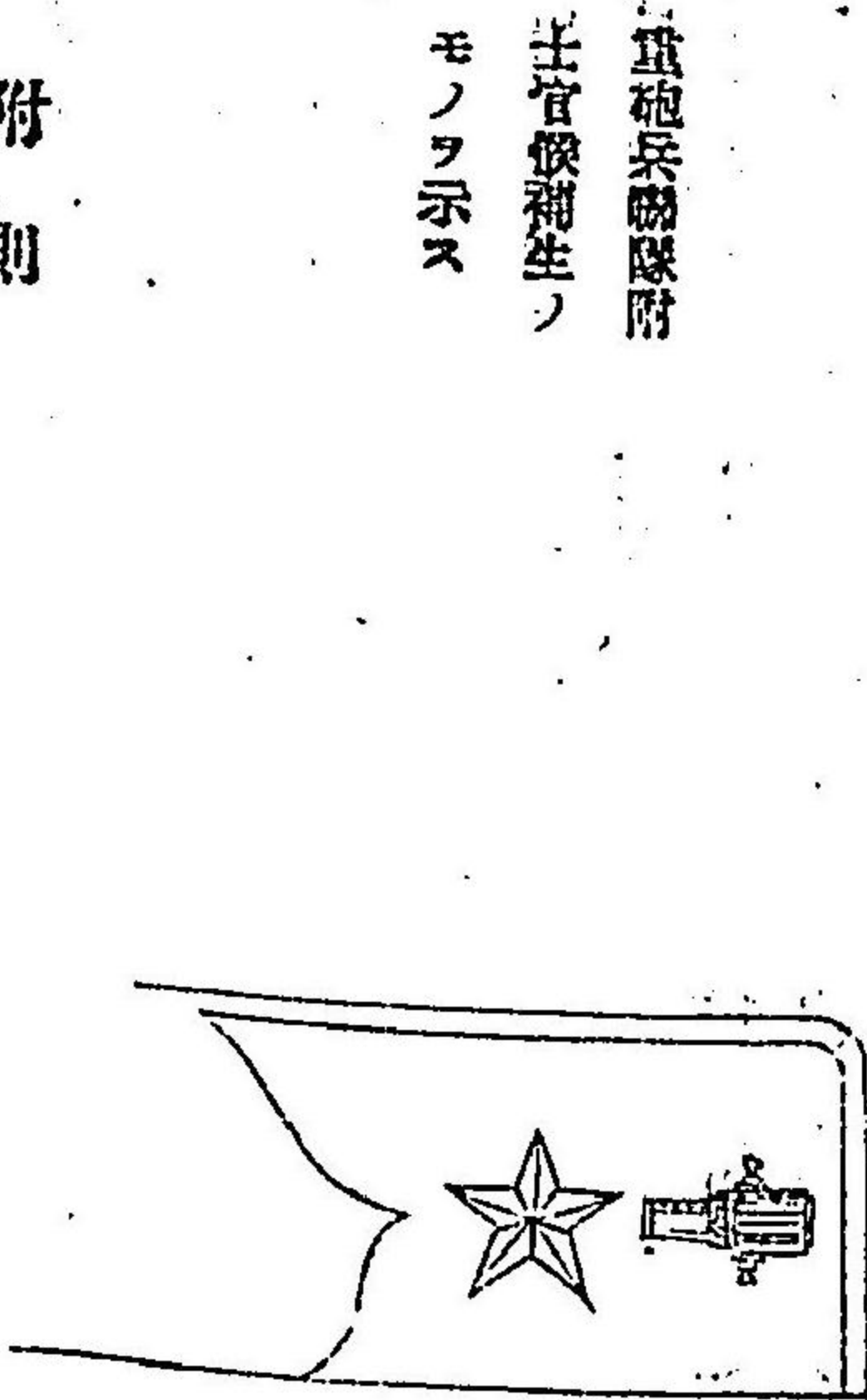
リテハ衛生部)ヲ加ヘ見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ノ部第一種帽乃至防寒襟ノ欄ニ「但シ外套ノ左脇下ニ裂目(長七寸五分)ヲ附シ其ノ頭巾ハ著脱製トス」ヲ加フ

同服制圖例備考第二項中但書ヲ削リ第二項但書中「隊外ニ在リテ」及「隊號ヲ表スル」ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ二項ヲ加ヘ第三項ヲ削ル

三 前項ノ特別徽章ヲ附スヘキモノハ山砲兵大隊、臺灣步兵聯隊、臺灣山砲兵中隊、重砲兵聯隊ニ屬スルモノノ外第一項ニ依リ襟ノ右ニ附スヘキ徽章ヲ除ク

四 刀刀帶、刀緒ハ見習士官ニ在リテハ尉官ニ、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ニ在リテハ尉官相當官ニ同シ

同服制圖中襟部徽章ノ部ニ左ノ圖ヲ加フ



重砲兵聯隊附  
士官候補生ノ  
モノヲ示ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕税關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第四十八號(官報 三月二十七日)  
税關官制中左ノ通改正ス

第四條中「三百七十八人」ヲ「三百二十七人」ニ、「百二十四人」ヲ「百二十八人」ニ、「百六十三人」ヲ「百七十五人」ニ、「七百六十八人」ヲ「八百一十七人」ニ、「五十六人」ヲ「六十一人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第六十一號税關官制(明治三十二年四月二十二日官報)抄録

第四條 税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク  
事務官補 專任 判任 三百七十八人  
監視 專任 判任 百二十四人  
鑑定官補 專任 判任 百六十三人  
監吏 專任 判任 七百六十八人  
技手 專任 判任 五十六人

朕煉乳原料砂糖戻税法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第四十九號(官報 三月二十七日)

煉乳原料砂糖戻税法施行規則

第一條 煉乳原料砂糖戻税法第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ種類、數量場所及日時ヲ定メ、其ノ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ  
前項ノ承認ハ毎回五百斤以上ノ場合ニ限リ之ヲ與フルモノトス

第二條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ原料砂糖ノ種類、數量、消費稅額、使用承認年月日、使用年月日及製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三、製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日  
四、他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第四條 收稅官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍造兵廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第五十號 (官報 三月二十八日)

海軍造兵廠條例中左ノ通改正ス

第八條中「部長及材料庫主管」ヲ「部長、材料庫主管及工場庫主管」ニ改ム

第十條中「材料庫主管」ヲ「主管」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五十一號海軍造兵廠條例(明治三十年五月二十五日官報)抄録

第八條 製造部ニ部長、部員及副部長ヲ置キ會計部ニ部長及材料庫主管ヲ置ク

第十條 部長、副部長ハ製造部長ノ命ヲ承ケ材料庫主管ハ會計部長ノ命ヲ承ケ服務ス

朕監獄官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
司法大臣 男爵千家尊福

勅令第五十一號 (官報 三月二十八日)

監獄官制中左ノ通改正ス

別表中長崎監獄ノ項中「長崎縣長崎市」ヲ「長崎縣北高來郡諫早町」ニ、千葉監獄ノ項中「千葉縣千葉郡千葉町」ヲ「千葉縣千葉郡都村」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治三十七年勅令第二十一號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日

勅令第五十二號(官報 三月三十日)

明治三十七年勅令第二十一號ハ明治四十一年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治三十七年ハ勅令第二十一號ハ外交官領事官等臨時増員ノ件ナリ

朕臨時臺灣戸口調査部官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第五十三號(官報 三月三十日)  
臨時臺灣戸口調査部官制ハ明治四十一年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

朕專賣局作業會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第五十四號(官報 三月三十日)  
專賣局作業會計規則中左ノ通改正ス

第三條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣之ヲ專賣局長官及他ノ官吏ニ命シテ執行セシムヘシ

第四條 歳出豫算ヲ執行スル官吏ハ歳出ヲ支出スル爲金庫ニ向テ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第五條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度十一月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

歳入ヲ徵收スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎年度歳入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

前二項ノ計算書ハ特ニ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ煙草又ハ鹽ノ賠償及購買費、鹽ノ交付金、樟腦又ハ樟腦油ノ補償金、荷造費、職工人夫ニ給スル諸費、外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費並支所ノ經費ニ限り所屬ノ出納官吏ニ現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

第九條中「煙草」ヲ「煙草、鹽、樟腦及樟腦油」ニ改ム

第十四條、第二十三條、第二十四條及第二十六條中「煙草專賣局」ヲ「專賣局」ニ改ム



第十七條中第三號以下ヲ左ノ如ク改ム

三 煙草鹽樟腦樟腦油及煙草越幾斯ハ賠償補償若ハ購入價格又ハ生産費ニ依ル但シ其ノ沒收等ニ係ルモノハ各其ノ比準價格ニ依ル

四 材料素品及機械運轉用品ハ購入價格又ハ生産費ニ依ル

第二十一條 毎年度ノ終ニ現在スル煙草鹽樟腦樟腦油又ハ煙草越幾斯ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少シタルトキハ現時ノ賠償補償若ハ購入價格又ハ生産費ニ比準シテ之ヲ改定スヘシ

第二十一條ノ二中「葉煙草以外ノ」ヲ削ル

第二十一條ノ三 材料素品、機械ノ運轉用品及其ノ他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失トシ不用品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第二十一條ノ四ヲ削ル

第二十二條中「總既製品ノ價格、葉煙草以外ノ」ヲ「總製造煙草ノ價格、總鹽ノ價格、總樟腦及樟腦油ノ價格、總煙草越幾斯ノ價格」ニ改メ「賣拂代價收入未済物品ノ價格」ノ次ニ「消費シタル葉煙草ノ價格、消費シタル樟腦及樟腦油ノ價格」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二十號專賣局作業會計規則(明治三十三年二月二日官報)抄錄  
第三條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度十一月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

煙草專賣局長官、煙草收納所長、煙草製造所長、煙草販賣所長又ハ煙草專賣局直屬分工場長ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎年度歳入歳出額計算書ヲ調製シ該書ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ  
煙草專賣局長官、煙草收納所長、煙草製造所長、煙草販賣所長又ハ煙草專賣局直屬分工場長ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎月支出ノ計算書ヲ調製シ該書ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第四條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣之ヲ煙草專賣局長官、煙草收納所長、煙草製造所長、煙草販賣所長及煙草專賣局直屬分工場長ニ命ジテ執行セシムヘシ

第五條 煙草專賣局長官、煙草收納所長、煙草製造所長、煙草販賣所長又ハ煙草專賣局直屬分工場長ハ歳出ヲ支出スル爲金庫ニ向テ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ煙草ノ賠償及購買費職工人夫ニ給スル諸費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費及支部局ノ經費ニ限リ煙草專賣局長官、煙草收納所長又ハ煙草製造所長、出納官吏ニ現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

第九條 毎年度内ニ歳入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ歳入未済トナラサルモノハ收入未済トシテ順次翌年度ニ繰越シ現ニ歳入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ煙草賣拂代金ニ限リ翌年度七月三十一日迄ハ當該年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第十七條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

三 葉煙草ハ賠償又ハ購買價格ニ依リ既製品ハ生産費又ハ購買價格ニ依ル其ノ沒收等ニ係ルモノハ其ノ比準價格ニ依ル

四 葉煙草以外ノ材料素品及機械ノ運轉用品ハ購入價格ニ依ル

第二十一條 毎年度ノ終ニ現在スル葉煙草又ハ輸入製造煙草ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少シタルトキハ現時ノ價格ニ比準シテ之ヲ改定スヘシ

第二十一條ノ二 毎年度ノ終ニ現在スル葉煙草以外ノ材料素品及機械ノ運轉用品ニシテ市價ノ低落シタルトキハ現時ノ市價ニ依リ其ノ價格ヲ改定スヘシ

前項ノ物品ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少シタルトキハ其ノ割合ニ應ジテ價格ヲ改定スヘシ

第二十一條ノ三 毎年度ノ終ニ現在スル既製品ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少シタルトキハ現時ノ生産費ニ比準シテ其ノ價格ヲ改定スヘシ

第二十一條ノ四 葉煙草以外ノ材料素品及機械ノ運轉用品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失トシ不用物品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第二十二條 歳入ノ收入済額、歳入未済額、損益運轉資本ニ關スル現金ノ持越高、總葉煙草ノ價格、總既製品ノ價格、葉煙草以

外ノ材料素品ノ價格、總機械運轉用品ノ價格、總備品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出ノ支出済額、支出未済額、損益運轉資本

額、賣拂代價收入済物品ノ價格、賣拂代價收入未済物品ノ價格、消費シタル材料素品ノ價格、消費シタル機械運轉用品ノ價格、損失ニ歸シタル物品ノ價格ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其ノ事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

朕明治三十九年勅令第六十號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅  
内務大臣 原 敬

勅令第五十五號(官報 三月三十日)

明治三十九年勅令第六十號ハ明治四十一年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十九年三月三十一日勅令第六十號ハ沖繩縣山處分調査ニ關スル臨時職員設置ノ件ナリ

朕統監府觀測所官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第五十六號(官報 三月三十日)

統監府觀測所官制ハ明治四十一年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

朕統監府鐵道管理局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第五十七號(官報 三月三十日)

統監府鐵道管理局官制中左ノ通改正ス

第二條中「十人」ヲ「十一人」ニ、「八人」ヲ「九人」ニ、「二十五人」ヲ「二十九人」ニ、「通譯官ノ下」專任一人「ヲ」專任二人「ニ」改ム

第十二條ノ二中事務官ノ下「專任四人」ヲ「專任三人」ニ、「事務官補ノ下」專任四人「ヲ」專任五人「ニ」改ム  
人「ヲ」十七人「ニ」七十四人「ヲ」五十一人「ニ」九十八人「ヲ」七十三人「ニ」改メ「通譯官專任二人」及「通譯生專任六人」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第七十六號統監府鐵道管理局官制(明治三十九年六月三十日官報)抄録  
第二條 統監府鐵道管理局ニ左ノ職員ヲ置ク

事務官 專任十人 奏任  
 事務官補 專任八人 奏任  
 技師 專任二十五人 奏任  
 通譯官 專任一人 奏任  
 書記 專任二百二十二人 奏任  
 技手 專任八十二人 奏任  
 通譯生 專任二人 奏任  
 第十二條ノ二第一項  
 帝國鐵道ノ建設及改良ノ爲鐵道管理局ニ臨時建設部ヲ置キ左ノ職員ヲ増置ス  
 事務官 專任四人  
 事務官補 專任四人  
 技師 專任十九人 奏任  
 通譯官 專任三人  
 書記 專任七十四人  
 技手 專任九十人  
 通譯生 專任六人

朕統監府鐵道管理局雇員使用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 御名 御璽

明治四十一年三月二十九日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第五十八號(官報三月三十日)  
 統監府鐵道管理局ハ明治四十一年度限り俸給豫算定額内ニ於テ適宜雇員ヲ使用スルコトヲ得

附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕專賣局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
 大藏大臣 松田正久

勅令第五十九號(官報三月三十一日)  
 專賣局官制中左ノ通改正ス

第三條中「五十八」ヲ「五十三」ニ、「五十五」ヲ「五十七」ニ、「二千八百七十八」ヲ「三千二百五十四」ニ、「千五百八」ヲ「千二百四」ニ改ム  
 第十六條 大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ專賣局ノ出張所、分工場又ハ試驗場及收納所、製造所又ハ販賣所ノ出張所、分工場又ハ藏置所並專賣官吏派出所ヲ設クルコトヲ得  
 前項ノ出張所、分工場、藏置所又ハ試驗場ニハ所長又ハ場長一人ヲ置クコトヲ得  
 專賣局ノ出張所、分工場又ハ試驗場ノ所長又ハ場長ハ主事、主事補又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ專賣局ノ事務ヲ分掌ス  
 收納所、製造所又ハ販賣所ノ出張所、分工場又ハ藏置所ノ所長又ハ場長ハ主事補、書記又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ收納所、製造所又ハ販賣所ノ事務ヲ分掌ス

別表ノ三中專賣局郡山販賣所、專賣局青森販賣所、專賣局小樽販賣所、專賣局長岡販賣所、專賣局境販賣所、專賣局福岡販賣所及專賣局鹿兒島販賣所ノ項ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百四號專賣局官制(明治四十年九月二十六日官報)抄錄

- 第三條 專賣局ニ左ノ職員ヲ設ク
- 局長 一人 勅任
- 部長 四人 奏任
- 參事 八人 奏任
- 主事 五十人 奏任
- 主事補 五十五人 奏任
- 技師 六十五人 奏任
- 書記 二千八百七十八人 奏任
- 技手 千五百五人 奏任
- 第十六條 大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ專賣局、收納所、製造所又ハ販賣所ノ出張所、分工場又ハ藏置所ヲ設クルコトヲ得

朕明治三十三年勅令第四十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第六十號(官報 三月三十一日)

明治三十三年勅令第四十七號中、沖繩縣間切島規程ニ依ル間切島ヲ「沖繩縣及島嶼町村制ニ依ル町村」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第四十七號(明治三十三年三月二十日官報)  
北海道區制ニ依ル區北海道一級町村制及北海道二級町村制ニ依ル町村沖繩縣區制ニ依ル區沖繩縣間切島規程ニ依ル間切島  
八國稅徵收法第三十三條第三項ノ公共團體ト指定ス

朕陸海軍召集諸費支辨方ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅  
海軍大臣 男爵齋藤實  
大藏大臣 松田正久  
內務大臣 原敬

勅令第六十一號(官報三月三十一日)

第一條 陸海軍召集旅費ハ應召員召集部隊又ハ海兵團ニ到着後該部隊又ハ海兵團ニ於テ支給ス但シ集合場ヨリ直ニ歸郷セシムル者ニ在リテハ該集合場ニ於テ支給ス

第二條 前金渡ヲ爲スニ非サレハ召集ニ應スルコト能ハサル者ノ召集旅費ハ現住地市町村市制町制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市ニ於テ繰替支給スヘシ

第三條 市町村ニ於テ要スル召集雜費ハ市町村ニ於テ繰替支給スヘシ

第四條 前二條ノ繰替支給金ノ拂戻ニ關スル手續ハ陸軍大臣海軍大臣之ヲ定ム

附則 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日  
内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第六十二號(官報三月三十一日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第二條第三號中「監督候補生」ヲ削リ第五號中「屯營」ノ下ニ「官衙」ヲ加フ  
第八條第三號中「看護手」ヲ並同級兵卒ニ改ム

第二十七條中「及病院」ヲ「病院及被服廠」ニ「隊長校長若ハ院長」ヲ「當該部隊長」ニ改ム  
第二十四條第一項中「現品及金額」ヲ「定額」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム  
第三十五條中「及病院」ヲ「病院及被服廠」ニ「隊長校長及院長」ヲ「當該部隊長」ニ改ム  
第五十九條 下士以下ノ患者治療ニ要スル諸費ハ官費トス但シ一年志願兵ニシテ其ノ傷病公務ニ基因セサル者ハ定額ヲ納付セシム

准士官以上及軍屬ニシテ其ノ傷病公務ニ基因スル者ノ治療ニ要スル諸費ハ官費トス但シ傳染病ノ爲手當金ヲ受クル者ハ定額ヲ納付セシム  
前二項ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三表甲中名稱ノ欄「下士勤務上等兵」ヲ「下士勤務諸兵卒」ニ「醫隊隊下士勤務上等兵」ヲ「醫備隊下士勤務諸兵卒」ニ「看護手」ヲ「並同級兵卒」ニ改メ「二等卒」ノ次ニ「並同級兵卒」ヲ加ヘ備考第一項及第四項ヲ削リ同第二項ヲ左ノ如ク改ム  
下士勤務諸兵卒ノ定員内ニテ伍長並相當官ニ任セラレタル者ノ給料ハ其ノ定員内ニ在ル間下士勤務諸兵卒ノ給料ニ同シ

第三表乙中名稱ノ欄「看護手」ヲ「並同級兵卒」ニ「醫卒」ヲ「一、二等卒」ニ「並同級兵卒」ニ「備考第一項中「諸卒」ヲ「一、二等卒」ニ改ム

第四表中名稱ノ欄「監督候補生」及備考第一項ヲ削ル

第五表中名稱ノ欄「兵上等兵」及第八表中名稱ノ欄「上等兵」ヲ各「諸兵卒」ニ改ム

第九表ヲ左ノ如ク改ム

第九表 糧食及食料

備考	糧食											
	米						食料					
	精米						食料					
地方區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム 各區内ノ賄料ハ土地ノ狀況ニ依リ増減スルコトヲ得但シ一人一日ノ平均額ハ本表金額ヲ超過スルコトヲ得ス	一人一日ノ額	地方區分	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	
	二十四錢	將官同相當官	十一錢四厘	八錢四厘	八錢一厘	七錢八厘	七錢五厘	七錢二厘	六錢九厘	六錢	六錢	
	十八錢	上長官、士官、准士官	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	
	十六錢	下士以下	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	
	十錢		七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	
	十錢		七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	
	十錢		七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢
	十錢		七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢
	十錢		七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢
	十錢		七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢
	十錢		七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢

第十一表賄料ノ欄中等級金額地方區分ノ區畫ヲ左ノ如ク改メ備考ニ「地方區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム」ノ一項ヲ加フ

賄料	地方區分
五錢七厘	第一區
三錢九厘	第二區

三錢六厘	第三區
三錢五厘	第四區
三錢三厘	第五區
三錢二厘	第六區
三錢	第七區

第十二表中「八十圓」ヲ「二百五十圓」ニ、「四十圓」ヲ「八十圓」ニ改ム  
 第二十一表中「五升」ヲ「一貫四百匁」ニ、「四升六合」ヲ「一貫三百匁」ニ、「四升」ヲ「一貫百匁」ニ、「三升七合」ヲ「一貫匁」ニ、「一升三合以内」ヲ「三百五十匁以内」ニ改ム  
 第二十八表中「監督候補生」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕臺灣島及澎湖島駐節陸軍部隊給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第六十三號(官報三月三十一日)

臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則中左ノ通改正ス

第二條 削除

第七條第一項第一號中「軍隊旅行、演習旅行又ハ」ヲ削リ第二號中「守備隊」ヲ「軍隊」ニ改ム

第十一條及第十二條削除

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕清國駐劄陸軍部隊給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第六十四號(官報三月三十一日)

清國駐劄陸軍部隊給與令中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

下士以下所要ノ被服及駐劄部隊備附ノ被服ハ現品ヲ以テ交付ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第六十五號(官報三月三十一日)

海軍給與令中左ノ通改正ス

第三十四條第二項中「軍艦、驅逐艦、水雷艇及水雷敷設隊ノ備砲射手ノ部署ニ在リテ射撃ノ成績良好ナル」ヲ「艦砲射擊隊等章ヲ有スル」ニ改ム

第四章第八節全部 削除

第七章 食料及糧食

第七十九條ノ二 左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ食數ニ應シ食料ヲ給ス

一 艦船乗組ノ准士官以上、候補生及文官

二 營舎、學校、病院ニ屯在又ハ宿直スル准士官以上及候補生

三 臺灣ニ在勤スル准士官以上、候補生及文官

第八十條第一號及同條第三號中「練習所」ヲ削リ同條第五號中「准士官以上、候補生及軍屬」ヲ「雇員及傭人」ニ改ム

第八十一條第一號中「第六十五條ニ依リ食卓手當」ヲ「第七十九條ノ二ニ依リ食料」ニ改ム

第八十三條中「練習所ヲ削リ同條及第八十三條ノ二中「糧食」ヲ「食料又ハ糧食」ニ改ム

第八十七條第一號ヲ削ル

第八十九條 第七十九條ノ二及第八十六條乃至第八十八條ノ食料ハ海軍大臣之ヲ定ム

第九十條 艦船航海ヲ爲ストキハ豫定日數以内、其ノ他ノ場合ニ於テハ一箇月分以内ノ食料ヲ前

金渡スルコトヲ得但シ交通不便ノ地方ニ於テ給スル食料ニ限リ六箇月分以内ニ於テ前金渡スルコトヲ得

第一表日給ノ項中乙額ヲ左ノ如ク改ム

第七表末欄第二號中「大尉及驅逐隊」ヲ「大尉並驅逐隊及艇隊」ニ改ム

第十二表ヲ削ル

附則 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東州在勤者海軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤實

關東州在勤者海軍給與令中左ノ通改正ス

第十條 准士官以上、候補生及軍屬艦船中人ニハ食數ニ應シ食料ヲ給ス但シ糧食給與ノ必要アルトキハ之ヲ給スルコトヲ得

軍人軍屬以外ノ者ニ糧食給與ノ必要アルトキハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給スルコトヲ得

第十條ノ二 削除

第十一條 食料ヲ受クル者公務旅行又ハ私事ニ因リ在勤地ヲ離ルルトキハ之ヲ給セス

第十二條 第十條ノ食料ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕文部省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第六十七號(官報三月三十一日)

文部省官制中左ノ通改正ス

第七條中「五八」ヲ「十一」ニ改ム



附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百七十九號文部省官制(明治三十一年十月二十二日)抄錄  
第七條 文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク委任トス學事ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第六十八號(官報 三月三十一日)

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「女子高等師範學校」ヲ「東京女子高等師範學校」ニ改メ同校ノ次ニ「奈良女子高等師範學校」ヲ加ヘ「札幌農學校」ヲ削リ「盛岡高等農林學校」ノ次ニ「鹿兒島高等農林學校」ヲ、「長崎高等商業學校」ノ次ニ「山口高等商業學校」ヲ加ヘ「第七高等學校造士館」ノ次「山口高等商業學校」ヲ削リ「第八高等學校」ヲ加フ  
第十八條ノ二 削除

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第八十六號文部省直轄諸學校官制(明治二十六年八月二十五日官報)抄錄  
第十八條ノ二 札幌農學校ニ農事部長、植物園長及博物館長ヲ置キ同校教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

朕文部省直轄諸學校職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第六十九號(官報 三月三十一日)

文部省直轄諸學校職員定員令中左ノ通改正ス

東京高等師範學校ノ部訓導ノ欄「十九人」ヲ「三十一人」ニ、「廣島高等師範學校ノ部教諭ノ欄「六人」ヲ「八人」ニ、「助教諭ノ欄「五人」ヲ「六人」ニ、「訓導ノ欄「十三人」ヲ「十六人」ニ、「女子高等師範學校」ヲ「東京女子高等師範學校」ニ改メ同校ノ次ニ左ノ如ク加フ

奈良女子高等師範學校	一人	二人	一人	一人	二人
------------	----	----	----	----	----

札幌農學校ノ部ヲ削ル

盛岡高等農林學校ノ部教授ノ欄「十六人」ヲ「十七人」ニ改メ同校ノ次ニ左ノ如ク加フ

鹿兒島高等農林學校 一人 二人 二人 一人

東京高等商業學校ノ部教授ノ欄「三十一人」ヲ「三十四人」ニ、書記ノ欄「九人」ヲ「十人」ニ、長崎高等商業學校ノ部教授ノ欄「十二人」ヲ「十三人」ニ、助教授ノ欄「七人」ヲ「八人」ニ、書記ノ欄「五人」ヲ「六人」ニ改メ同校ノ次ニ山口高等商業學校ノ部ヲ加ヘ第一高等學校ノ部教授ノ欄「三十九人」ヲ「四十二人」ニ、第二高等學校ノ部教授ノ欄「二十六人」ヲ「二十七人」ニ、第三高等學校ノ部教授ノ欄「二十六人」ヲ「二十七人」ニ、第四高等學校ノ部教授ノ欄「二十六人」ヲ「二十九人」ニ、第五高等學校ノ部教授ノ欄「二十七人」ヲ「三十人」ニ、第六高等學校ノ部教授ノ欄「二十六人」ヲ「二十七人」ニ、第七高等學校造士館ノ部教授ノ欄「二十六人」ヲ「二十七人」ニ改メ同校ノ次ニ山口高等商業學校ノ部ヲ削リ左ノ如ク加フ

第八高等學校 一人 十三人 二人 一人 四人

千葉醫學專門學校ノ部教授ノ欄「十六人」ヲ「十七人」ニ、助教授ノ欄「七人」ヲ「八人」ニ、仙臺醫學專門學校ノ部教授ノ欄「十六人」ヲ「十七人」ニ、助教授ノ欄「六人」ヲ「八人」ニ、金澤醫學專門學校ノ部教授ノ欄「十六人」ヲ「十七人」ニ、助教授ノ欄「六人」ヲ「八人」ニ、長崎醫學專門學校ノ部教授ノ欄「十六人」ヲ「十七人」ニ、助教授ノ欄「七人」ヲ「八人」ニ、東京高等工業學校ノ部教授ノ欄「二十八人」ヲ「三十人」ニ、助教授ノ欄「三十六人」ヲ「三十七人」ニ、大阪高等工業學校ノ部教授ノ欄「二十一人」ヲ「二十三」ニ、助教授ノ欄「二十五人」ヲ「二十七人」ニ、熊本高等工業學校ノ部助教授ノ欄「八人」ヲ「十人」ニ、仙臺高等工業學校ノ部教授ノ欄「六人」ヲ「十一人」ニ、助教授ノ欄「八人」ヲ「十一人」ニ、書記ノ欄「四人」ヲ「六人」ニ、東京美術

學校ノ部書記ノ欄「五人」ヲ「六人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國鐵道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
遞信大臣 子爵堀田正養

勅令第七十號(官報三月三十一日)

帝國鐵道廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「六人」ヲ「八人」ニ、「四十人」ヲ「五十八人」ニ、「四十三人」ヲ「六十五人」ニ、「二十七人」ヲ「四十人」ニ、「二百三十人」内九人ハ勅任ト「三百二十一人」内十二人ハ勅任ト「三千五百五十三人」ヲ「五千二百五十八人」ニ、「三千三百二十八人」ヲ「二千七百七十八人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二十六號帝國鐵道廳官制(明治四十年三月十二日官報)抄錄  
第二條 帝國鐵道廳ニ左ノ職員ヲ置ク



朕權太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久  
內務大臣 原 敬  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第七十一號(官報四月一日)

第一條 明治二十五年勅令第十八號ハ權太廳立小學校正教員ニ關シ之ヲ準用ス

第二條 左ニ掲クル年月數ハ正教員在職年數ニ算入スヘシ

- 一 小學校令ノ規定ニ依リ普通免許狀又ハ小學校正教員府縣免許狀ヲ有スル者ニシテ明治四十一年法律第三十五號施行前權太廳立小學校教員ノ職ニ在リタルトキハ其ノ在職ノ年月數
- 二 前號ニ掲クル免許狀ヲ有スル者ニシテ明治四十一年法律第三十五號施行前權太廳立小學校教員ニテ教育ノ事務ニ從事シタルトキハ其ノ在職ノ年月數

第三條 權太廳立小學校教員ノ退隱料及遺族扶助料ノ審査ニ關シテハ學校職員恩給審査規程第二章ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕大藏省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第七十二號(官報四月一日)

大藏省官制中左ノ通改正ス

第一條中「樟腦樟腦油及鹽專賣」ヲ削ル

第二條中「九人」ヲ「八人」ニ改ム

第五條中第十號及第十一號ヲ削ル

第七條中「七人」ヲ「四人」ニ改ム

第八條中「十七人」ヲ「八人」ニ改ム

第九條中「二百十六人」ヲ「百九十八人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百六十九號大藏省官制(明治三十一年十月二十二日)抄録

第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計出納租稅樟腦樟腦油及鹽專賣國債貨幣預金保管物信託及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣都市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏省專任事務官ハ二人專任書記官ハ九人ヲ以テ定員トス

第五條 主税局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

十 樟腦樟腦油ノ製造收納賣渡輸出入及取締ニ關スル事項

十一 鹽ノ製造收納賣渡輸出入及取締ニ關スル事項

第七條 大藏省ニ專任技師七人ヲ置ク技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 大藏省ニ專任技師十七人ヲ置ク技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第九條 大藏省專任員ハ二百十六人ヲ以テ定員トス

朕海軍省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第七十三號(官報四月一日)

海軍省官制中左ノ通改正ス

別表中「四十五」ヲ「五十五」ニ「九十四人」ヲ「百四人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十三年九月十日勅令第九十四號海軍省官制別表中四十五ハ圖九十四人ハ定員ノ合計ナリ

朕統監府及所屬官署職員服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年三月三十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第七十四號(官報四月一日)

統監府及所屬官署職員服制中服制表備考第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八 統監府所屬官署ノ職員ニシテ現業ニ従事スル者ノ略服ハ統監之ヲ定ムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ開港港則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 松田正久

内務大臣 原 敬

外務大臣 伯爵林 董

逓信大臣 子爵堀田正義

勅令第七十五號(官報四月七日)

開港港則中左ノ通改正ス

第一條中口ノ津ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

三池ノ港界ハ北突堤燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圍ノ一弧内

附則

本令ハ明治四十一年四月八日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第三百三十九號開港港則(明治三十一年七月八日官報)抄録

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル開港ノ港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

朕衛生試驗所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

内務大臣 原 敬

勅令第七十六號(官報四月八日)

衛生試驗所官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十九人」ヲ「三十三人」ニ改ム

第七條中「六人」ヲ「九人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第五百五十五號衛生試驗所官制(明治二十三年八月四日官報)抄録

第六條 技手ハ判任トシ專任二十九人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 書記ハ判任トシ專任六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

朕種畜牧場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第七十七號(官報 四月八日)

種畜牧場官制

第一條 種畜牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 牛、羊、豚及家禽ノ改良、蕃殖、育成及其ノ試験並練習ニ關スル事項

二 畜産物ノ製造及其ノ試験並練習ニ關スル事項

三 種牛、種羊、種豚及種禽ノ配付並其ノ監督ニ關スル事項

四 家畜飼料ノ栽培及其ノ試験ニ關スル事項

第二條 種畜牧場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

技師

技手

書記

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ場務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ各種畜牧場ヲ通シテ專任二人ヲ以テ定員トス種畜牧場ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條 技手ハ各種畜牧場ヲ通シテ專任九人ヲ以テ定員トス種畜牧場ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第六條 書記ハ判任トシ各種畜牧場ヲ通シテ專任五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 種畜牧場ノ名稱位置ハ農商務大臣之ヲ定ム

第八條 農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ種畜牧場ノ分場ヲ置クコトヲ得

分場長ハ種畜牧場技師ヲ以テ之ニ充ツ本場ノ事務ヲ分掌ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種畜牧場官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ種畜牧場技師、技手又ハ書記ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用井ス種畜牧場技師技手又ハ書記ニ任セラレタルモノトス

朕統監府通信官署官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第七十八號(官報 四月八日)

統監府通信官署官制中左ノ通改正ス

第六條中「二百八十八人ヲ二百九十四人ニ三十二人ヲ三十七人ニ三百三十二人ヲ三百五十二人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百六十八號統監府通信官署官制(明治三十八年十二月二十一日官報)抄録

第六條 統監府通信官署ニ左ノ職員ヲ置ク

通信長 專任二百八十八人

通信副長 專任三十二人

通信技手 專任三百三十二人

通信手

朕明治四十一年勅令第五十八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

内務大臣 原 敬

勅令第七十九號(官報 四月九日)

明治四十一年勅令第五十八號中「五十六人ヲ六十六人ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五十八號(明治四十一年三月二十六日官報)抄録

樺太廳長官ハ營繕土木拓殖鐵道事業ノ爲臨時ノ需要アル場合ニ於テハ技師五人以内及屬又ハ技手五十六人以内ヲ置クコトヲ得其ノ俸給ハ専業技師ヨリ之ヲ支出ス

朕東北帝國大學農科大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第八十號(官報 四月九日)

東北帝國大學農科大學官制中左ノ通改正ス



第三條中「十二人ヲ十四人ニ改ム」  
 第六條中「十五人ヲ十九人ニ改ム」  
 第七條中「十八人ヲ二十二人ニ改ム」  
 第九條中「十六人ヲ二十四人ニ改ム」  
 「七八人ヲ十二人ニ改ム」

附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百三十七號東北帝國大學農科大學官制(明治四十年六月二十二日官報)抄錄  
 第三條第一項  
 教授ハ專任十二人委任又ハ勅任トシ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス  
 第六條 助手ハ專任十五人判任トシ教授及助教ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス  
 第七條 書記ハ專任十人判任トシ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス  
 第九條第一項  
 農科大學ニ大學豫科、土木工學科、林學科及水産學科ヲ附屬セシメ教授專任十六人助教專任七人ヲ置ク

朕文部省外國留學生規程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月八日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第八十一號(官報四月九日)

文部省外國留學生規程中左ノ通改正ス

第三條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

英吉利國、亞米利加合衆國又ハ清國ニ留學スル文部省外國留學生ニハ留學地ノ情況ニ依リ一年  
 三百六十圓以内ノ學資ヲ増額スルコトヲ得  
 同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
 文部大臣ニ於テ前三項ノ金額ヲ支給スルノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ減額スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第十六號文部省外國留學生規則(明治三十四年三月二十九日官報)抄錄  
 第三條 文部省外國留學生ニハ別表ニ依リ往復旅費、支度料及學資ヲ支給ス但シ數箇國(留學スル者ノ支度料ハ其ノ多キ額ニ依ル)別表掲記以外ノ國ニ留學スル者ニハ學資ハ年額千八百圓以内支度料ハ二百圓以内ニ於テ文部大臣之ヲ定メ其ノ往復旅費ハ外國旅費規則ニ依リ判任官ニ準シ之ヲ支給ス

朕遞信省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月八日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
遞信大臣 子爵堀田正義

勅令第八十二號(官報四月九日)  
遞信省官制中左ノ通改正ス

第九條中「二百八十二人」ヲ「二百九十五人」ニ改ム  
第十條中「百四人」ヲ「百五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百九十五號遞信省官制(明治三十一年十月二十二日)抄録  
第九條 遞信省屬ハ專任二百八十二人ヲ以テ定員トス  
第十條 遞信省ニ專任技手百四人ヲ置ク

朕明治三十六年勅令第二百五十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
遞信大臣 子爵堀田正養

勅令第八十三號(官報四月九日)

明治三十六年勅令第二百五十一號中左ノ通改正ス

第一條中「二十一人」ヲ「二十九人」ニ、「四十六人」ヲ「五十七人」ニ、「四十八人」ヲ「五十三人」ニ、「二千四百

十四人」ヲ「二千四百八十二人」ニ、「四百七十二人」ヲ「五百十九人」ニ、「三千四百六十八人」ヲ「三千五百九

十六人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百五十一號(明治三十六年十二月五日官報)抄録  
第一條 遞信省署職員ノ定員ハ左ノ通トス但シ三等郵便局長ハ定員ノ外トス  
遞信事務官 專任 二十二名  
遞信事務官補 四十六名  
遞信技師 四十八名  
遞信局 專任 二千四百十四人  
遞信技手 專任 四百七十二人  
遞信手 專任 三千四百六十八人

朕航路標識管理所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
遞信大臣 子爵堀田正養

勅令第八十四號(官報四月九日)  
航路標識管理所官制中左ノ通改正ス

第六條中「三十三人ヲ三十四人」ニ改ム  
第七條第一項中「霧警號 二人」ノ次ニ左ノ如ク加フ

通航信號所 各五人  
潮流信號所 各二人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十四號航路標識管理所官制(明治二十六年十月三十一日官報抄録)  
第六條 技手ハ三十三人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ニ關スル技術ニ從事ス  
第七條第一項 看守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス其ノ定員ハ左ノ如シ

朕海事局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
遞信大臣 子爵堀田正養

勅令第八十五號(官報 四月九日)

海事局官制中左ノ通改正ス

第四條中技師ノ下「三十八人ヲ二十九人」「三十四人ヲ三十三人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十二年六月十五 勅令第二百六十三號海事局官制第四條中「三十八人ハ專任技師、三十四人ハ專任技手ノ定員ナリ

朕統監府臨時時間島派出所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第八十六號(官報 四月十日)

統監府臨時時間島派出所官制

第一條 統監府臨時時間島派出所ハ統監ノ管理ニ屬シ間島ニ於ケル韓國臣民ノ保護ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 統監府臨時時間島派出所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 奏任

事務官 專任二人 奏任

技師 專任一人

屬  
技手 通シテ專任五人 判任  
通譯生

- 第三條 所長ハ統監ノ命ヲ承ケ一切ノ所務ヲ掌理ス
- 第四條 事務官ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌リ所長事故アルトキハ臨時其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 第八條 通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通譯ニ從事ス

附則

本令ハ明治四十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府臨時時間島派出所職員官等給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第八十七號(官報 四月十日)

統監府臨時時間島派出所職員官等給與令

- 第一條 統監府臨時時間島派出所所長ノ官等ハ三等又ハ四等トシ統監府臨時時間島派出所事務官ノ官等ハ四等乃至八等トス
- 第二條 統監府臨時時間島派出所所長ノ本俸ハ年額一級二千八百圓二級二千五百圓トシ統監府臨時時間島派出所事務官ノ本俸ニ付テハ統監府及理事廳職員給與令中奏任文官本俸第二號表ヲ準用ス
- 第三條 統監府及理事廳職員給與令第七條ノ規定ハ統監府臨時時間島派出所職員ニ之ヲ準用ス
- 第四條 本令ニ規定セサルモノハ高等官官等俸給令ニ依ル

附則

本令ハ明治四十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ統監府臨時時間島派出所職員特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第八十八號(官報 四月十日)

統監府臨時時間島派出所職員特別任用令

- 第一條 統監府臨時時間島派出所所長ハ文官任用令ノ規程ニ拘ラス陸軍將校中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得
- 第二條 統監府臨時時間島派出所事務官ハ本令施行後一年ヲ限リ統監府ノ囑託ヲ受ケ一年以上間島ニ駐在シ高等行政事務ニ從事シタル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコト

明治四十一年四月 勅令 第八十八號

トヲ得

第三條 統監府臨時時間島派出所屬ハ本令施行後一年ヲ限リ統監府ノ囑託ヲ受ケ一年以上間島ニ駐在シ庶務ニ從事シタル者ノ中ヨリ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ統監府臨時時間島派出所事務官官等ノ初級ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第八十九號(官報四月十日)

統監府臨時時間島派出所職員特別任用令第二條ニ依リ統監府臨時時間島派出所事務官ニ任用スル場合ニ於テハ本令施行後一年ヲ限リ高等官官等俸給令第七條ノ規定ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ統監府臨時時間島派出所長ニ明治四十年勅令第七十五號及第七十六號ヲ準用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第九十號(官報四月十日)

明治四十年勅令第七十五號及第七十六號ハ統監府臨時時間島派出所長ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治四十年三月二十勅令第七十五號ハ統監府警務官官等ノ官警ニ關スル件、同第七十六號ハ陸軍現役將校同相當官ニシテ統監府警務官官等ニ任セラレタル者ニ關スル件ナリ

朕統監府臨時時間島派出所職員ニ特別手當ヲ給與スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第九十一號(官報四月十日)

統監府臨時時間島派出所判任以上ノ職員ニシテ所長タル者ニハ年額二千五百圓以内、其ノ他ノ者ニハ本俸十分ノ五以内ノ特別手當ヲ明治四十三年度限り給スルコトヲ得

前項特別手當ノ額及支給方法ハ統監之ヲ定ム

本令ハ本令施行後一年內ニ任命セラレタル者ニノミ之ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十一年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治三十四年勅令第六十四號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
內務大臣 原 敬

勅令第九十二號(官報四月十五日)

明治三十四年勅令第六十四號中左ノ通改正ス

「奏任官」ノ下(技師)ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十四年四月廿二日勅令第六十四號ハ東京府下及沖繩縣下ノ島嶼ニ在勤スル地方官廳ノ奏任官、判任官及巡查員ニ手當給與ノ件ナリ

朕人口二十萬以上ノ市ニ於ケル兵事事務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第九十三號(官報四月十五日)

徵兵事務條例、陸軍服役條例、陸軍召集條例及海軍召集條例中東京市京都市大阪市ニ關スル規定ハ

區長ヲ戶籍吏ト爲シタル人口二十萬以上ノ市ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕外務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
外務大臣 伯爵林 董

勅令第九十四號(官報四月十七日)  
外務省官制中左ノ通改正ス

第三條中「專任參事官ハ二人」ヲ「專任參事官ハ四人」ニ「七人」ヲ「十人」ニ改ム

第八條中「五十二人」ヲ「六十六人」ニ改ム

第九條中「六人」ヲ「七人」ニ改ム

第十條中「三人」ヲ「四人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百五十八號外務省官制(明治三十一年十月二十二日)抄録

第三條 外務省專任參事官ハ二人專任外務大臣秘書官ハ二人專任書記官ハ七人ヲ以テ定員トス

第八條 外務省關ハ五十二人ヲ以テ定員トス

第九條 外務省ニ翻譯官補六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通辭ニ從事ス

第十條 外務省ニ技手三人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ電信及營業事務ニ從事ス

朕明治二十七年勅令第四百四十一號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月十七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第九十五號(官報四月十八日)

明治二十七年勅令第四百四十一號中左ノ通改正ス

第一條第一項中「其ノ人ヲ要セサル場合」ノ下ニ「教員養成ヲ目的トスル官立府縣立學校ニ入學スル場合」ヲ加フ

同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

第一項中教員養成ヲ目的トスル官立府縣立學校ニ入學スル場合ノ休職及前項ニ依ル休職ノ期間ハ其ノ事故止ミタル後尙三月トシ其ノ他ノ場合ノ休職ノ期間ハ一年トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第四百四十一號(明治二十七年八月九日官報)抄録

第一條 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサル場合其ノ他傷疾疾病等ノ事故アル場合ニ於テハ地方長官ハ

公立學校職員ニ休職ノ命スルコトヲ得

公立學校職員ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス

第一項ニ依ル休職ノ期限ハ一箇年トシ第二項ニ依ル休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

朕海軍高等武官進級條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第九十六號(官報四月二十二日)

海軍高等武官進級條例中左ノ通改正ス  
第十四條第三項ヲ左ノ如ク改ム

進級會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ海軍軍令部長各司令長官ヲ置カサル艦隊ノ首席司令官要港部司令官及海軍大臣ノ指定スル在職將官同相當官ヲ以テ之ヲ組織ス但將官相當官ハ其ノ同系武官ノ進級ニ關スル會議ニノミ參與スルモノトシ司令長官司令官ニシテ遠隔ノ地ニ在ル者ハ海軍大臣ニ於テ之ヲ會議ニ參與セシメサルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ニ依リ指定セル將官ノ參與スヘキ會議ヲ制限スルコトヲ得  
海軍大臣故障ニ因リ進級會議ノ議長タル能ハサルトキハ上席將官其ノ職務ヲ代理ス

〔參照〕

勅令第十號海軍高等武官進級條例(明治二十九年二月十九日官報)抄錄

第十四條第三項

進級會議ハ各司令長官要港部司令官將官會議議員在職ノ各首席總監ヲ以テ組織ス但海軍大臣ハ必要ニ依リ他ノ職員ニ命シ臨時參與セシムルコトヲ得

朕海軍高等武官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第九十七號(官報四月二十二日)

海軍高等武官補充條例中左ノ通改正ス

第二十一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

任用會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ海軍軍令部長各司令長官司令長官ヲ置カサル艦隊ノ首席司令官要港部司令官及海軍大臣ノ指定スル在職將官同相當官ヲ以テ之ヲ組織ス但將官相當官ハ其ノ同系武官ノ任用ニ關スル會議ニノミ參與スルモノトシ司令長官司令官ニシテ遠隔ノ地ニ在ル者ハ海軍大臣ニ於テ之ヲ會議ニ參與セシメサルコトヲ得

海軍大臣ハ前項ニ依リ指定スル將官ノ參與スヘキ會議ヲ制限スルコトヲ得

海軍大臣故障ニ因リ任用會議ノ議長タル能ハサルトキハ上席將官其ノ職務ヲ代理ス

〔參照〕

勅令第三百十四號海軍高等武官補充條例(明治三十年九月十七日官報)抄錄

第二十一條第三項

任用會議ハ各司令長官要港部司令官將官會議議員在職ノ各首席總監ヲ以テ組織ス但シ海軍大臣ハ必要ニ依リ他ノ職員ニ命シ臨時參與セシムルコトヲ得

朕稅務監督局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久



勅令第九十六號(官報 四月二十二日)  
海軍高等武官進級條例中左ノ通改正ス  
第十四條第三項ヲ左ノ如ク改ム

進級會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ海軍軍令部長各司令長官ヲ置カサル艦隊ノ首席司令官要港部司令官及海軍大臣ノ指定スル在職將官同相當官ヲ以テ之ヲ組織ス但將官相當官ハ其ノ同系武官ノ進級ニ關スル會議ニノミ參與スルモノトシ司令長官司令官ニシテ遠隔ノ地ニ在ル者ハ海軍大臣ニ於テ之ヲ會議ニ參與セシメサルコトヲ得  
海軍大臣ハ前項ニ依リ指定セル將官ノ參與スヘキ會議ヲ制限スルコトヲ得  
海軍大臣故障ニ因リ進級會議ノ議長タル能ハサルトキハ上席將官其ノ職務ヲ代理ス

〔參照〕

勅令第十號海軍高等武官進級條例(明治二十九年二月十九日官報)抄錄  
第十四條第三項

進級會議ハ各司令長官要港部司令官將官會議議員在職ノ各首席總監ヲ以テ組織ス但海軍大臣ハ必要ニ依リ他ノ職員ニ命シ臨時參與セシムルコトヲ得

朕海軍高等武官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第九十七號(官報 四月二十二日)

海軍高等武官補充條例中左ノ通改正ス

第二十一條第三項ヲ左ノ如ク改ム

任用會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ海軍軍令部長各司令長官司令長官ヲ置カサル艦隊ノ首席司令官要港部司令官及海軍大臣ノ指定スル在職將官同相當官ヲ以テ之ヲ組織ス但將官相當官ハ其ノ同系武官ノ任用ニ關スル會議ニノミ參與スルモノトシ司令長官司令官ニシテ遠隔ノ地ニ在ル者ハ海軍大臣ニ於テ之ヲ會議ニ參與セシメサルコトヲ得  
海軍大臣ハ前項ニ依リ指定スル將官ノ參與スヘキ會議ヲ制限スルコトヲ得  
海軍大臣故障ニ因リ任用會議ノ議長タル能ハサルトキハ上席將官其ノ職務ヲ代理ス

〔參照〕

勅令第三百十四號海軍高等武官補充條例(明治三十年九月十七日官報)抄錄  
第二十一條第三項

任用會議ハ各司令長官要港部司令官將官會議議員在職ノ各首席總監ヲ以テ組織ス但シ海軍大臣ハ必要ニ依リ他ノ職員ニ命シ臨時參與セシムルコトヲ得

朕稅務監督局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第九十八號(官報 四月二十五日)

稅務監督局官制中左ノ通改正ス

第二條 各稅務監督局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

局長 十八人 奏任

稅務監督官 專任十八人 奏任

稅務監督官補 專任三十九人 奏任

技師 專任十人

屬 專任五百七十四人 判任

技手 專任二百十五人

第七條 稅務監督官ハ各局ニ分屬シ局長ヲ輔佐シ稅務ノ監督ニ從事ス

第七條ノ二 稅務監督官補ハ各局ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第七條ノ二ヲ「第七條ノ二」ニ改ム

第八條中「稅務屬」ヲ「屬」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際在職ノ稅務監督局事務官又ハ稅務監督局稅務屬ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサル

モノハ稅務監督局事務官ハ同官等ノ稅務監督官補ニ、稅務監督局稅務屬ハ稅務監督局屬ニ任セラ

レ其ノ現ニ受クル俸給額ニ相當スル俸給ヲ受クルモノトス

〔參照〕

勅令第二百四十一號稅務監督局官制(明治三十五年十一月一日官報抄録)

第二條 各稅務監督局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

局長 十八人 奏任

事務官 專任五十七人 奏任

技師 專任六人 奏任

稅務屬 專任四百三十三人 判任

技手 專任百二十八人

第七條 事務官ハ各局ニ分屬シ局務ヲ掌ル

朕稅務署官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十四日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 松田正久

勅令第九十九號(官報 四月二十五日)

稅務署官制中左ノ通改正ス

第二條中「七十五人」ヲ「百二十五人」ニ、「稅務屬」ヲ「屬」ニ、「五千三百九人」ヲ「七千二百二十九人」ニ、「二百

八十八人」ヲ「三百七十五人」ニ改ム

第三條及第五條中「稅務屬」ヲ「屬」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際在職ノ稅務署稅務屬ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルモノハ稅務署屬ニ任セラレ其ノ現ニ受クル俸給額ニ相當スル俸給ヲ受クルモノトス

〔參照〕

勅令第二百四十二號稅務署官制(明治三十五年十一月一日官報)抄錄

第二條第一項

各稅務署ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

稅務官

七十五人

稅務屬

專任五千三百九人

技手

專任二百八十八人

奏任  
判任

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第百號(官報 四月二十五日)

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中各省ノ部「稅關鑑定官」ノ次ニ「稅務監督官」ヲ加ヘ「稅務監督局事務官」ヲ「稅務監督官補」ニ改ム

文武高等官官等表中大藏省ノ部四等乃至八等ノ欄「稅關鑑定官」ノ次ニ「稅務監督官」ヲ加ヘ六等乃至九等ノ欄「稅務監督局事務官」ヲ「稅務監督官補」ニ改ム

高等文官官等相當俸給表中「稅關鑑定官」ノ次ニ「稅務監督官」ヲ加ヘ「稅務監督局事務官」ヲ「稅務監督官補」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十一年四月二十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第百一號(官報 四月二十五日)

文武判任官等級表中稅務屬ノ項ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ稅務監督局及稅務署職員特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第三百一號(官報四月二十五日)

稅務監督局及稅務署職員特別任用令

第一條 三年以上高等行政官トシテ稅務ニ從事シタル者ハ本令施行後二年ヲ限リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ稅務監督官ニ任用スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル者ハ當分ノ内文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ稅務監督官補又ハ稅務官ニ任用スルコトヲ得

一 高等行政官トシテ稅務ニ從事シタル者

二 五年以上稅務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受ケ現ニ其ノ職ニ在ル者

第三條 稅務屬ノ職ニ在リタル者ハ稅務監督局屬又ハ稅務署屬ニ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年勅令第二百四十八號、同年勅令第二百四十九號及明治三十六年勅令第一號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十五年十一月一日勅令第二百四十八號ハ稅務監督局事務官及稅務官特別任用令、同第二百四十九號ハ稅務屬特別任用ノ件、同三十六年一月十五日勅令第一號ハ稅務監督局稅務署及專賣局職員特別任用ノ件ナリ

朕明治三十一年勅令第三百十五號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十四日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第三百三號(官報四月二十五日)

明治三十一年勅令第三百十五號中「稅務屬」ヲ「稅務監督局屬、稅務署屬及」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十一年十一月二日勅令第三百十五號ハ稅務屬、專賣局書記俸給ハ明治二十六年勅令第八十二號ヲ適用スルノ件ナリ

朕臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十七日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
內務大臣 原 敬

勅令第四百四號(官報四月二十八日)

臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令中左ノ通改正ス  
第二條中「地方法院判官十五人六級俸以下」ヲ「地方法院判官十七人六級俸以下但シ内二人ヲ四級ニ、俸ト爲スコトヲ得」ニ改ム

「地方法院檢察官五人六級俸以下」ヲ「地方法院檢察官六人六級俸以下」ニ改ム  
第二條ノ二 書記長ハ一人トシ其ノ官等ハ高等官六等乃至八等トシ其ノ年俸ハ別表八級俸以下トス  
附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第三百七十號臺灣總督府法院職員官等俸級及定員令(明治三十二年八月十四日官報)抄録  
第二條 判官檢察官ノ各職ニ付其ノ專任定員及俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ  
地方法院判官 十五人 六級俸以下  
地方法院檢察官 五人 六級俸以下

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府覆審法院書記長特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
內務大臣 原 敬

勅令第五百五號(官報 四月二十八日)  
臺灣總督府覆審法院書記長ハ臺灣總督府法院書記又ハ司法事務ニ從事スル臺灣總督府屬ニシテ五  
年以上其ノ職ニ在リ現ニ判任官ニ級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ  
之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東都督府通信官署ニ於テ現業ニ從事スル者ニ勤勉手當ヲ給スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治四十一年四月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
外務大臣 伯爵林 董

勅令第五百六號(官報 四月三十日)

關東都督府通信官署ニ於テ現業ニ從事スル者ニハ關東都督ノ定ムル所ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコ  
トヲ得

前項ニ依リ勤勉手當ヲ受クル者ニハ明治二十四年勅令第二十七號但書ノ規定ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ千住製絨所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第七號(官報 四月三十日)

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要ノ絨布製造ノ事ヲ掌ル  
官廳又ハ人民ヨリ絨布製造ノ依頼アルトキハ陸軍所要ノ絨布製造事業ニ妨ナキ限り之ニ應スル  
コトヲ得

第二條 千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

事務官

技師

屬

接手

一人

三八

十四人

十七人

第三條 所長ハ勅任又ハ奏任トス

所長ハ現役豫備役又ハ後備役ニ在ル陸軍經理部將官相當官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 所長ハ陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ總理シ所屬土地建物ノ經營ヲ管掌ス

第五條 事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第六條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ製絨ノ技術ヲ掌ル

第七條 屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 接手ハ上官ノ命ヲ承ケ製絨ノ技術ニ従事ス

第九條 第二條ノ職員ノ外軍醫及看護長ヲ千住製絨所ニ附屬シ衛生事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

千住製絨所長特別任用令ハ之ヲ廢止ス

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第八號(官報 四月三十日)

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中陸軍省ノ部二等ノ欄ニ千住製絨所長ヲ加ヘ三等ノ欄ニ千住製絨所長ヲ同上  
ニ改メ四等及五等ノ欄ニ千住製絨所長ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍所屬特別文官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十九日

勅令第百九號(官報四月三十日)

陸軍所屬特別文官俸給令中左ノ通改正ス

第一表中千住製絨所長ノ項ヲ左ノ如ク改ム

千住製絨所長	三千圓	二千四百圓							
--------	-----	-------	--	--	--	--	--	--	--

同表ニ左ノ備考ヲ加フ

備考 陸軍經理部將官相當官ヲ以テ充テタル千住製絨所長ノ年俸ハ三千圓トス

附則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍所屬技師ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第百十號(官報四月三十日)

陸軍所屬ノ技師ハ一人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍士官ニ外國語研究獎勵金ヲ給與スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十九日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第百十一號(官報四月三十日)

外國語ニ熟達スル陸軍士官ニシテ外國ニ赴キ其ノ國語ヲ研究セムトスル者ニハ獎勵金ヲ給與スルコトヲ得

前項獎勵金ノ額其ノ他給與ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治三十六年勅令第十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月二十九日

勅令第三百十二號 (官報 四月三十日)

明治三十六年勅令第十九號中左ノ通改正ス

別表中「千二百圓以内」ヲ「二千圓以内」ニ「六百圓以内」ヲ「八百圓以内」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治三十六年 四月二十九日勅令第十九號ハ清國駐在製鐵所官吏給与ニ關スル件ナリ

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅  
大藏大臣 松田正久

朕在外公館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
外務大臣 伯爵林 董

勅令第三百十三號 (官報 五月一日)

在外公館費用條例中左ノ通改正ス

別表第一號中路ノ欄特命全權大使ノ項ニ「三〇、〇〇〇」、臨時代理大使ノ項ニ「增俸一、一〇〇〇」、大使

館參事官ノ項ニ「一〇、〇〇〇」ヲ加ヘ特命全權公使及臨時代理公使ノ項ヲ削ル

以下

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕内閣所屬廳舎及倉庫新營事務掌理ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久



勅令第百十四號(官報五月一日)

内閣所屬廳舎及倉庫新營事務ハ大藏省臨時建築部ヲシテ之ヲ掌理セシム  
前項ノ事務ヲ施行セシムル爲大藏省臨時建築部ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

技師

專任一人

屬

專任二人

技手

專任五人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治四十一年度歲出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年四月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第百十五號(官報五月一日)

明治四十一年度歲出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途左ノ通之ヲ定ム

退	官	賜	金
死	亡	賜	金
死	傷	手	當

賠償	債	及	訴訟	費
官吏	療	治	料	
旅券	調	製	品	費
外務本省在外公館關東都督府及統監府電信料				
常設仲裁裁判所費分擔金				
在所家屋公課				
在外國難民貸與金				
阿片				
萬國版權及工業所有權保護同盟費分擔金				
衛生試驗所依頼試驗用諸費				
痘苗及血清類調製配送費				
巡查看守衛及警査給助				
巡查及看守滿年賜金				
遺失物取扱並遺失物及相續人曠餘財產收得費				
褒賞恩賜及救助費				
徵兵入營附添人檢丁及新兵旅費				
傳染病豫防費補助				
警察費連帶支辨金				
度量衡檢定出張旅費				

刑事被告人犯罪人護送押送留置及陸軍滿洲刑隊諸費  
 難破物除却費  
 海核病牛撲殺及消毒諸費  
 行政處分強制費  
 小笠原島沖繩縣及樺太廳傳染病豫防費  
 沖繩縣小學校補助費  
 小學校教員恩給補助費  
 精神病患者監護費  
 文官軍人學校職員及巡查看守恩給  
 沖繩縣僧侶飯米代  
 帝國議會議長副議長議員歲費及旅費  
 貴族院及衆議院議案類印刷費  
 稅關官吏及備人臨時勤勞手當  
 從價稅品買上代  
 收容貨物及無請求品費  
 所得稅營業稅及相續稅調查費  
 歲入事務取扱市町村交付金  
 租稅法規及專賣法規違反者並滯納者處分費

印紙鑑札類諸費  
 災害地免租處分費  
 臺灣國庫金並特設金庫貨幣類及補助貨幣遞送費  
 貨幣交換差金  
 仕拂命令及保管金引出切符用紙製造費  
 諸拂戻及缺損補填金  
 煙草及織物輸出交付金  
 罹災救助基金補助金  
 陸軍下士退營賜金  
 埋軍兵器葬  
 陸軍兵器職工扶助金  
 糧軍馬飼養品代  
 廢馬飼養品費  
 供廢兵奉費  
 匪徒鎮定費  
 臺灣及滿洲匪徒討伐其他危險事務從事者一時賜金  
 海軍定期職工滿期賜金  
 海軍遭難服裝手當

海軍	糧食	品	購買	費			
海軍	傳染病	消毒	諸	費			
海軍	依託	患者		費			
海軍	志願兵	家族	扶助	金			
海軍	受託	造修		費			
司法	行政裁判	及陸軍	刑事	臨檢旅費			
執達	吏	補助		費			
違犯	密告	者	給與	費			
裁判	及登記	記	諸	費			
囚徒	及在監	人	諸	費			
萬國	理學	文書	編纂	目錄	出版	費	
萬國	測地	學	協會	加	盟	費	
中央	氣象	臺	委託	電報	料	費	
保安	林	禁伐	補償		費		
萬國	度量	衡	會	費	分	擔	金
獸疫	血	清	製	造		費	
特許	局	審判	及	審查	臨檢	旅	費
國有	林	被	害	諸		費	
萬國	郵	便	電	信	聯	約	費

遞信	事業	用	賈	下	式	紙	及	證	票	類	製	造	費			
爲替	貯	金	受	拂									費			
船舶	及	海員	交付	用	式	紙	製	造					費			
船舶	檢	查	審	判	臨	檢	旅						費			
海員													費			
難	被												費			
航海	及	造	船	獎	勵								費			
關東	都	督	府	守	及	女	監	取	締	並	臺	灣	看	守	俸	給
關東	都	督	府	及	臺	灣	看	守	月	手	當					
關東	都	督	府	並	臺	灣	看	守	被	服	及	帶	具	費		
臺灣	度	量	衡	材	料	購	買							費		
臺灣	醫	院	患	者										費		
臺灣	及	樺	太	通	信	切	手	類	製	造	及	買	屐	費		
臺灣	通	信	事	務	助	力	者	報	酬	金						
臺灣	通	信	料	金	不	納	徵	收						費		
臺灣	鼠	族	買	收										費		
臺灣	獸	疫	豫	防										費		
臺灣	衛	生	防											費		
臺灣	害	蟲	驅	除	豫	防								費		

官報 遞送 費  
 專賣物件並材料品回送及保管費  
 專賣物件 收納賠償及購買費  
 海軍探炭所並製鐵所職工人夫衛生及治療諸費  
 附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治二十六年勅令第九十三號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
 文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第百十六號 (官報 五月二日)  
 明治二十六年勅令第九十三號中左ノ通改正ス  
 醫科大學ノ部「藥物學」ノ下「一講座」ヲ「二講座」ニ、農科大學ノ部「農政學、經濟學」ノ下「一講座」ヲ「二講座」ニ改ム

〔參照〕

明治二十六年九月廿八號勅令第九十三號ハ東京帝國大學各分科大學ニ於ケル講座ノ種類及其數ヲ定ムルノ件ナリ

朕明治二十六年勅令第六十八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月一日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
 文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第百十七號 (官報 五月二日)  
 明治二十六年勅令第六十八號中左ノ通改正ス  
 福岡醫科大學ノ部「解剖學」ノ下「二講座」ヲ「三講座」ニ改メ文科大學ノ部「國史學」ノ前ニ「國語學、國文學」一講座ヲ加ヘ「東洋史學」ノ下「一講座」ヲ「二講座」ニ、西洋文學ノ下「一講座」ヲ「二講座」ニ改メ其次ニ「言語學」一講座、「梵語學、梵文學」一講座ヲ加ヘ理工科大學ノ部「化學」ノ下「五講座」ヲ「六講座」ニ改ム

〔參照〕

明治三十六年三月三十號勅令第六十八號ハ京都帝國大學法科大學醫科大學文科大學及理工科大學ニ於ケル講座ノ件ナリ

朕明治四十年勅令第二百四十號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月一日

勅令第百十八號(官報五月二日)

明治四十年勅令第百四十號中左ノ通改正ス

「農藝化學」ノ下「二講座」ヲ「三講座」ニ「植物學」ノ下「一講座」ヲ「二講座」ニ改ム

〔参照〕

明治四十年六月二十日勅令第百四十號ハ東北帝國大學農科大學ノ講座ニ關スル件ナリ

朕河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スル土地ノ處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第百十九號(官報五月五日)

河川法ノ規定ニ依ラサル河川、水流、水面ニシテ河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スルモノニ付テハ河川法第四條第二項並第四十四條及之ニ基キテ發シタル命令ノ規定ヲ準用ス

朕交通至難ノ島嶼ニ設置シタル專賣官署ニ在勤スル書記、技手及雇員ニ手當給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第百二十號(官報五月五日)

交通至難ノ島嶼ニ設置シタル專賣官署ニ在勤スル書記、技手及雇員ニハ別表定ムル所ニ依リ月手當ヲ給スルコトヲ得其ノ場所及給與細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

官名	金額
書記	十二圓以内
技手	十二圓以内
雇員	十圓以内

朕製鐵所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第三百二十一號 (官報 五月五日)  
製鐵所官制中左ノ通改正ス

第二條中「百五人」ヲ「百十五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十二年 四月廿日 勅令第三百七號製鐵所官制第二條中百五人ハ專任技手ノ定員ナリ

朕臺灣ノ官租調査ノ爲臨時職員設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
內務大臣 原 敬

勅令第三百二十二號 (官報 五月九日)

官租改正調査ノ事務ニ從事セシムル爲臨時臺灣總督府ニ屬十三人ヲ置ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕臺灣總督府郵便局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
內務大臣 原 敬

勅令第三百二十三號 (官報 五月九日)

臺灣總督府郵便局官制中左ノ通改正ス

第四條中「五百二十四人」ヲ「五百三十七人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治四十年 四月三十日 勅令第六十一號臺灣總督府郵便局官制第五條中五百二十四人ハ專任通信員、同通信技手、同通信手ノ定員ナリ

朕臺灣總督府國語學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第二百二十四號 (官報 五月九日)

臺灣總督府國語學校官制中左ノ通改正ス

第五條中「九人」ヲ「十八」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十年七月二十日勅令第二百四十二號臺灣總督府國語學校官制第五條中九人ハ專任教諭ノ定員ナリ

朕臺灣總督府中學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第二百二十五號 (官報 五月九日)

臺灣總督府中學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「二十四人内十七人委任」ヲ「三十二人内二十二人委任」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治四十年五月二十日勅令第二百六號臺灣總督府中學校官制第一條中二十四人内十七人委任ハ專任教諭ノ定員ナリ

朕臺灣總督府ニ於テ鐵道事業ニ必要ナル物件ノ購入ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久  
内務大臣 原 敬

勅令第二百二十六號 (官報 五月九日)

臺灣總督府ニ於テ鐵道事業上必要ナル諸材料、車輛、器具、機械、機械運轉用品、被服及旅館ノ營業上必要ナル物品ヲ購入スル場合ニハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕北海道廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第二百二十七號(官報五月九日)

北海道廳官制中左ノ通改正ス

第六條中「二十八」ヲ「三十四人」ニ改ム

第七條中「四百二十八」ヲ「四百三十三人」ニ、「二百五十八」ヲ「二百三十一人」ニ改メ第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ明治四十一年度ニ於テ技手二十八ヲ増置スルコトヲ得

第八條中「五人」ヲ「七人」ニ改ム

第四十一條 管内須要ノ地ニ營林區署ヲ置キ營林區署ノ下ニ營林區分署ヲ置ク

營林區署及營林區分署ノ位置名稱及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第四十二條 營林區署長ハ技師營林區分署長ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

營林區署長及營林區分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百三十九號北海道廳官制(明治三十八年四月十九日官報)抄録

第六條 技師ハ專任二十二人ヲ以テ定員トス

第七條 屬視學、醫部及通譯ハ判任トス

屬警部ハ通シテ四百二十八人視學ハ八人技手ハ二百五人通譯ハ二人ヲ以テ定員トス

第八條 前各條ノ定員ノ外農事試驗ニ關スル職員ヲ置ク其ノ定員ハ專任技師四人及專任技手五人トス

朕地方官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第二百二十八號(官報五月九日)

地方官官制中左ノ通改正ス

第五條中「八十八」ヲ「百一人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



〔參照〕

勅令第四百十號地方官制(明治三十八年四月十九日官報)抄錄  
第五條 事務官補、警視、技師、技手及通譯ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ陞ク但シ事務官補ハ二人、警視ハ警察部ニ屬スル者ハ大阪府ハ二人、其ノ他ノ府縣ハ一人、警視署長ニ充ツル者ハ各府縣ヲ通シテ八十八人ヲ超ユルコトヲ得ス

朕明治三十七年勅令第二十八號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第二百二十九號(官報五月九日)

明治三十七年勅令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十七年四月廿二日勅令第二十八號ハ臨時取締ノタメ長崎縣ニ警視及警部設置ノ件ナリ

朕明治三十八年勅令第二百二十九號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第三百三十號(官報五月九日)

明治三十八年勅令第二百二十九號ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十八年四月廿二日勅令第二百二十九號ハ臨時取締ノタメ府縣ニ警部設置ノ件ナリ

朕石油消費税法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月十二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第三百三十一號(官報五月十三日)

石油消費税法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕判事檢事官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月十二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
司法大臣 男爵千家尊福

勅令第三百三十二號(官報五月十三日)

判事檢事官等俸給令中左ノ通改正ス

第二條中「六百四十三人」ヲ「六百五十九人」ニ「二百一人」ヲ「二百十五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十二年四月十八日勅令第五百三十三號判事檢事官等俸給令第二條中六百四十三人ハ區裁判所判事二百一人ハ區裁判所檢事局檢事ノ定員ナリ

朕裁判所書記長書記定員及俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月十二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
司法大臣 男爵千家尊福

勅令第三百三十二號(官報五月十三日)

裁判所書記長書記定員及俸給令中左ノ通改正ス

第二條中「三千九百四十八人」ヲ「三千九百九十一人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治二十六年十月三十日勅令第七十七號裁判所書記長書記定員及俸給令第二條中三千九百四十八人ハ區裁判所及區裁判所檢事局裁判所書記ノ定員ナリ

朕明治三十九年勅令第四百二十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月二十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
外務大臣 伯爵林 董

勅令第三百三十四號(官報五月二十一日)

明治三十九年勅令第四百二十二號中左ノ通改正ス

第八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

總裁及副總裁事故アルトキハ政府ハ理事ノ一人ヲシテ總裁ノ職務ヲ代理セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十九年六月八日勅令第四百四十二號ハ南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件ナリ

朕巡查給與品及貸與品規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月二十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第三百三十五號(官報 五月三十一日)

巡查給與品及貸與品規則中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外土地ノ狀況ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ得テ防寒具、脚絆及ゲートルヲ給與スルコトヲ得

第二條 巡查ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 帽徽章
- 一 肩章
- 一 領章

一刀

一刀緒

一刀帶

一 外套及被服ノ鈕釦及釦

一 帽頭紐留

一 外套締革

一 手帖

一 捕繩

一 呼子笛

前項ノ外水上警察署勤務ノ巡查ニハ短刀及短刀帶ヲ、乘馬勤務ノ巡查ニハ拍車ヲ貸與ス

第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

乘馬勤務ノ巡查ニハ短袴及長靴ヲ給シ袴及短靴ヲ給セス短袴ハ冬服ニ在リテハ上衣一著ニ付二著ヲ以テ一組トシテ之ヲ給シ長靴ハ其ノ使用期限ヲ十二箇月トシ二足ヲ給ス

乘馬勤務ニ非サル巡查ニモ短袴ヲ給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ上衣一著ニ付袴及短袴各一著ヲ以テ一組トス但シ土地ノ狀況ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ得テ短袴ヲ貸與品ト爲スコトヲ得  
防寒具、脚絆及ゲートルノ給與員數及使用期限ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ廳府縣長官之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百三十九號巡査給與品及貸與品規則(明治三十年十月二日官報)抄録  
第一條 巡査ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 帽
  - 一 冬服
  - 一 夏服
  - 一 甲種外套
  - 一 乙種外套
  - 一 日笠
  - 一 下襟
  - 一 手套
  - 一 冬肌著
  - 一 夏肌著
  - 一 靴下
  - 一 靴
  - 一 長靴
  - 一 短靴
- 第二條 巡査ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ
- 一 帽章
  - 一 肩章
  - 一 劍緒
  - 一 劍帶
  - 一 外套及被服ノ釦
  - 一 外套締革
  - 一 手帖
  - 一 抽繩
  - 一 呼子笛
- 前項ノ外乘馬ノ巡査ニハ拍車ヲ貸與ス
- 第四條第二項 乘馬ノ巡査ニハ長靴ニ足ヲ給シ其ノ使用期限ヲ十二箇月トス但シ短靴ヲ給セス

朕臨時假名遣調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月二十三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第三百三十六號(官報 五月二十五日)

臨時假名遣調査委員會官制

- 第一條 臨時假名遣調査委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ國語及字音ノ假名遣ニ關スル事項ヲ調査ス
- 第二條 臨時假名遣調査委員會ハ委員長一人及委員二十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス  
委員長及委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第三條 臨時假名遣調査委員會ニ主事一人ヲ置キ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス  
主事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第四條 臨時假名遣調査委員會ニ書記二人ヲ置キ文部省判任官中ヨリ文部大臣之ヲ命ス  
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法中主務大臣及領事官ノ管掌ニ屬スル事項ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月二十六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯  
外務大臣 伯爵林 董

勅令第三百三十七號(官報五月二十七日)  
在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法中主務大臣及領事官ノ管掌ニ屬スル事項ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ關東都督之ヲ行フ

朕明治三十六年勅令第二十三號ヲ關東都督府通信官署ニ準用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月二十八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

外務大臣 伯爵林 董  
逓信大臣 子爵堀田正養

勅令第三百三十八號(官報五月二十九日)

明治三十六年勅令第二十三號ハ關東都督府通信官署ニ之ヲ準用ス其ノ取扱ニ關スル規程ハ關東都督大藏大臣及逓信大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十六年三月十四日勅令第二十三號ハ郵便電信電話官署ノ現金受拂ニ關スル件ナリ

朕臨時脚氣病調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年五月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第三百二十九號(官報六月一日)

臨時脚氣病調査會官制

第一條 臨時脚氣病調査會ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ脚氣病ノ防遏ニ關シ必要ナル諸般ノ研究ヲ行フ

第二條 臨時脚氣病調査會ハ會長一人委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ陸軍省醫務局長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ左ニ列記スル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

本職アル陸軍衛生部將校相當官

本職アル海軍軍醫官

帝國大學醫科大學教授、同助教授

傳染病研究所職員

醫師

第三條 特別ノ事項ヲ調査スル爲必要アルトキハ前條定員ノ外臨時委員ヲ置クコトヲ得

第四條 委員及臨時委員ハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

明治四十一年六月 勅令 第三百二十九號

第五條 會長ハ會務ヲ總理シ議事ヲ整理シ會ノ調査決定シタル事項ヲ陸軍大臣ニ報告ス  
會長故障アルトキハ陸軍大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第六條 臨時脚氣病調査會ハ豫メ調査方針及議事規則ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 臨時脚氣病調査會ハ官廳官公立ノ學校病院製造所、陸軍所屬ノ部隊、海軍所屬ノ艦隊、地方自治體及日本赤十字社等ニ調査上必要ノ資料ヲ求ムルコトヲ得

第八條 臨時脚氣病調査會ニ幹事一人ヲ置ク

幹事ハ本職アル陸軍軍醫正又ハ軍醫ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條 委員及臨時委員ニハ年額四百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 臨時脚氣病調査會ニ書記三人以内ヲ置キ陸軍屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 書記ハ會長及幹事ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十三條 委員及臨時委員ニハ鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則ノ例ニ依リ旅費ヲ給シ  
其ノ會議ノ爲特ニ上京シタル者ニハ開會中三圓以内ノ日當ヲ給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕韓國森林特別會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 松田正久

勅令第四百四十號(官報 六月三日)

韓國森林特別會計規則中左ノ通改正ス

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

資本勘定ニ在リテハ韓國森林經營ノ爲一般會計ヨリ支出スル資金及韓國政府分擔金並資本所屬物件ノ賣拂代ヲ以テ其ノ歳入トシ土地、船舶、機械、重要ナル器具ノ購入費及工作物ノ建設費ヲ以テ其ノ歳出トス

第三條ノ二 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及資本勘定現計表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添附スヘシ

第四條 受拂勘定ハ收益勘定ニ屬スル歳入ノ收入濟額、收入未濟額、現金ノ持越高、總生産品ノ價格及作業場用總備品ノ價格ヲ以テ受入トシ其ノ歳出ノ支出濟額、支出未濟額、資本勘定繰換借額、賣拂代價收入濟木材ノ價格及損失ニ歸シタル木材ノ價格ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ事業上ノ益金トシ韓國森林特別會計法第三條ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

附則

本令ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第八十八號韓國森林特別會計規則(明治四十年三月三十日官報)抄錄

第二條第一項

資本勘定ニ在リテハ韓國森林經營ノ爲一般會計ヨリ支出スル資金及韓國政府分擔金並資本所屬物件ノ賣拂代ヲ以テ其ノ  
撥入トシ韓國森林作業開始ノ諸費用及將來事業擴張ニ要スル費用ヲ以テ其ノ撥出トス  
第四條 撥入ノ收入濟額收入未濟額資本ニ屬スル現金ノ持越高、總生産品ノ價格、土地家屋營造物ノ價格及船舶器具機械ノ  
價格ヲ以テ受入トシ、撥出ノ支出濟額、支出未濟額、資本額、賣拂代價收入濟木材ノ價格及損失ニ歸シタル木材ノ價格ヲ以テ  
撥出トシ受入ノ總額ヨリ撥出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ事業上ノ益金トシ韓國森林特別會計法第三條ニ依リ之ヲ取  
扱フヘシ

朕明治三十九年勅令第十九號廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第四百四十一號(官報 六月三日)

明治三十九年勅令第十九號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十九年六月九日勅令第十九號ハ明治三十七八年戰役ニ關スル武功調査ノ爲海軍省臨時職員増置ノ件ナリ

朕東京帝國大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第四百四十二號(官報 六月三日)

東京帝國大學官制中左ノ通改正ス

第一條中「書記官」ノ次ニ「事務官」ヲ、「學生監」ノ次ニ「司書官」ヲ、「書記」ノ次ニ「司書」ヲ加フ

第三條ノ二 事務官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ分掌ス

第四條中「一人」ヲ「二人」ニ改ム

第四條ノ二 司書官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記録及閱覽ニ  
關スル事務ヲ掌理ス

第五條ノ二 司書ハ專任八人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記録ノ整理、保存  
及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス

第七條中「百三十四人」ヲ「百二十八人」ニ改ム

第十一條ノ二 醫科大學附屬醫院藥局ニ藥局長ヲ置キ醫科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

藥局長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

第十六條中「助教授」ヲ「助教授又ハ司書官」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



〔參照〕

勅令第二百十號東京帝國大學官制(明治三十年六月二十二日官報)抄録

第一條 東京帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

學生監

書記

第四條第一項

學生監ハ專任一人奏任トス

第七條第一項

教授ハ專任百三十四人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

第十六條第一項

東京帝國大學附屬圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授助教ヨリ文部大臣之ヲ補ス

朕京都帝國大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第四百四十三號(官報 六月三日)

京都帝國大學官制中左ノ通改正ス

第一條中「書記官」ノ次ニ「事務官」ヲ、「學生監」ノ次ニ「司書官」ヲ、「書記」ノ次ニ「司書」ヲ加フ

第三條中「二人」ヲ「一人」ニ改ム

第三條ノ二 事務官ハ專任二人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ分掌ス

第四條ノ二 司書官ハ專任一人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記録及閱覽ニ關スル事務ヲ掌理ス

第五條中「三十人」ヲ「三十二人」ニ改ム

第五條ノ二 司書ハ專任五人判任トス上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記録ノ整理、保存及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス

第七條中「九十八人」ヲ「百五人」ニ改ム

第十一條ノ二 醫科大學附屬醫院ニ藥局長專任二人ヲ置ク奏任トス

藥局長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院藥局ノ事務ヲ掌理ス

第十二條中「助教」ヲ「助教及ハ司書官」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百十一號京都帝國大學官制(明治三十年六月二十二日官報)抄録

第一條 京都帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

舍監

書記

第三條 書記官ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第五條第二項  
京都帝國大學及分科大學書記ハ通計專任三十人ヲ以テ定員トス  
第七條第一項  
教授ハ專任九十八人委任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス  
第十二條第一項  
京都帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

朕帝國大學高等官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第四百四十四號(官報六月三日)  
帝國大學高等官等俸給令中左ノ通改正ス  
第一條第四項中「帝國大學學生監」ヲ「帝國大學事務官、帝國大學學生監、帝國大學司書官及帝國大學醫科大學附屬醫院藥局長」ニ改ム  
第三條第四項中「農場長」ノ下ニ「藥局長」ヲ加フ  
別表中「帝國大學學生監」ヲ「帝國大學事務官、帝國大學學生監、帝國大學司書官、帝國大學醫科大學附屬醫院藥局長」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百二十二號帝國大學高等官等俸給令(明治三十年六月二十二日官報)抄録  
第一條第四項  
帝國大學學生監ハ高等官四等以下八等以上トス但シ兼任學生監ハ本官ノ官等ニ從フ  
第三條第四項  
教授ニシテ分科大學長醫院長ニ補セラレタル者ニハ本俸八百圓以內天文部長ニ補セラレタル者ニハ本俸六百圓以內教授助教ニシテ臨海實驗所長植物園長演習林長農場長又ハ圖書館長ニ補セラレタル者ニハ本俸四百圓以內ヲ加給スルコトヲ得

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

勅令第四百四十五號(官報六月三日)  
文武判任官等級表中左ノ通改正ス  
「史料編纂書記」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

帝國大學司書 同 帝國大學司書 同 帝國大學司書 同 帝國大學司書 同  
帝國大學司書 同 帝國大學司書 同 帝國大學司書 同 帝國大學司書 同

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕工業試験所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第四百四十六號(官報 六月三日)  
工業試験所官制中左ノ通改正ス  
第二條中「九人」ヲ「十人」ニ「三人」ヲ「四人」ニ改ム

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十三年 六月四日 勅令第二百五十八號 工業試験所官制第二條中九人ハ專任技師、三人ハ專任書記ノ定員ナリ

朕蠶業講習所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第四百四十七號(官報 六月三日)  
蠶業講習所官制中左ノ通改正ス

第八條中「十四人」ヲ「十九人」ニ「十九人」ヲ「二十五人」ニ「七人」ヲ「十人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十二年 三月三十日 勅令第八十九號 蠶業講習所官制第八條中十四人ハ專任技師、十九人ハ專任技手、七人ハ專任書記ノ定員ナリ

朕明治二十三年勅令第三十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月三日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第四百四十八號(官報 六月四日)

明治二十三年勅令第三十二號中「在外公館」ヲ「在外各廳」ニ「公館借料」ヲ「建物借料」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

勅令第三十二號(明治二十三年三月十九日官報)  
在外公館經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得  
租 稅 區要其他雜稅 公館借料

朕北海道國有未開地處分法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久  
内務大臣 原 敬  
司法大臣 男爵千家尊福

勅令第四百四十九號(官報六月十一日)

北海道國有未開地處分法ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕北海道國有未開地處分法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久  
内務大臣 原 敬

勅令第五百五十號(官報六月十一日)

北海道國有未開地處分法施行規則

第一條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ土地ハ之ヲ公示ス但シ一區域五町步未滿ノモノハ此ノ限ニ在ラス  
第二條 土地ノ賣拂又ハ貸付ハ競争ニ付セス但シ行政廳ニ於テ必要ト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
第三條 土地ノ賣拂又ハ貸付面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但シ前ニ賣拂ヲ受ケタル土地ノ事業ヲ成功シタル者ニ對シテハ其ノ面積ヲ通算セス

- 一 耕作ニ供スル土地 五百町步
  - 二 牧畜ニ供スル土地 八百町步
  - 三 植樹ニ供スル土地 八百町步
  - 四 特定地 十町步
  - 五 其ノ他ノ目的ニ供スル土地 十町步
- 會社組合其ノ他共同シテ事業ヲ經營セムトスル者ニ對シテハ其ノ資産及人員ニ應シ前項面積ノ五倍迄累加スルコトヲ得
- 第四條 賣拂ヒ又ハ貸付シタル土地ノ事業成功期間ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
- 一 十町步未滿 五年
  - 二 三十町步未滿 八年

三 三十町歩以上

十年

植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ付テハ前項期間ノ二倍トス

第五條 特定地ヲ設定シタルトキハ之ヲ公示ス

特定地ハ戸主又ハ成年者ニ限り之ヲ貸付シ貸付許可ノ翌月ヨリ六月以内ニ其ノ土地又ハ其ノ附近ニ移住シ事業成功ニ至ル迄引續キ居住シタルトキハ之ヲ付與ス

前項ノ規定ハ本令施行前貸付シタル土地ニ關シテハ之ヲ適用セス

第六條 耕作、牧畜又ハ植樹ニ供スル土地ヲ賣拂フ場合ニ於テ其ノ價額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但シ競争ニ付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 耕作ニ供スル土地

一町歩ニ付金四圓五十錢

二 牧畜ニ供スル土地

一町歩ニ付金三圓

三 植樹ニ供スル土地

一町歩ニ付金一圓五十錢

第七條 賣拂フヘキ土地ニ可用立木アルトキハ別ニ其ノ價額ヲ定メ土地ト共ニ之ヲ賣拂フモノトス但シ耕作又ハ牧畜ニ供スル土地ニ在リテハ其ノ材積ノ十分ノ二分ハ之ヲ付與ス

第八條 耕作ヲ目的トスル土地ニ在リテハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ十分ノ一以内ヲ防風林、風

致林又ハ薪炭用材林ト爲スコトヲ得

第九條 土地ノ賣拂又ハ貸付ヲ受クヘキ者ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

明治四十一年六月十五日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

內務大臣 原 敬

勅令第五百一十一號(官報 六月十六日)

臺灣總督府地方官官制中左ノ通改正ス

第三條中「千五百八十四人」ヲ「千六百十四人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十四年十一月十日勅令第二百二號臺灣總督府地方官官制第三條中千五百八十四人ハ專任廳判任官ノ定員ナリ

朕專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十五日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望

大藏大臣 松田正久

勅令第五百五十二號(官報六月十六日)

專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則中左ノ通改正ス

第一條ノ二 鹽專賣法第十九條第一項第三號ニ依リ特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スハ左ノ場合ニ限ル

一 鹽賣捌入ニ非サル者一回一萬斤以上鹽ノ賣渡ヲ請求シタルトキ

二 鹽元賣捌入カ大藏大臣ノ定ムル制限價格以內ニ於テ鹽ノ販賣ヲ爲ササルトキ

第五條第二項中又ハ鹽務局長ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ルヲ「國債證券、地方債證券又ハ專賣局長官ノ指定シタル株式會社ノ株券若ハ債券ニ限ル」ニ改ム

第六條中「特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ニシテ第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用セラルルモノヲ」第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ニ改ム

第七條中「變性ヲ施シタル鹽」ヲ「變性ヲ施シタル鹽及第一條ノ二ニ依リ賣渡ヲ受ケタル鹽」ニ改ム

第八條 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル目的ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ賣渡鹽專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ但シ外國ニ輸出スル者又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル者ニ讓渡セムトスルトキハ讓受人ノ連署ヲ要ス

第六條ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ニシテ第一條第二號乃至第五號ノ用途中相互ノ變更ニ付テハ前項ノ出願ヲ要セス賣渡鹽專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用シ又ハ使用スル者ニ讓渡スルノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ第六條ノ規定

ヲ準用ス

第九條 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ヲ外國輸出及第一條ノ用途以外ニ供スルコトヲ許可スルトキハ鹽專賣官署ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト第一條ノ二ニ依ル定價トノ差額及其ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第十六條第一項中「特別定價ヲ以テ」ヲ「外國ニ輸出スル爲又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲」ニ改メ「特別定價ト一般定價トノ差額及其ノ十分ノ一」ヲ「其ノ定價ト第一條ノ二ニ依ル定價トノ差額及其ノ五分ノ二ニ改ム

第十七條中「及前條」ヲ「第十六條及第二十一條ノ二」ニ改ム

第十九條中「一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽」ヲ「鹽專賣法第十八條又ハ本令第一條ノ二ニ依リ賣渡シタル鹽」ニ改メ第一號及第三號中「一般定價」ヲ「第一條ノ二ニ依ル定價」ニ改ム

第二十一條ノ二 第十九條第二號ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚類ヲ輸入シタルトキハ輸入港稅關ニ於テ其ノ輸入者ヨリ交付金ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第二十三條ノ二 前條第三項ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ヲ第一條第二號乃至第五號以外ノ目的ニ供セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ其ノ地所轄ノ鹽專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ

第一條第二號乃至第五號ノ用途中相互ノ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ其ノ鹽ヲ外國輸出及第一條ノ用途以外ニ供スルコトヲ許可スルトキハ第九條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケスシテ其ノ目的ヲ變更シタル者ニ付テハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

第二條乃至第四條第十條第十一條第十三條乃至第十五條及第十六條第二項中「特別定價ヲ以テ」ヲ削ル

「鹽務局」ヲ「鹽專賣官署」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五百五十七號專賣鹽特別定價渡及交付金下付規則(明治三十八年五月九日官報)抄録

第五條 外國ニ輸出シ又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ賣渡請求者ヲシテ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ニ依リ提供スヘキ擔保物ハ金錢又ハ鹽務局長ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

第六條 特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ニシテ第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用セララルモノニ付テハ鹽務局ハ其ノ用途ニ從ヒ買受人ノ費用ヲ以テ鹽ノ重量百ニ對シ左ノ割合以上左記物品ノ一ヲ混和シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

第七條第一項

第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用スル爲變性ヲ施シタル鹽ヲ除クノ外特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ運搬シ又ハ貯藏スルトキハ其ノ他ノ鹽ト之ヲ區別スヘシ

第八條 特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ賣渡鹽務局ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ

外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用スルノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第九條 特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ヲ外國輸出及第一條ノ用途以外ニ使用スルコトヲ許可スルトキハ鹽務局ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ特別定價ト一般定價トノ差額ヲ追徴ス

外國ニ輸出スル爲特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ヲ第一條ノ用途ニ使用スルコトヲ許可スルトキハ鹽務局ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ各特別定價ノ差額ヲ追徴ス

第十六條第一項

特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ特別定價ト一般定價トノ差額及其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第十七條

第九條第十二條第十五條及前條ノ追徴金ニ關シテハ國稅徵收法及國稅徵收法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第十九條 一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ左ノ目的ニ供シタル者ハ左ノ割合ヲ以テ交付金ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

一 外國ニ輸出シタルトキ

輸出鹽ニ對スル特別定價ト一般定價トノ差額

三 第一條第一號第二號第四號及第五號ノ用途ニ使用シタルトキ

使用鹽ニ對スル各特別定價トノ差額

朕執達吏懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十五日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
司法大臣 男爵千家尊福

勅令第五百五十三號(官報六月十六日)

執達吏懲戒令

第一條 執達吏ノ懲戒ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免職

二 二年以下ノ停職

三 譴責

第三條 免職及停職ハ文官普通懲戒委員會ノ議決ニ依リ司法大臣之ヲ行フ  
譴責ハ司法大臣之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國大學事務官、帝國大學司書官及帝國大學司書特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十五日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第五百五十四號(官報六月十六日)

帝國大學事務官、帝國大學司書官及帝國大學司書特別任用令

第一條 帝國大學事務官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ニ限リ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

- 一 教育行政ニ關スル高等文官ノ職ニ在リタル者
- 二 三年以上教育行政ニ關スル奏任官待遇ノ職ニ在リタル者

三 五年以上教育行政ニ關スル判任官ノ職ニ在リ現ニ二級俸以上ノ俸給ヲ受クル者  
第二條 帝國大學司書官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ニ限リ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

- 一 教育又ハ圖書ニ關スル高等文官ノ職ニ在リタル者
- 二 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル奏任官待遇ノ職ニ在リタル者
- 三 五年以上教育又ハ圖書ニ關スル判任官又ハ判任官待遇ノ職ニ在リ現ニ六十圓以上ノ月俸ヲ受クル者
- 四 圖書ニ關シ特別ノ學藝技術ヲ有スル者

第三條 帝國大學司書ハ圖書ニ關シ學術經驗アル者ニ限リ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕在外公館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
外務大臣 伯爵林 董



勅令第五百五十五號 (官報 六月十九日)

在外公館費用條例中左ノ通改正ス

別表第一號中「墨」選ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

墨	選
一、二、〇〇〇	一〇、〇〇〇
七、〇〇〇	六、五〇〇
五、〇〇〇	四、五〇〇
四、五〇〇	三、六〇〇
四、〇〇〇	三、〇〇〇
三、二〇〇	二、四〇〇
二、五〇〇	一、八〇〇
以下	以下

同號中「瑞」ノ欄ノ下ニ左ノ如ク加フ

智
---

別表第二號ニ左ノ如ク加フ

ニコラエウスク	五、〇〇〇	二、四〇〇	以下	一、八〇〇	以下	三、〇〇〇
齊齊哈爾	三、六〇〇	一、五〇〇	以下	一、二〇〇	以下	二、二〇〇
鐵嶺	三、五〇〇	一、四〇〇	以下	一、〇〇〇	以下	二、〇〇〇
遼陽	三、五〇〇	一、四〇〇	以下	一、〇〇〇	以下	二、〇〇〇
ポートランド	六、〇〇〇	三、〇〇〇	以下	二、七〇〇	以下	四、〇〇〇
漢堡	六、〇〇〇	三、〇〇〇	以下	二、六〇〇	以下	四、〇〇〇
パタピヤ	四、二〇〇	一、八〇〇	以下	一、四〇〇	以下	二、四〇〇

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕在外公館職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
外務大臣 伯爵林 董

勅令第五百五十六號(官報 六月十九日)

在外公館職員定員令中左ノ通改正ス

第一條中「三十二人」ヲ「三十四人」ニ、「四十二人」ヲ「四十五人」ニ、「百二十八人」ヲ「百三十五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第二百八十一號(在外公館職員定員令(明治三十二年六月二十日官報)抄錄)

第一條 外交官、領事官、貿易事務官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、外務書記生及外務通譯生ノ定員ハ左ノ如シ

大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ三十二人

總領事、領事、副領事、貿易事務官ハ通シテ四十三人  
外務書記生、外務通譯生ハ通シテ百二十八人

朕專賣局現業員ノ共済組合ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久

勅令第五百五十七號(官報 六月十九日)

明治四十年勅令第二百二十七號ハ專賣局所屬雇員以下ノ現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニ之ヲ

運用ス但シ政府ノ給與額ハ組合員ノ給料總額ノ千分ノ十三ニ當ル金額ヲ限度トス

附則

本令ハ明治四十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國大學並學校及圖書館資金所屬不動産賣渡ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月十八日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
大藏大臣 松田正久  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第五百五十八號(官報 六月十九日)  
東京帝國大學、京都帝國大學並文部省直轄諸學校及帝國圖書館ノ資金ニ屬スル不動産ヲ直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲公共團體又ハ起業者ニ賣渡ス場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕臺灣總督府農事試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第五百五十九號(官報 六月二十三日)

臺灣總督府農事試驗場官制

第一條 臺灣總督府農事試驗場ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル  
一 農産ノ増殖改良ノ試験ニ關スル事項  
二 農事調査ニ關スル事項  
三 農事、林業及獸醫術ノ講習ニ關スル事項  
四 種苗、蠶種、種畜及種禽ノ配布ニ關スル事項  
五 土壤肥料、農産物、農産製造品其ノ他農業上ニ關係アル物料ノ分析、鑑定及調査ニ關スル事項

六 農事ノ指導及講話ニ關スル事項  
第二條 臺灣總督府農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

- 場長
- 主事
- 技師 專任 六人 奏任
- 書記 專任 三人 判任
- 技手 專任 十九人 判任
- 第三條 場長ハ臺灣總督府殖産局長ヲ以テ之ニ充ツ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ總理ス
- 第四條 主事ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ場長ヲ佐ケ場長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
- 第八條 臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ支場ヲ置クコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治二十四年勅令第三號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十二日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
内務大臣 原 敬

勅令第六十號(官報 六月二十四日)

明治二十四年勅令第二號中左ノ通改正ス

第一條中「各省」ノ下ニ「樺太廳」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三號(明治二十四年六月七日官報)抄錄  
第一條 各省北海道廳及府縣廳ハ其所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表フ

朕外國在勤警部巡查任用及支給規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十四日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
外務大臣 伯爵林 董

勅令第六十一號(官報 六月二十五日)

外國在勤警部巡查任用及支給規則中左ノ通改正ス

第九條中「七十五圓」ヲ「百二十圓」ニ、「二十五圓」ヲ「四十圓」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

在勤月手當ハ警部及巡查カ休暇中其ノ任地ヲ離レタル場合ト雖外務大臣ノ定ムル期間仍之ヲ支給スルコトヲ得

第十一條ノ二 警部ノ妻ニハ左ノ場合ニ限り前條第二號ノ規定ニ從ヒ警部ニ給スヘキ人馬船車料

ヲ給ス但シ旅行中死亡ノ場合ニハ前條第七號ノ規定ニ從ヒ之ヲ給ス

一 赴任、公用歸朝及賜暇歸朝ノ際同伴スルトキ

二 同伴セサルモ任地ニ往返スルトキ但シ警部カ任地ニ於テ死亡ノ場合ヲ除クノ外同一任地ニ

係ルトキ往返各一回限リトス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第十四號外國在勤警部巡查任用及支給規則(明治二十五年二月三日官報)抄錄

第九條 外國在勤警部及巡查ニハ月俸ノ外任地著翌日ヨリ任地出發前日マテ在勤月手當ヲ給ス其金額左ノ如シ

警部 一箇月七十五圓以内  
巡查 一箇月二十五圓以内

朕外國駐在陸軍武官給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十四日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第六十二號(官報 六月二十五日)

外國駐在陸軍武官給與令中左ノ通改正ス

別表備考ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ駐在員取締將官ナルトキハ日額十圓トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十七日

- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 陸軍大臣 子爵寺內正毅
- 農商務大臣 松岡康毅
- 海軍大臣 男爵齋藤實
- 大藏大臣 松田正久
- 内務大臣 原敬
- 文部大臣 男爵牧野伸顯
- 外務大臣 伯爵林 董
- 司法大臣 男爵千家尊福
- 逓信大臣 子爵堀田正養

勅令第六十三號(官報 六月二十九日)

刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十七日

- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第六十四號(官報 六月二十九日)

陸軍刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十七日

- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第六十五號(官報 六月二十九日)

海軍刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年六月 勅令 第六十四號 第六十五號

朕肥料取締法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十七日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第百六十六號(官報 六月二十九日)  
肥料取締法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕林區署官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第百六十七號(官報 七月一日)  
林區署官制中左ノ通改正ス

第二條中「十九人」ヲ「二十二人」ニ「三十二人」ヲ「三十九人」ニ「十四人」ヲ「二十二八」ニ「八百九八」ヲ「九百六十七人」ニ改ム

別表中鹿兒島大林區署ノ頂管轄區域ノ欄「宮崎縣」ノ下ニ「沖繩縣」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十六年<sup>日官報</sup>勅令第百四十五號林區署官制第二條中十九人ハ專任山林事務官、三十二人ハ專任山林技師、十四人ハ專任山林事務官補、八百九十八專任山林屬山林技師ノ定員ナリ

朕明治二十九年勅令第五十八號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月三十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第六十八號(官報七月一日)

明治三十九年勅令第五十八號中「三八」ヲ「二八」ニ「五人」ヲ「四人」ニ「六十六人」ヲ「六十三人」ニ改ム  
ト「九百八十二人」ヲ「八百八十八人」ニ改ム  
内一人ヲ勅  
ト爲スコ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

- 勅令第五十八號(明治三十九年三月三十一日)抄録
- 山林事務ニ從事セシムル爲メ農商務省及林區署ニ臨時左ノ職員ヲ置ク
- 山林局書記官 專任 三人 奏任
- 山林事務官 專任 五人 奏任
- 山林技師 專任 六十六人 奏任
- 山林區 專任 九百八十二人 判任
- 山林技手

朕明治三十九年勅令第五十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年六月二十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
農商務大臣 松岡康毅

勅令第六十九號(官報七月一日)

明治三十九年勅令第五十九號中「十七人」ヲ「十九人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

- 勅令第五十九號(明治三十九年三月三十一日)抄録
- 足尾園有林復舊ニ關スル事業ノ爲メ林區署ニ臨時左ノ職員ヲ置キ東京大林區署ニ屬セシム
- 山林技手 專任 十七人

朕海軍軍屬文官從軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第七十號(官報七月六日)

海軍軍屬文官從軍服制中左ノ通改正ス  
劔及劔帶ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

短劍 海軍將校通常禮服用ノモノニ同シ但シ口輪及小尻ノ模様ヲ除ク  
 附則第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
 制服ハ必要ト認ムル場所ニ限リ平時ニ於テモ亦之ヲ著用セシムルコトヲ得  
 同第三項ヲ左ノ如ク改ム  
 制服著用者ノ範圍及平時著用ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム

朕海軍監獄長海軍監獄看守長及海軍監獄看守服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月四日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
 海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第七十一號(官報 七月六日)

海軍監獄長海軍監獄看守長及海軍監獄看守服制別表ノ通定ム

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍監獄看守長海軍監獄看守ハ明治四十三年五月二十一日迄舊制服ヲ混用スルコトヲ得

(別表)

海軍監獄長服制表

禮		服				正				
上	地	刀	刀	帽	袴	衣	胴	衣	上	
製	地	結	帶		製	鈕	地	肩	鈕	
式	質	式	式	式	式	式	質	章	式	
正服ニ同シ	紺羅紗又ハ紺「セルジ」	正服ニ同シ	正服ニ同シ	文官大禮服奏任官ノモノニ同シ	普通ノ製式同ノ如シ	紺羅紗	普通ノ製式同ノ如シ	長サ五寸七分總サ座幅三寸之ニ銀ノ監獄章一箇ヲ附ス肩當幅二寸トス總サ座肩當ノ周圍及襟花ヲ銀色トシ他ハ總テ金線製トス總サ數二十二長サ二寸三分周圍一寸圓形トス同ノ如シ	長「ジャケット」製堅襟胸一重際シハ二箇又ハ三箇トス同ノ如シ	紺羅紗
		幅一寸四分黑草製ニシテ鈎緒二條ヲ附ス幅各七分五厘長サ一條ハ二尺一寸他ノ一條ハ一尺一寸トス又前章ニ鍍金ノ監獄章及鈕ヲ附ス同ノ如シ	平織ノ金線ニシテ長サ二尺八寸幅四分トス其ノ兩端ヲ束ネテ總サヲ附ス總サハ帶共ニ長サ二寸三分總サノ中央ニ鈎徑一寸一分同ノ如シ	柄白鯨長サ五寸、鞘黑草長サ二尺三寸乃至二尺八寸、鏝、胴輪及小尻ニ草草模様ヲ附ス同ノ如シ	普通ノ製式同ノ如シ	紺羅紗	普通ノ製式同ノ如シ	金色櫻花徑七分五箇一行同ノ如シ	長「ジャケット」製堅襟胸一重際シハ二箇又ハ三箇トス同ノ如シ	紺羅紗



職		務		服		夏	
衣	鈕	袴	地	刀	刀	上	略
肩章	鈕	衣	質	結	帶	衣	地質
紺羅紗製長サ約四寸幅一寸六分トシ兩側上面ニ幅二分ノ余線一條ヲ附シ中央上部ニ幅一分ノ銀線波形二條銀ノ櫻花一箇及幅一分ノ銀線製監獄章ヲ附ス又頸ニ近ク金色櫻花徑五分ノ鈕一箇ヲ附ス圖ノ如シ	正服ニ同シ	正服ニ同シ但シ地質紺羅紗又ハ紺「セルジ」	紺羅紗	正服ノモノニ同シ	正服ノモノニ同シ	地質白布又ハ白毛織他ハ職務服ニ同シ	職務服帽ニ白布ヲ覆フ
紺羅紗製長サ約四寸幅一寸六分トシ兩側上面ニ幅二分ノ余線一條ヲ附シ中央上部ニ幅一分ノ銀線波形二條銀ノ櫻花一箇及幅一分ノ銀線製監獄章ヲ附ス又頸ニ近ク金色櫻花徑五分ノ鈕一箇ヲ附ス圖ノ如シ	正服ニ同シ	正服ニ同シ但シ地質紺羅紗又ハ紺「セルジ」	紺羅紗	正服ノモノニ同シ	正服ノモノニ同シ	地質白布又ハ白毛織他ハ職務服ニ同シ	職務服帽ニ白布ヲ覆フ
圓形ニシテ黑色ノ前底及支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ幅ハ幅ニ於テ各一箇ノ鈕ニ以テ留メ裾ノ周圍ニ幅一寸三分ノ黒毛條ヲ縫フ圖ノ如シ	前草ハ高サ一寸五分幅二寸金色櫻葉、銀色波形二條及監獄章ヲ附ス圖ノ如シ	正服ニ同シ但シ地質紺羅紗又ハ紺「セルジ」	紺羅紗	正服ノモノニ同シ	正服ノモノニ同シ	地質白布又ハ白毛織他ハ職務服ニ同シ	職務服帽ニ白布ヲ覆フ
圓形ニシテ白色ノ機帶及支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ幅ハ幅ニ於テ各一箇ノ鈕ニ以テ留メ裾ノ周圍ニ幅一寸三分ノ黒毛條ヲ縫フ圖ノ如シ	前草ハ高サ一寸五分幅二寸金色櫻葉、銀色波形二條及監獄章ヲ附ス圖ノ如シ	正服ニ同シ但シ地質紺羅紗又ハ紺「セルジ」	紺羅紗	正服ノモノニ同シ	正服ノモノニ同シ	地質白布又ハ白毛織他ハ職務服ニ同シ	職務服帽ニ白布ヲ覆フ
紺羅紗	正服ニ同シ	正服ニ同シ但シ地質紺羅紗又ハ紺「セルジ」	紺羅紗	正服ノモノニ同シ	正服ノモノニ同シ	地質白布又ハ白毛織他ハ職務服ニ同シ	職務服帽ニ白布ヲ覆フ

外		雨		考	
地質	製式	鈕	袖	肩	章
紺羅紗	頭巾附折襟胸ニ重後面ノ裾ヲ割キ及後面腰部ニ帶結ヲ附シ其ノ部ニ七箇ノ鈕ヲ附ス又前面左右ノ腰部ニ各一箇ノ隱シヲ附ス圖ノ如シ	金色櫻花徑八分六箇宛ニ行	幅一分ノ白色ノ線一條ヲ附ス	職務服ニ同シ	職務服ニ同シ
紺羅紗	頭巾附折襟胸ニ重後面ノ裾ヲ割キ及後面腰部ニ帶結ヲ附シ其ノ部ニ七箇ノ鈕ヲ附ス又前面左右ノ腰部ニ各一箇ノ隱シヲ附ス圖ノ如シ	金色櫻花徑八分六箇宛ニ行	幅一分ノ白色ノ線一條ヲ附ス	職務服ニ同シ	職務服ニ同シ
紺羅紗	頭巾附折襟胸ニ重後面ノ裾ヲ割キ及後面腰部ニ帶結ヲ附シ其ノ部ニ七箇ノ鈕ヲ附ス又前面左右ノ腰部ニ各一箇ノ隱シヲ附ス圖ノ如シ	金色櫻花徑八分六箇宛ニ行	幅一分ノ白色ノ線一條ヲ附ス	職務服ニ同シ	職務服ニ同シ

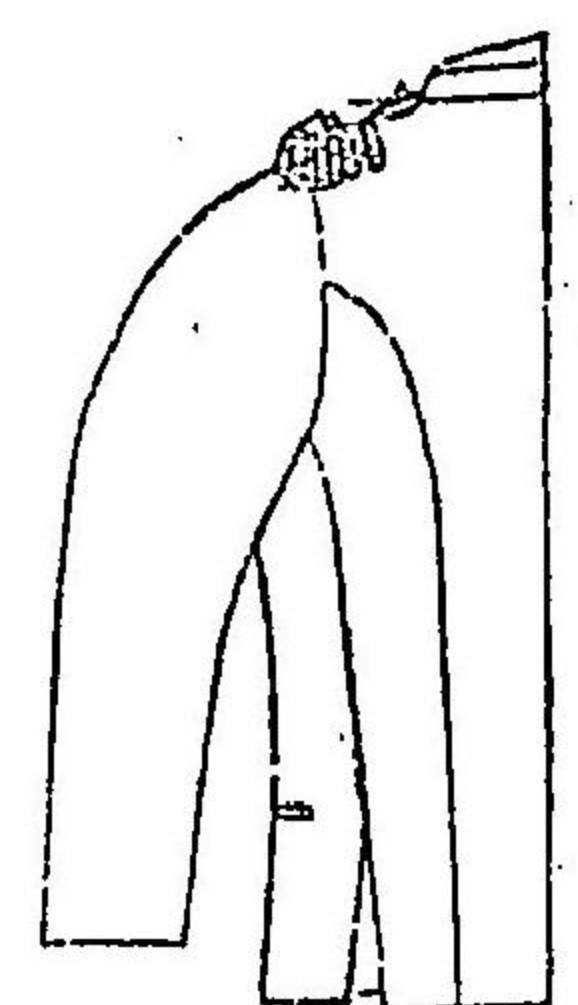
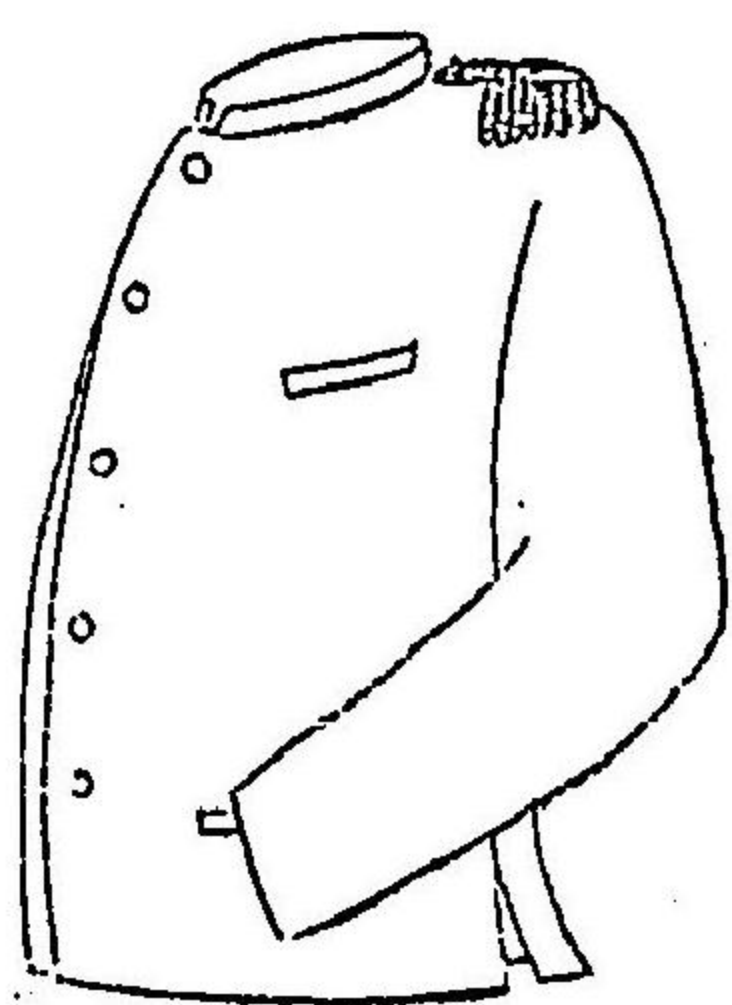
海軍監獄看守長及海軍監獄看守服制表

海軍監獄看守長		海軍監獄看守	
地質	製式	鈕	鈕
紺羅紗又ハ紺「セルジ」	長シヤケット製襟胸一重、隱シハ二箇又ハ三箇トス圖ノ如シ	金色櫻花徑七分五箇一行圖ノ如シ	同
紺「セルジ」又ハ紺綾木綿	同	同	上

袴	夏				刀	刀	刀	帽				袴		
	製	地	肩	鈕				製	地	鈕	散	製	地	製
式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	式	
引連合羽製圖ノ如シ	白リンネル又ハ晒綾木綿	衣ニ同シ	長ジャケット製堅襟胸一重左右下部ニ各一箇ノ隠シヲ附ス	白リンネル又ハ晒綾木綿	草固有色長サ三尺ニ寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總サヲ附ス圖ノ如シ	分銀色ノ櫻花ヲ附ス圖ノ如シ	柄黒革眞鍮輪卷キ長サ五寸輪黒革長サ二尺三寸鈔頭胸輪及小尻金色圖ノ如シ	金色櫻花徑五分	高サ一寸七分幅一寸四分ノ楕圓形金ノ索環内ニ幅一分ノ銀線波形二條及監獄章ヲ附ス圖ノ如シ	留ム圖ノ如シ	圓形ニシテ黑色ノ前庇及支革ヲ附シ支革ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ各一箇ノ鈕釦ヲ以テ留ム圖ノ如シ	紺羅紗	普通ノ製式圖ノ如シ	紺羅紗又ハ紺「セルジ」
同	晒綾木綿	同	同	晒綾木綿	同	寸五分銀色ノ櫻花ヲ附ス圖ノ如シ	柄黒革眞鍮輪卷キ長サ五寸輪黒革長サ二尺三寸鈔頭眞鍮輪ノ如シ	同	同	同	同	同	紺「セルジ」又ハ晒綾木綿	紺羅紗製長サ約四寸幅一寸六分トシ兩側上中央ニ幅一分ノ銀線波形二條及監獄章ヲ附ス又頭ニ近ク金色櫻花徑五分ノ鈕釦一箇ヲ附ス圖ノ如シ
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

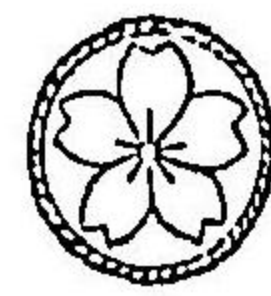
海軍監獄長

正服上衣

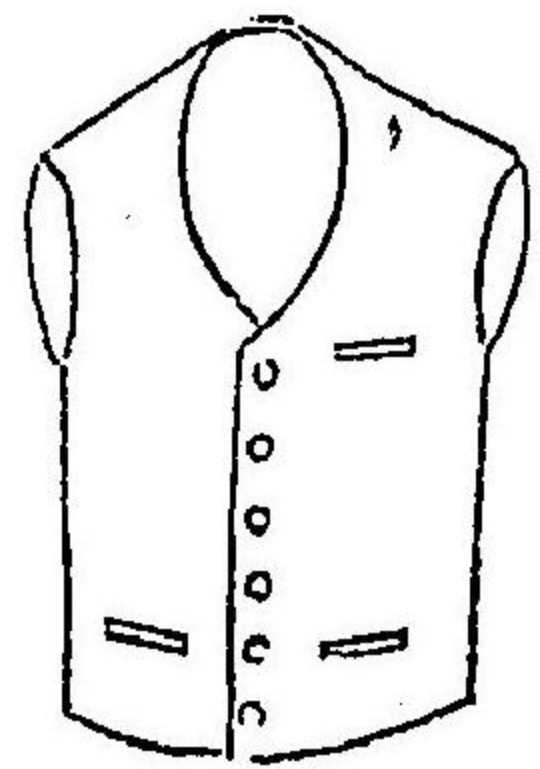


套外短		套外				夏
製	地	肩	袖	鈕	製	
式	式	式	式	式	式	式
引連合羽製圖ノ如シ	紺羅紗又ハ紺「セルジ」	衣肩章ニ同シ	幅一分ノ白絨線一條ヲ附ス	金色櫻花徑八分五箇宛ニ行	頭巾折襟胸ニ重後帯ヲ附シ左右下部ニ各一箇ノ隠シヲ附ス圖ノ如シ	紺羅紗
同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上

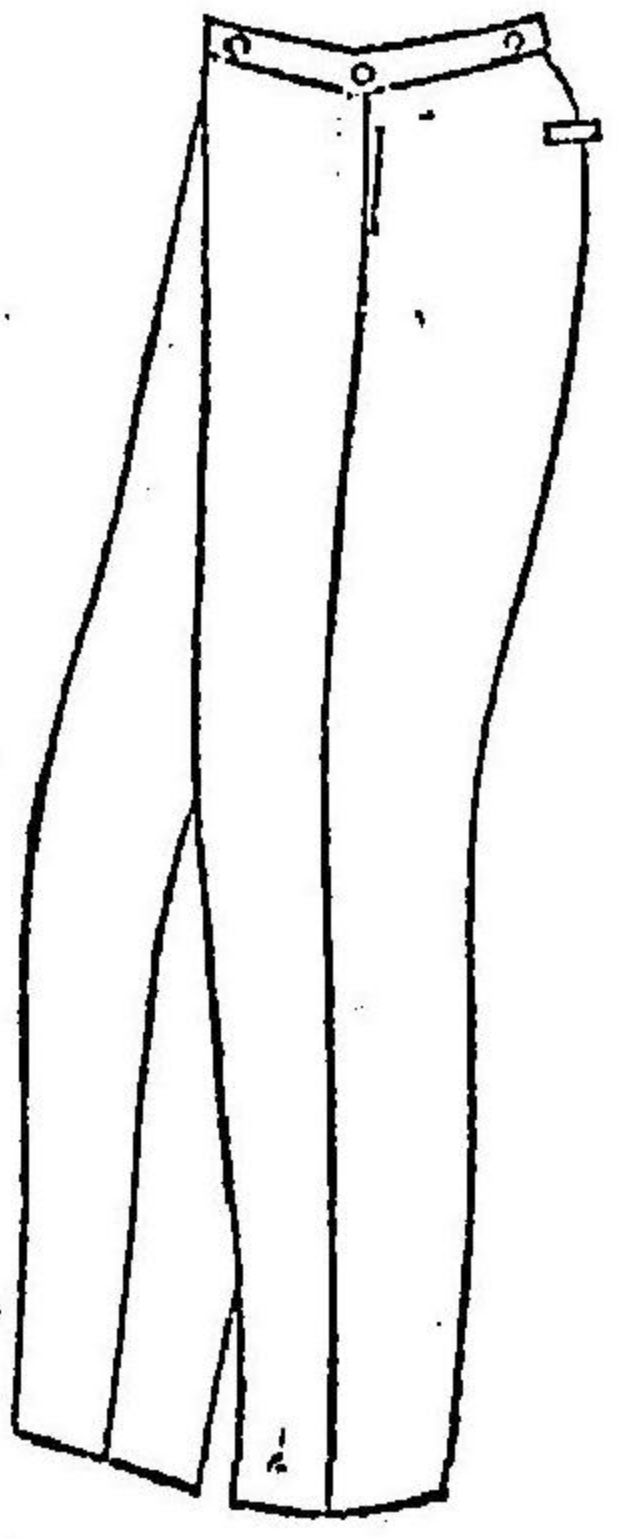
鈕釦



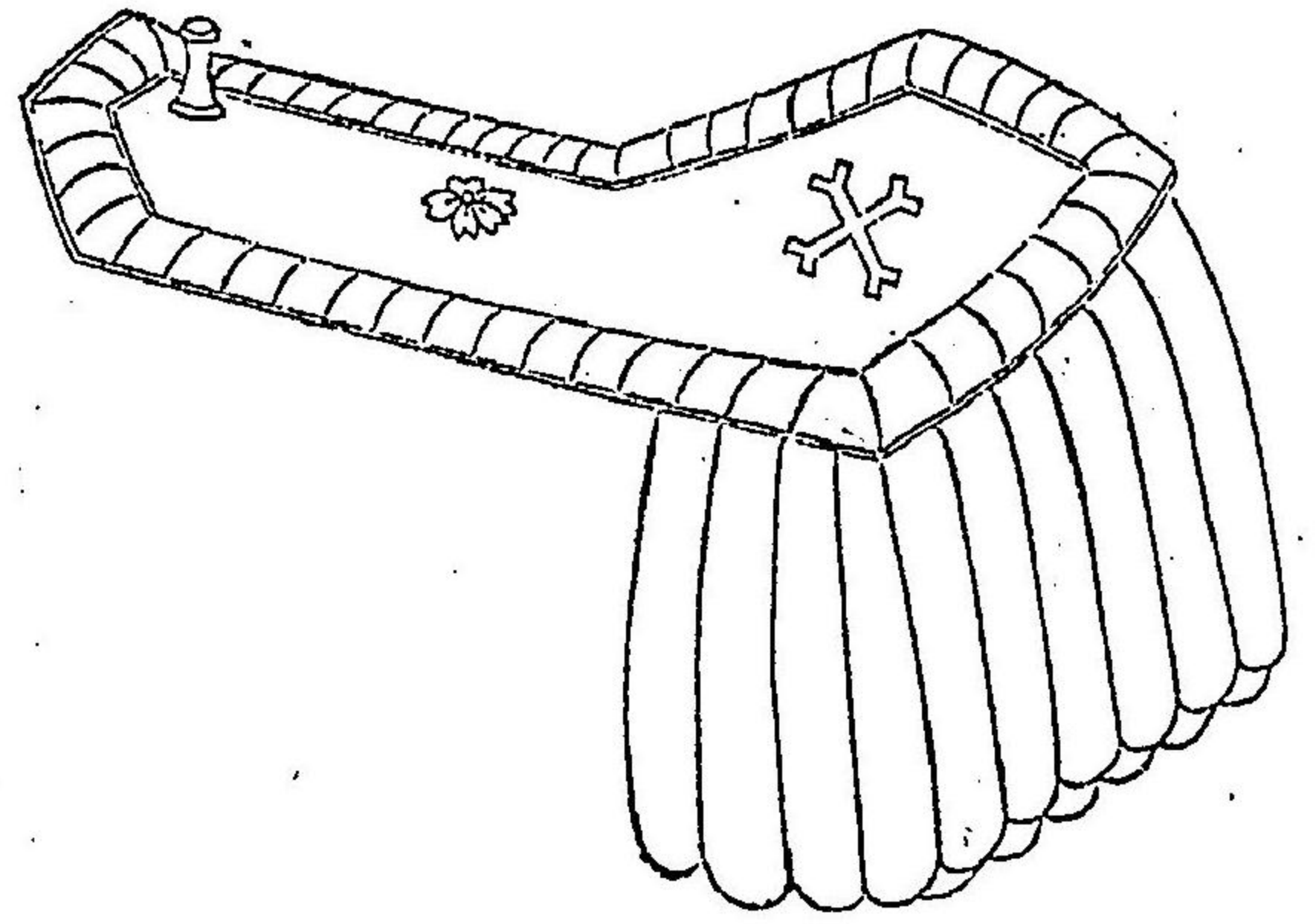
胴衣



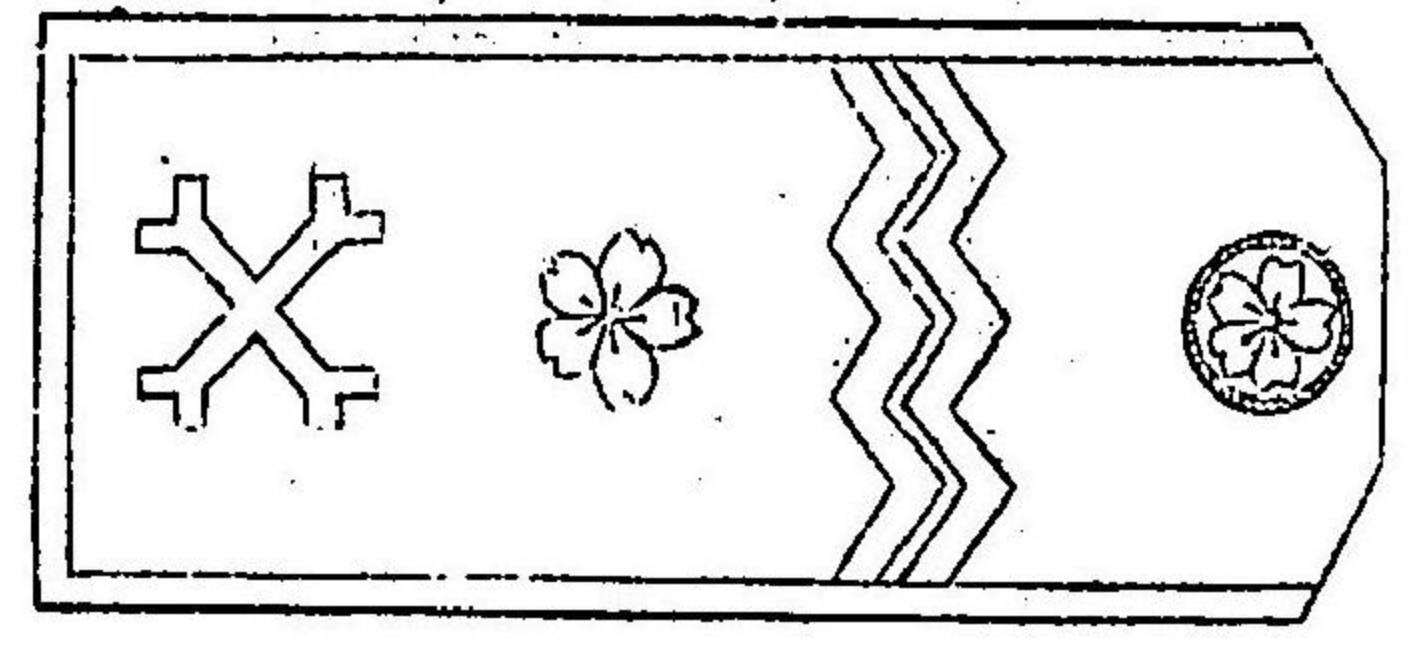
袴

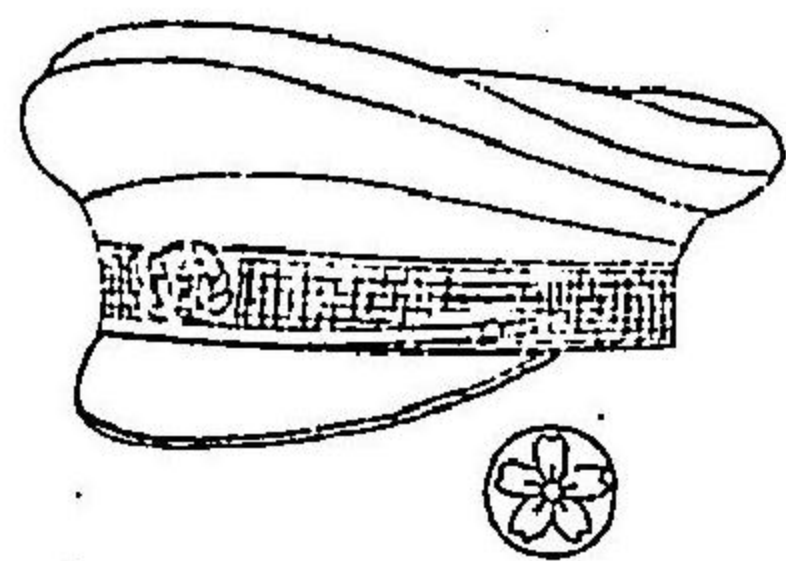


正服肩章

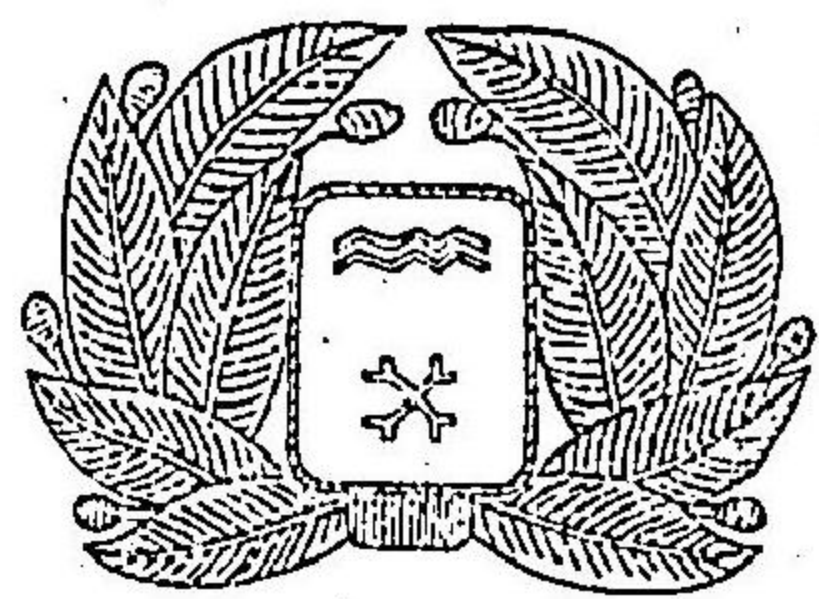


職務服肩章

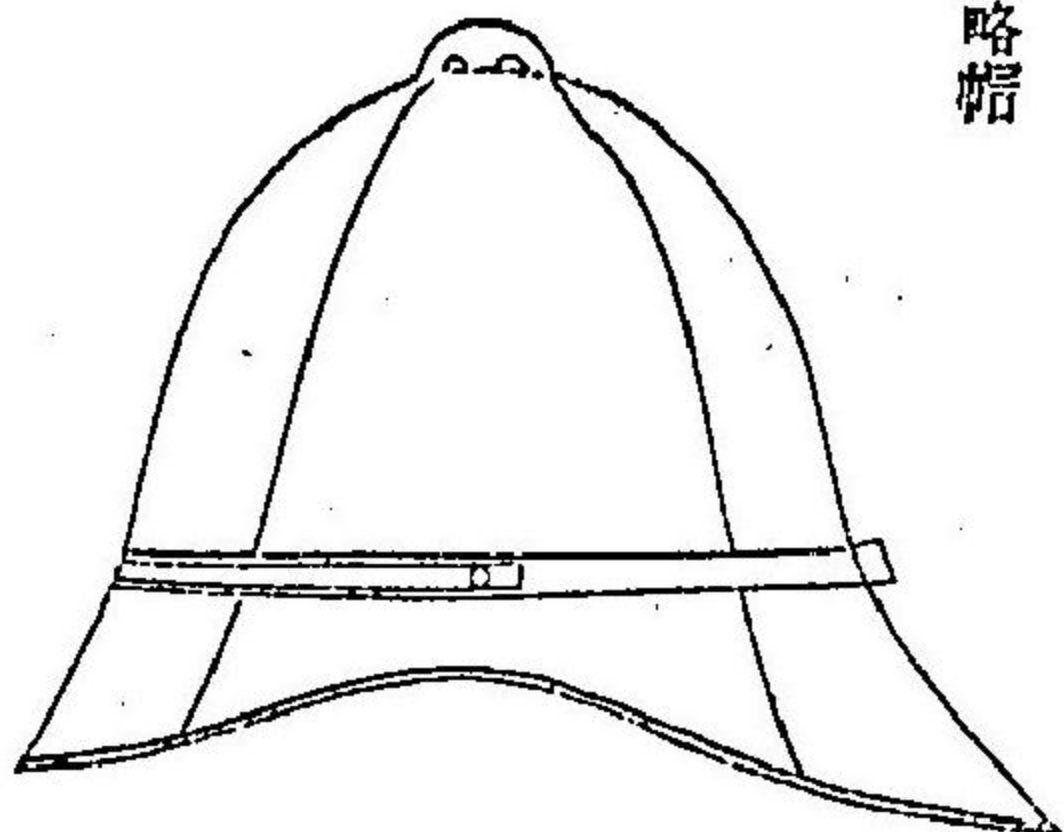




職務服帽

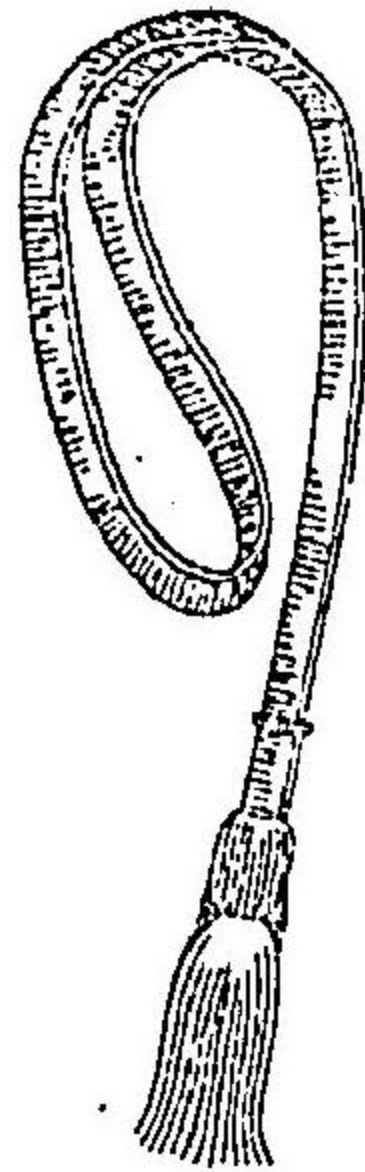


職務服帽徽章

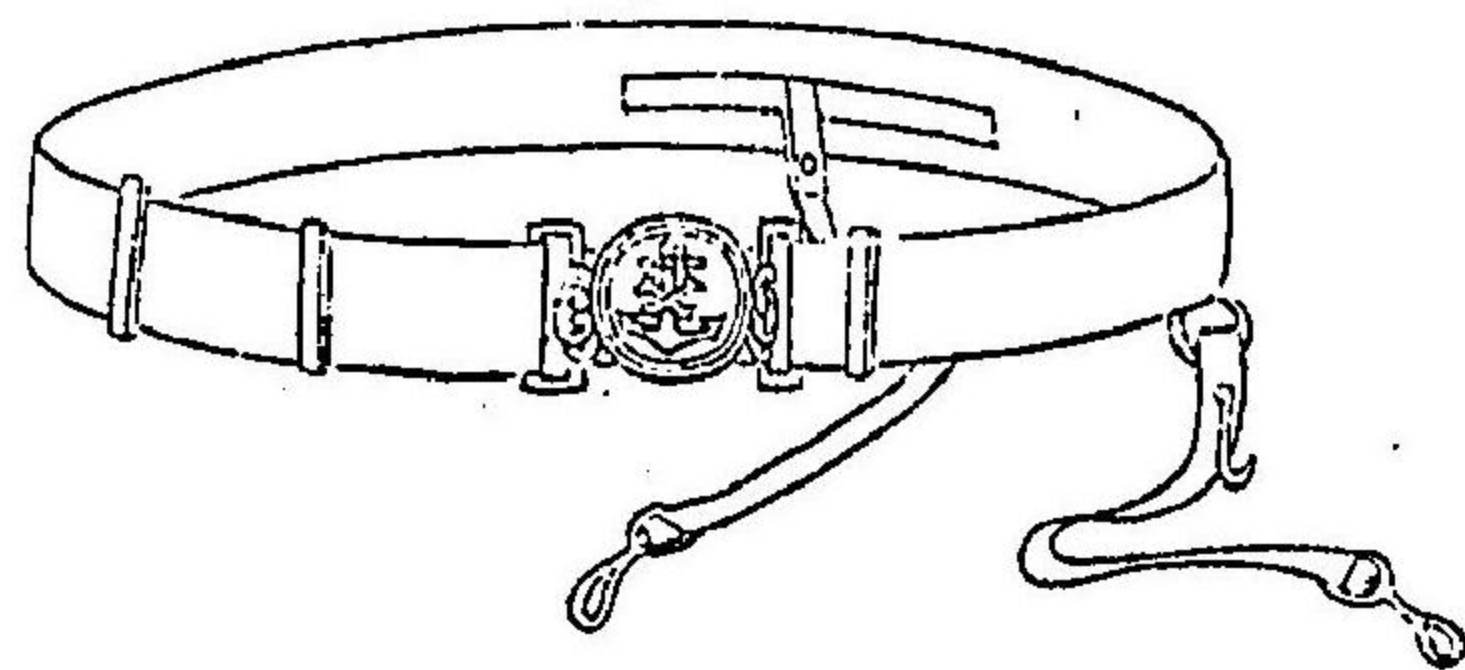


夏服略帽

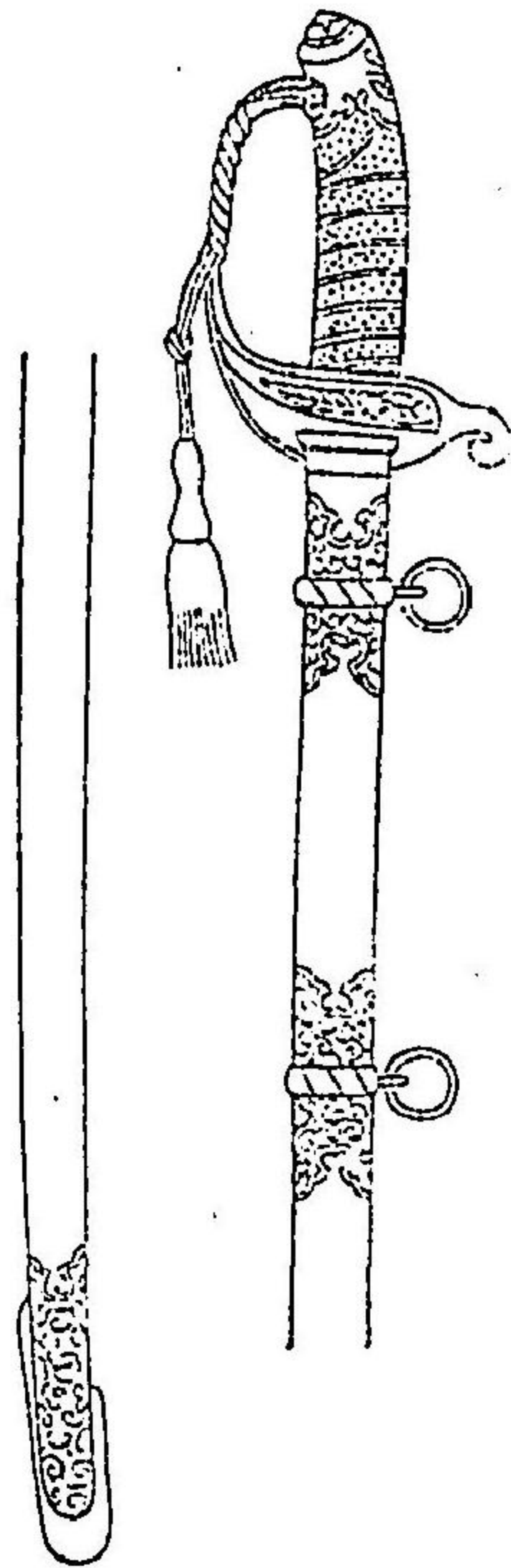
刀緒



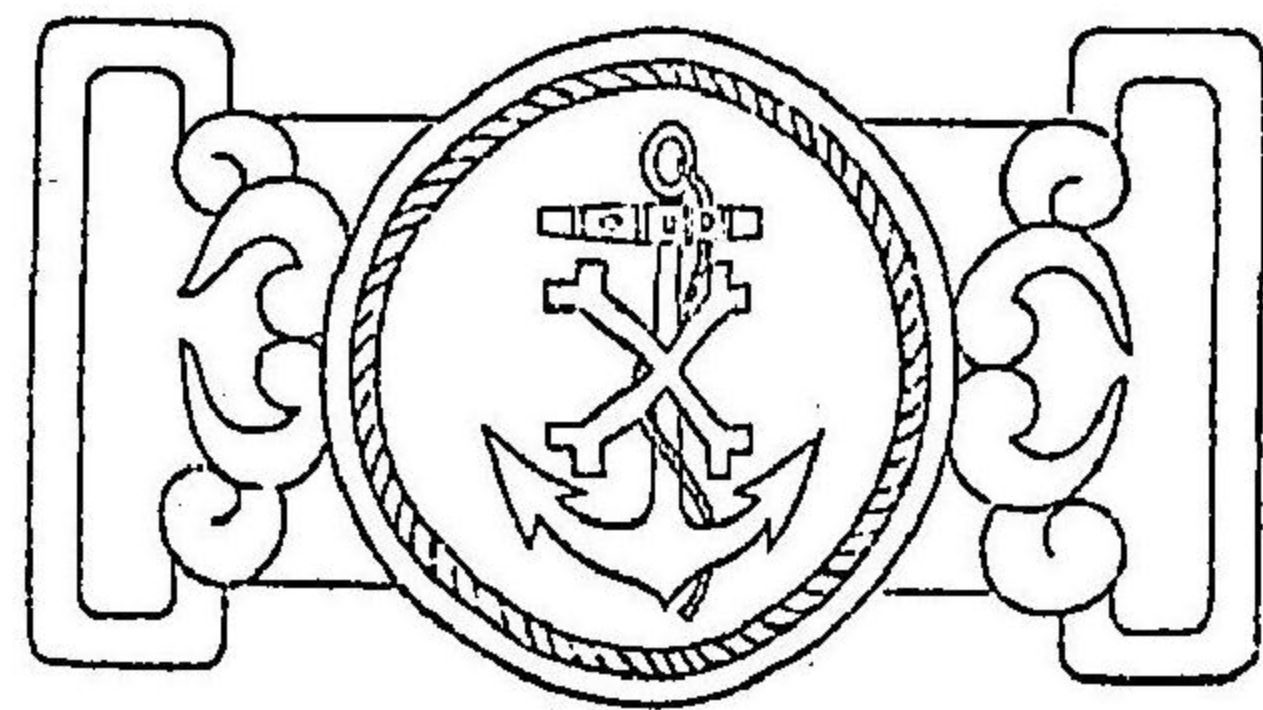
刀帶



刀

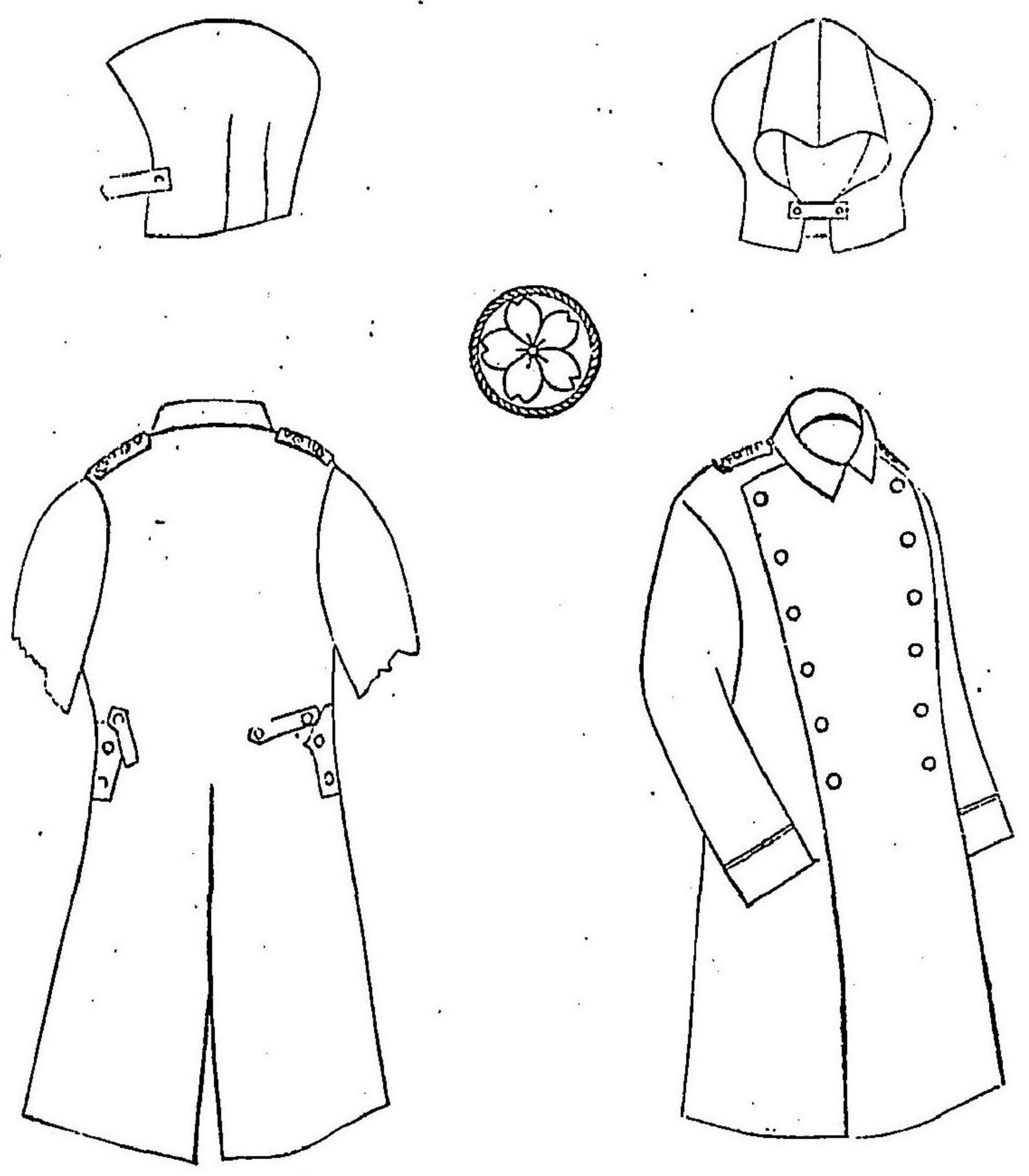


刀帶徽章



明治四十一年七月 勅令 第百七十一號

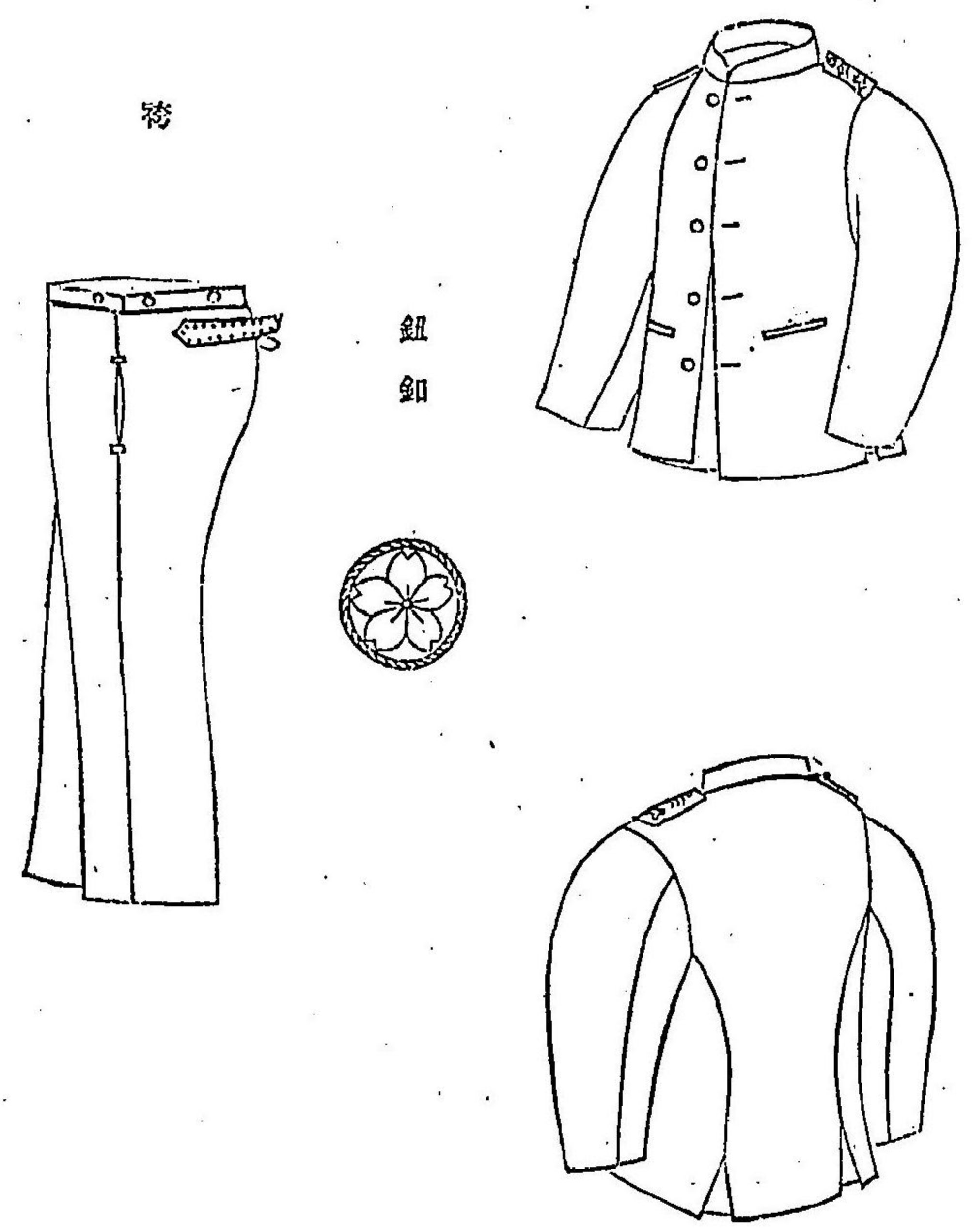
外套



三十四

海軍監獄看守長

衣



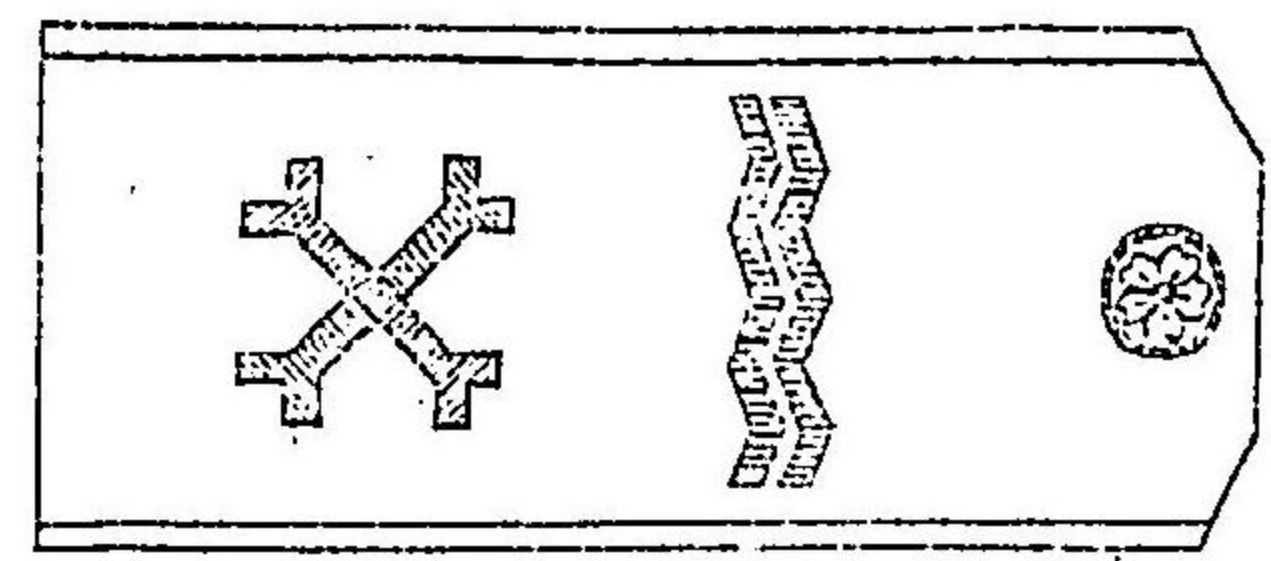
袴

鈕釦

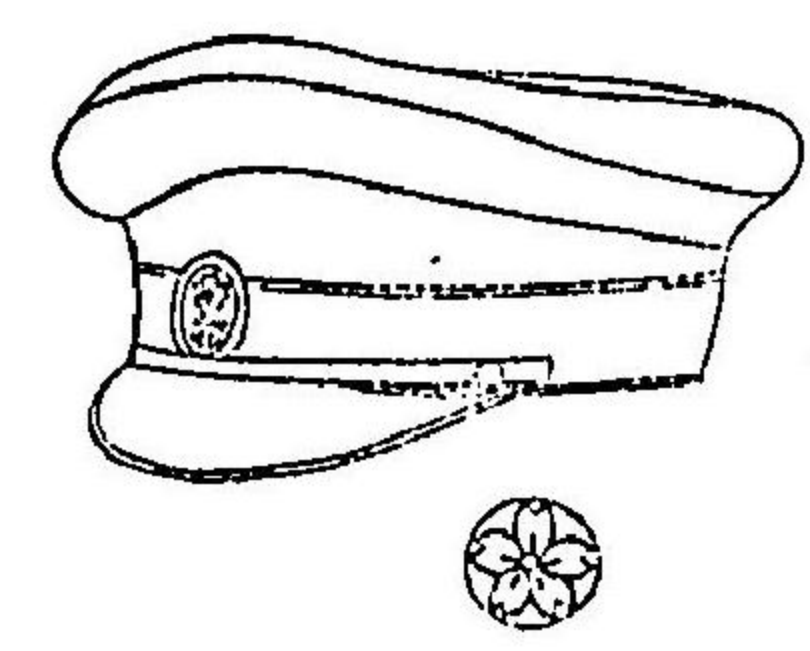
明治四十一年七月 勅令 第百七十一號

三十三

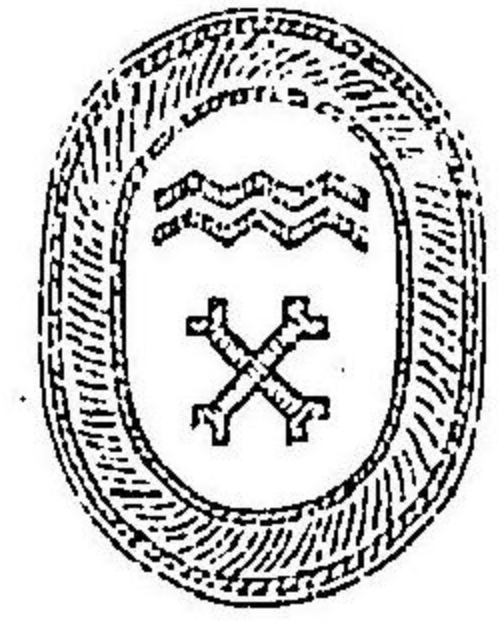
肩章



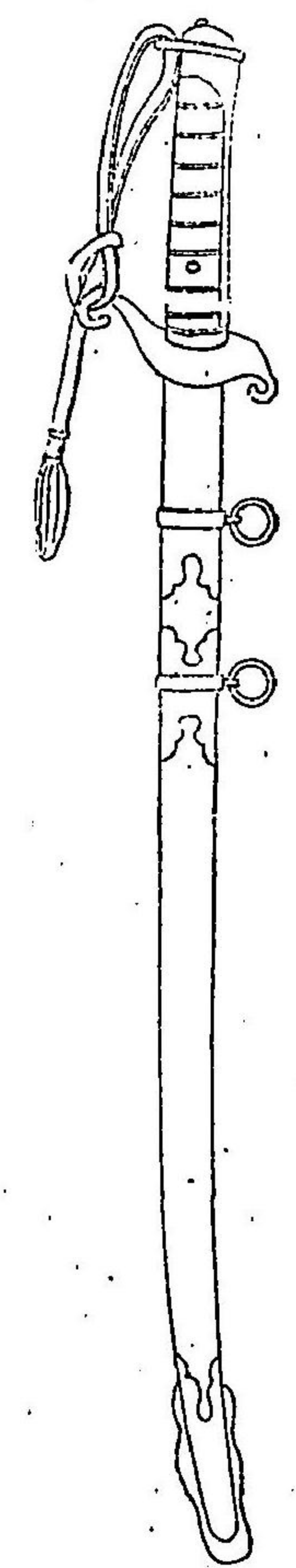
帽



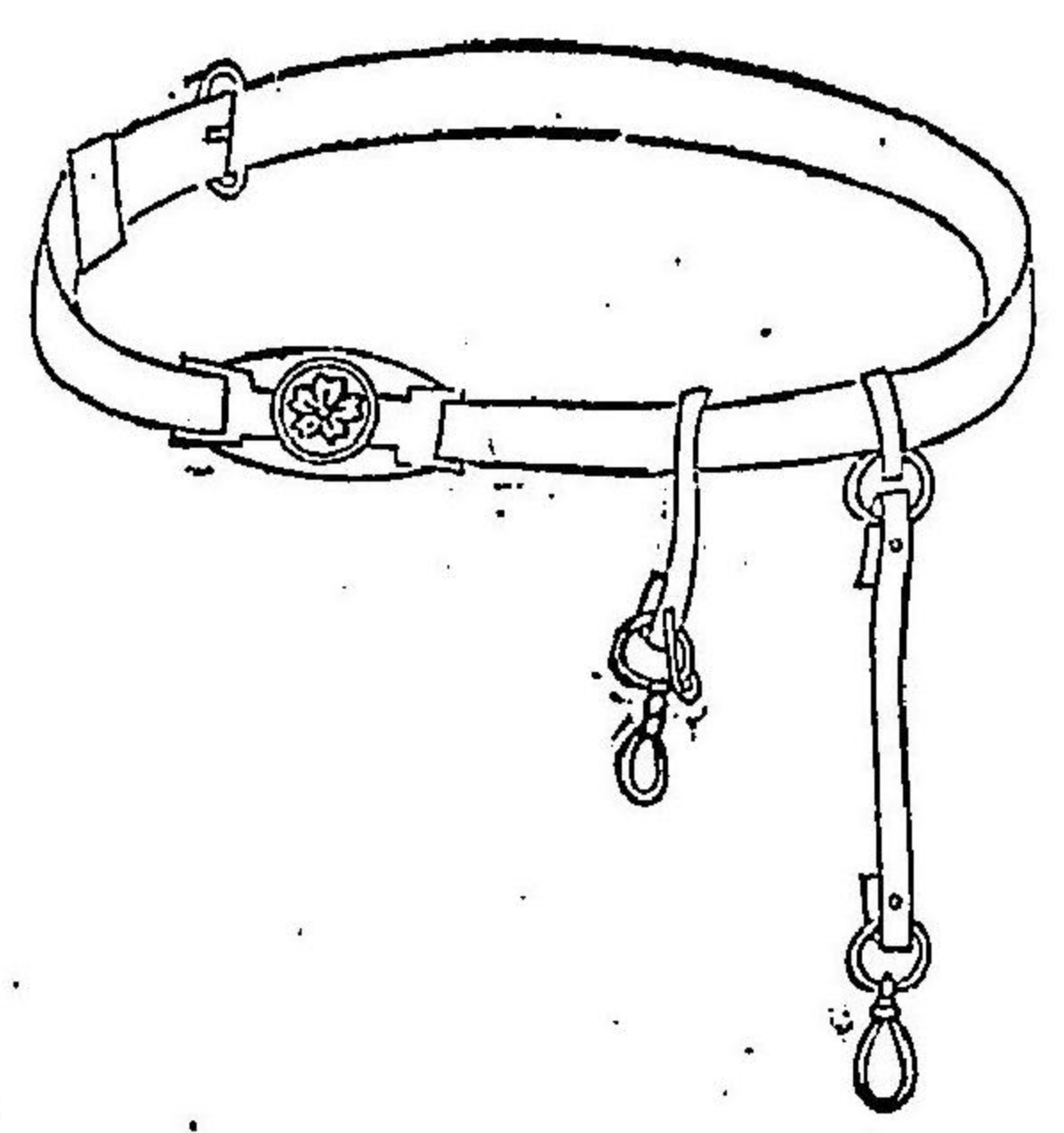
帽徽章



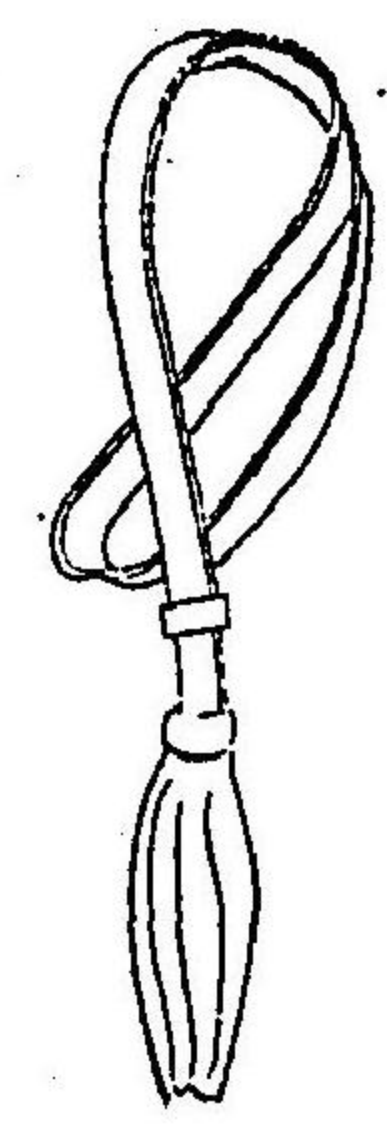
刀



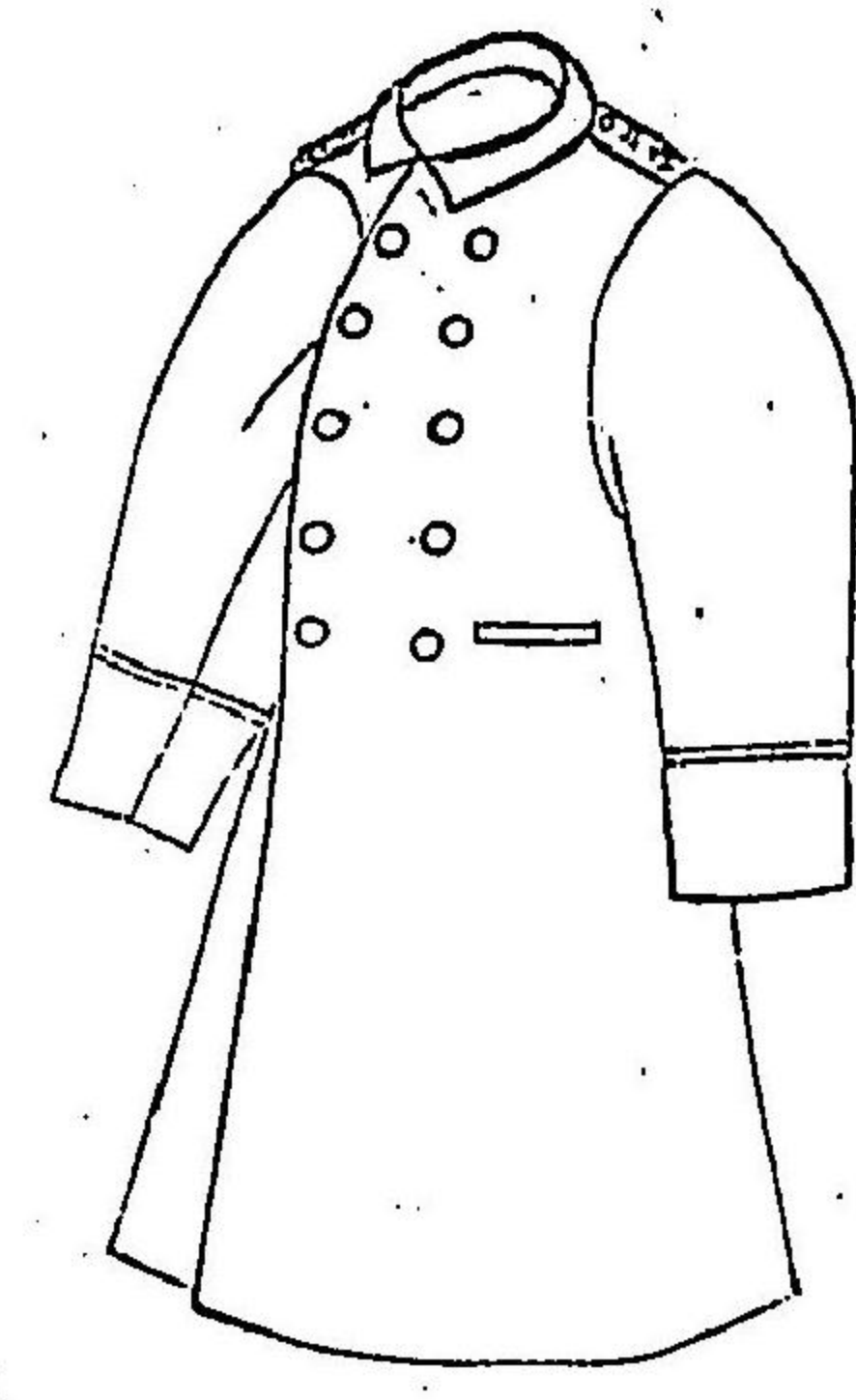
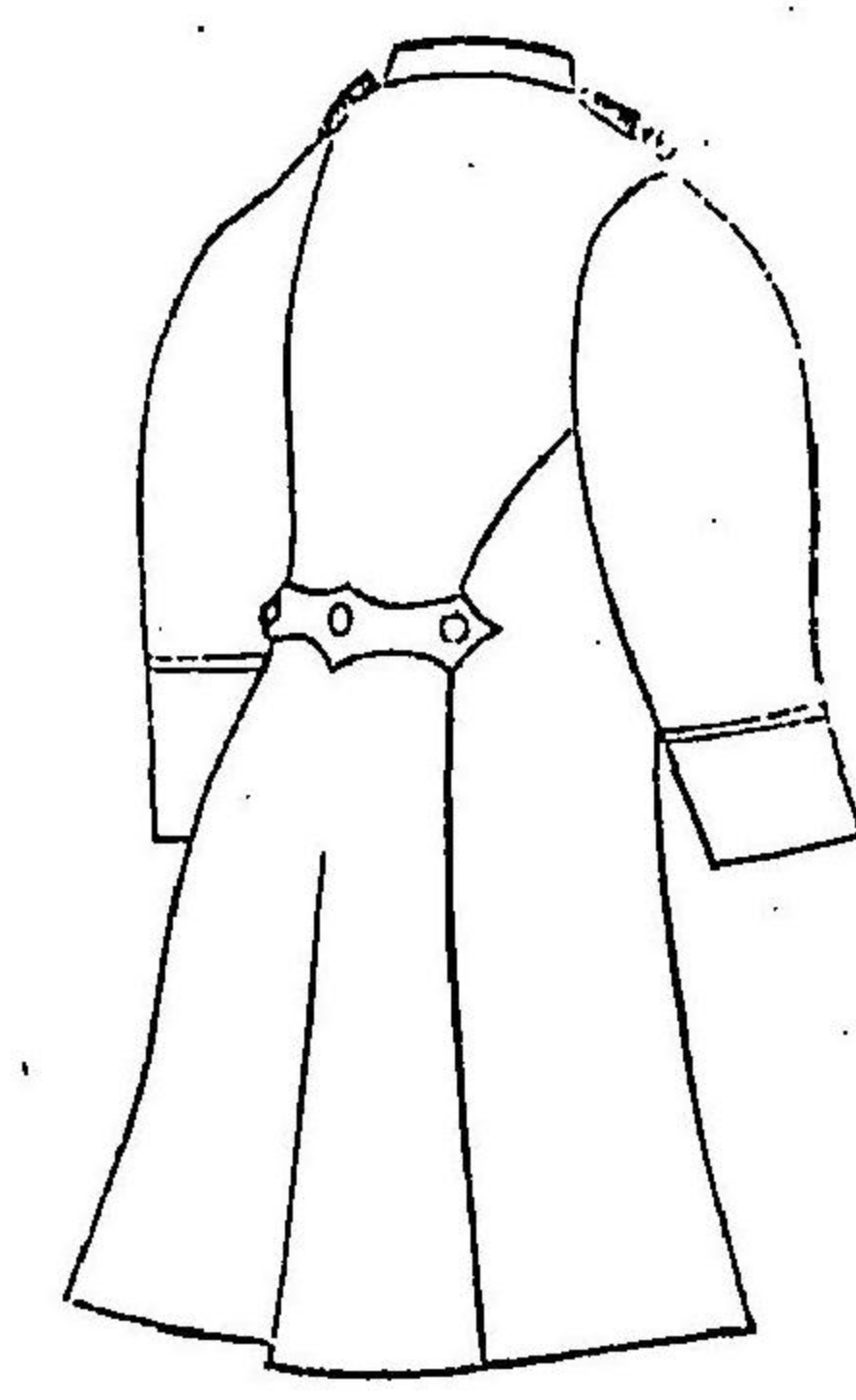
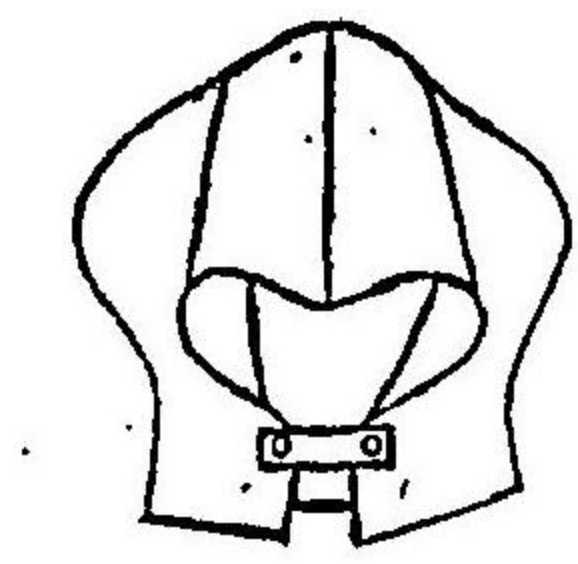
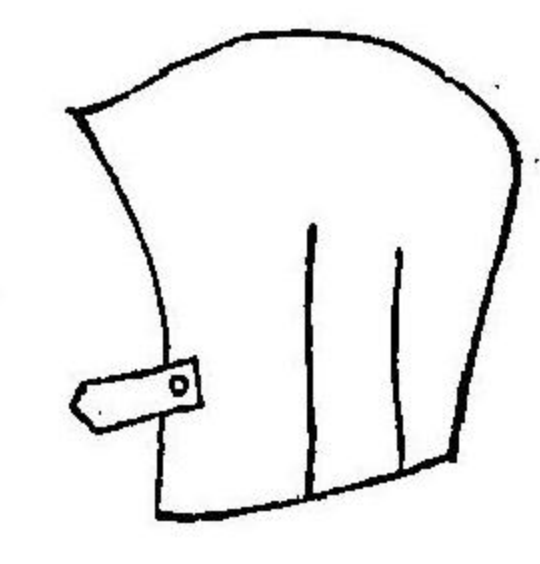
刀帶



刀緒

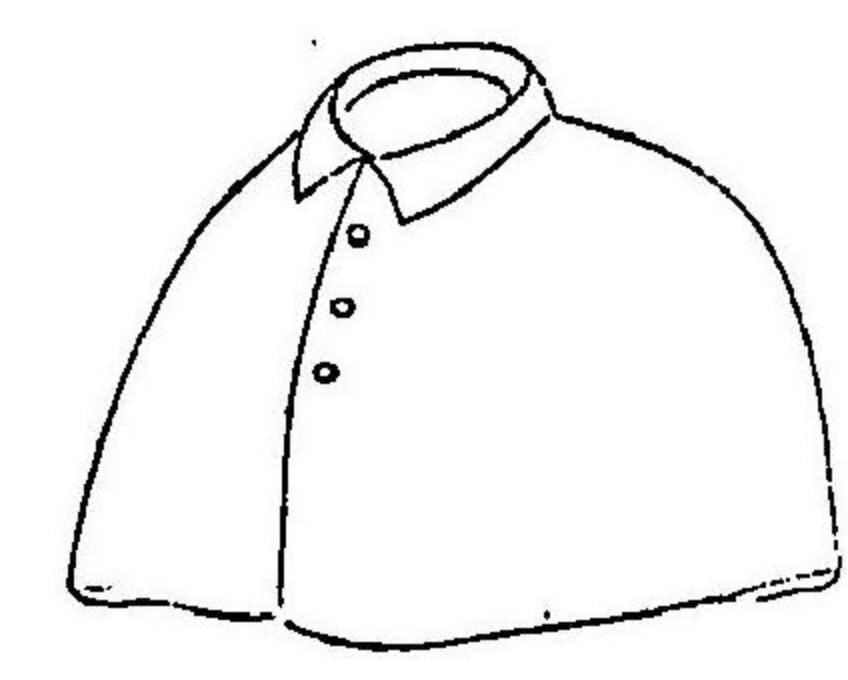


外套

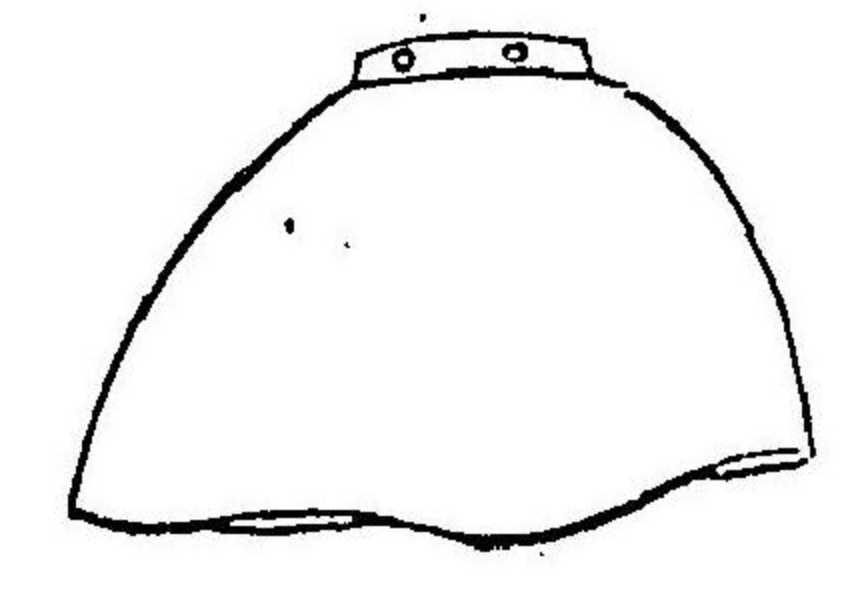
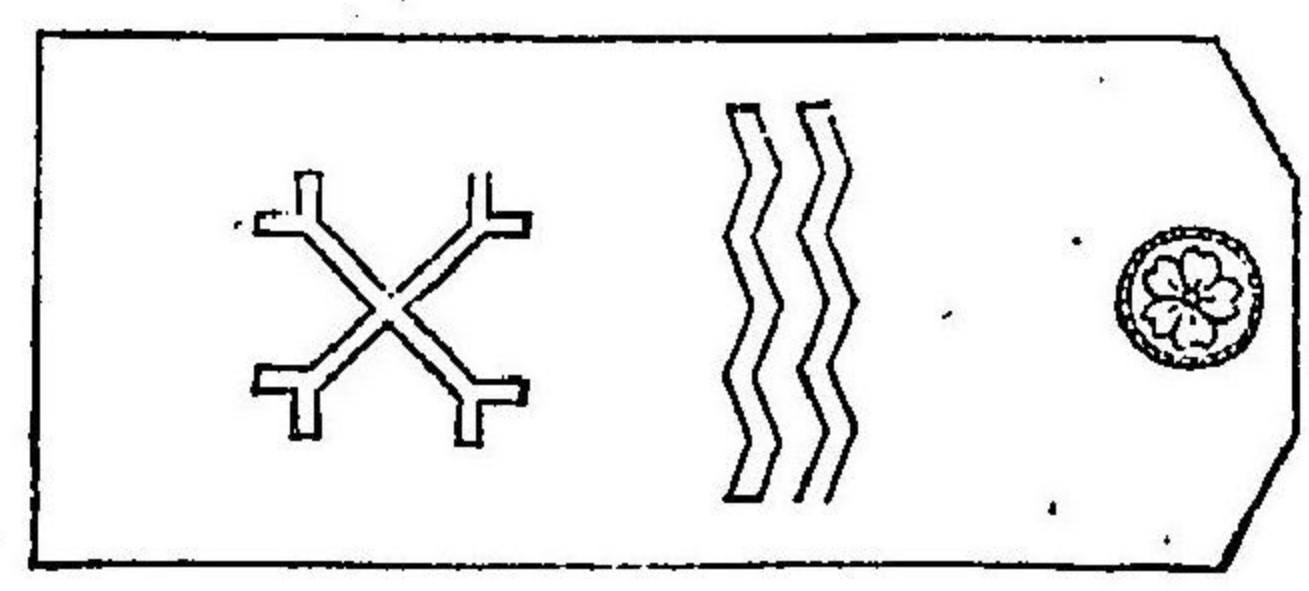


海軍監獄看守

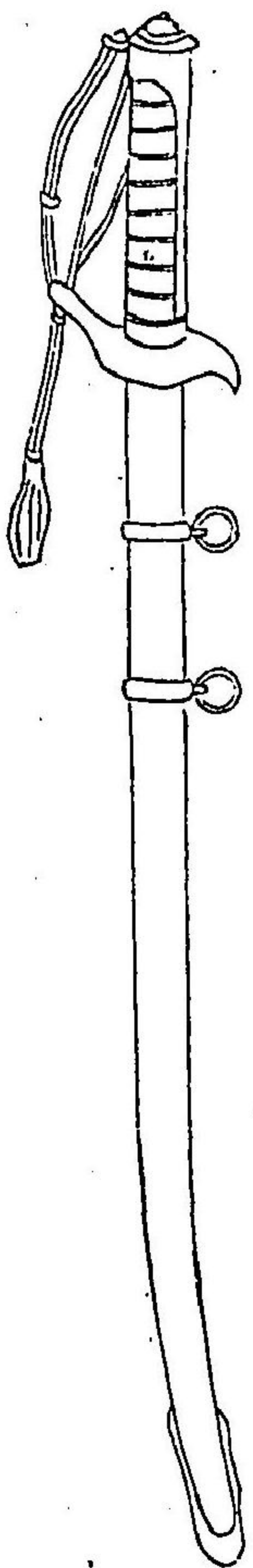
短外套



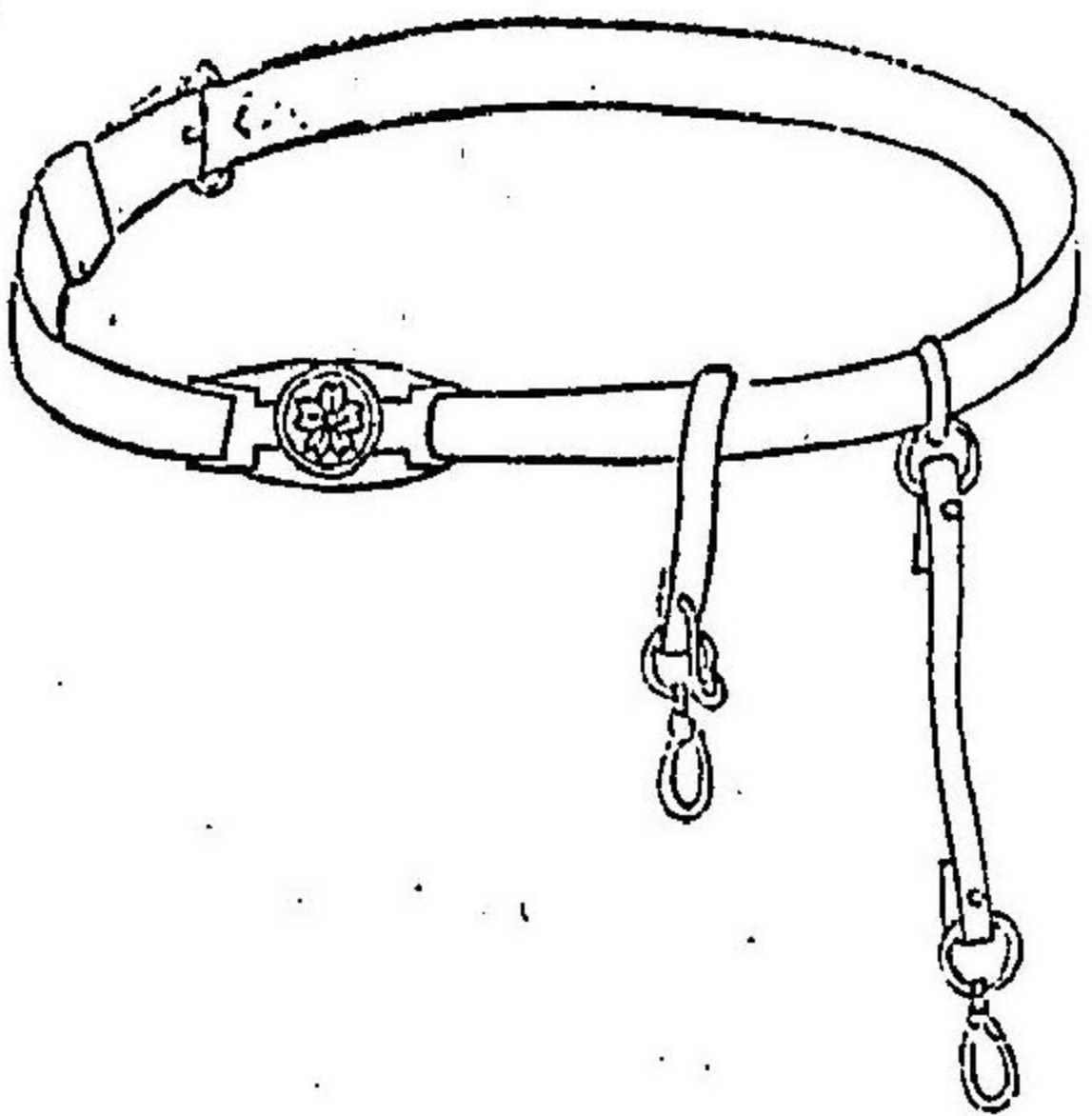
肩章



刀



刀帶



朕陸軍補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第七十二號 (官報七月七日)

陸軍補充條例中左ノ通改正ス

第二百二十四條 憲兵上等兵ノ補充ハ歩騎砲工輜重兵科兵卒中憲兵志願ニシテ左ノ二號ニ該當スル者ヲ以テス

- 一 一箇年以上現役ニ服シ年齢二十年以上ノ者
- 二 品行方正志操確實ニシテ三箇月以上憲兵上等兵ノ勤務ニ必要ノ學術ヲ習修シ補充検査ニ合格シタル者

第六十九條ノ二 豫備役後備役各兵科上等兵及看護手ハ下士適任證書ヲ所持スル者ニ在リテハ二箇月以上、其ノ他ノ者ニ在リテハ一箇年以上平時部隊ニ於テ勤務シ其ノ成績優秀ナル者ハ闕員ニ應シ之ヲ下士ノ補充ニ充ツルコトヲ得其ノ手續ニ關シテハ第六十八條第七十九條及第百條ノ規定ヲ準用ス

附則



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第三百七十九號陸軍補充條例(明治二十九年十二月二日官報抄録)

- 第百二十四條 憲兵上等兵ノ補充ハ歩騎砲工輜重兵隊兵卒中憲兵志願ニシテ左ノ二項ニ該當スル者ヲ以テス
  - 一 二箇年以上現役ニ服シ年齢二十二年以上者
  - 二 品行方正志操確實ニシテ三箇月以上憲兵上等兵ノ勤務ニ必要ノ學術ヲ習修シ補充検査ニ合格シタル者

朕陸軍士官ノ候補者及陸軍諸生徒死傷手當金給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月六日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
陸軍大臣 子爵寺内正毅

勅令第七十三號(官報 七月七日)

第一條 陸軍軍人ト爲ルヘキ士官ノ候補者及陸軍諸生徒ニシテ演習ノ爲死歿シ又ハ演習ノ爲傷疾

ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ將來服役ニ堪ヘス兵籍ヲ除キ又ハ退校ヲ命シタル者ニハ左ノ各號ニ依リ一時限リ手當金ヲ給スルコトヲ得

一 軍人恩給法第九條各號ノ一ニ該當スル傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表

乙號ノ金額六分

二 前號ヨリ輕症ナル傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ軍人恩給法第三號表乙號第六項ノ

金額一年乃至五年分

三 死歿シタルトキハ軍人恩給法第五號表乙號ノ金額六分

第二條 前條ニ依リ給與スヘキ金額ハ下士ノ階級ニ在リタル者ハ判任官四等ノ額其ノ他ハ陸軍二等卒ノ額ニ依ル

第三條 手當金ハ傷疾疾病ノ場合ニ在リテハ本人ニ、死歿ノ場合ニ在リテハ軍人恩給法ノ規定ニ準シ遺族ニ給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年勅令第一百八號ハ之ヲ廢止ス但シ廢止前退學ヲ命シタル生徒ニ對スル手當金給與ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

〔參照〕

明治二十五年二月二十日勅令第一百八號ハ陸軍諸生徒手當金給與方ナリ

朕臺灣總督府稅關官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月十日

内閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
內務大臣 原 敬

勅令第七十四號(官報七月十一日)  
臺灣總督府稅關官制中左ノ通改正ス  
第一條第六號中「織物」ノ下ニ「石油」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第四十七號臺灣總督府稅關官制(明治三十四年四月十一日官報)抄錄  
第一條 臺灣總督府稅關ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル  
六 稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、織物ノ消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項

朕帝國大學經理委員會規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月十日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望  
文部大臣 男爵牧野伸顯

勅令第七十五號(官報七月十一日)

帝國大學經理委員會規則中左ノ通改正ス

第三條第一項及第十一條第二項中「帝國大學書記官」ノ下ニ「又ハ帝國大學事務官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第五十四號帝國大學經理委員會規則(明治四十年三月二十五日官報)抄錄  
第三條第一項  
帝國大學經理委員會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ  
三 帝國大學各分科大學長、醫科大學附屬醫院長及帝國大學書記官一人  
第十一條第二項  
幹事ハ帝國大學書記官タル委員ヲ以テ之ニ充ツ

朕明治四十一年法律第二十三號施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月十八日

內閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
內務大臣 法學博士 平田東助

勅令第七十六號(官報七月二十日)

明治四十一年法律第二十三號ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕神社財産ノ登錄ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月十八日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 平田東助  
司法大臣 子爵岡部長職

勅令第七十七號 (官報 七月二十日)

第一條 神社財産ノ登録ハ神社所在地ノ地方廳ニ於テ之ヲ爲ス

第二條 神社財産ヲ登録スル臺帳ハ神社財産登録臺帳ト稱シ不動産登録臺帳及寶物登録臺帳ノ二種トス

神社財産登録臺帳ニ登録スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 土地ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、境内地、境外地ノ區別
- 二 社殿及工作物ハ其ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別又ハ坪數、社殿其ノ他工作物ノ種類、若名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號、構造、建坪又ハ間數、境内地ニ在ルモノト、境外地ニ在ルモノトノ區別

三 寶物ハ名稱、員數、品質、形狀又ハ寸尺、若作者又ハ傳來明カナルトキハ其ノ作者又ハ傳來

四 登録ノ年月日、番號

第三條 神社ハ不動産又ハ寶物ヲ取得シタルトキハ二十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ但シ土地及境外地ニ在ル建物ニ付テハ申請前登記ヲ經ルコトヲ要ス

前項但書ニ依ル登記ノ爲該期間内ニ申請ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ登記ノ了リタルトキヨリ十五日以内ニ登録ヲ申請スヘシ

登録事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦前二項ニ同シ

第四條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ爲シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第五條 神社ハ神社財産ヲ處分シタルトキ若ハ其ノ滅失シタルトキ又ハ寶物ニシテ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ七日以内ニ登録ノ抹消ヲ申請スヘシ

第六條 登記所ニ於テ裁判所ノ囑託ニ依リ神社財産ノ登記アル不動産ニ付民事訴訟法第七百條第一項第一號又ハ競賣法第三十三條第一項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク神社所在地ノ地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ不動産ノ登録ヲ抹消スヘシ

第七條 登記ヲ經タル不動産ノ登録ヲ抹消シタルトキハ地方廳ハ遲滞ナク神社財産ノ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附則  
本令ハ明治四十一年法律第二十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神社ハ本令施行ノ際現ニ所有スル不動産及寶物ニ付本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

朕海軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月十八日

勅令第七十八號(官報 七月二十日)

海軍服制中左ノ通改正ス

下士卒臂章表中特技章ノ部掌工兵章ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

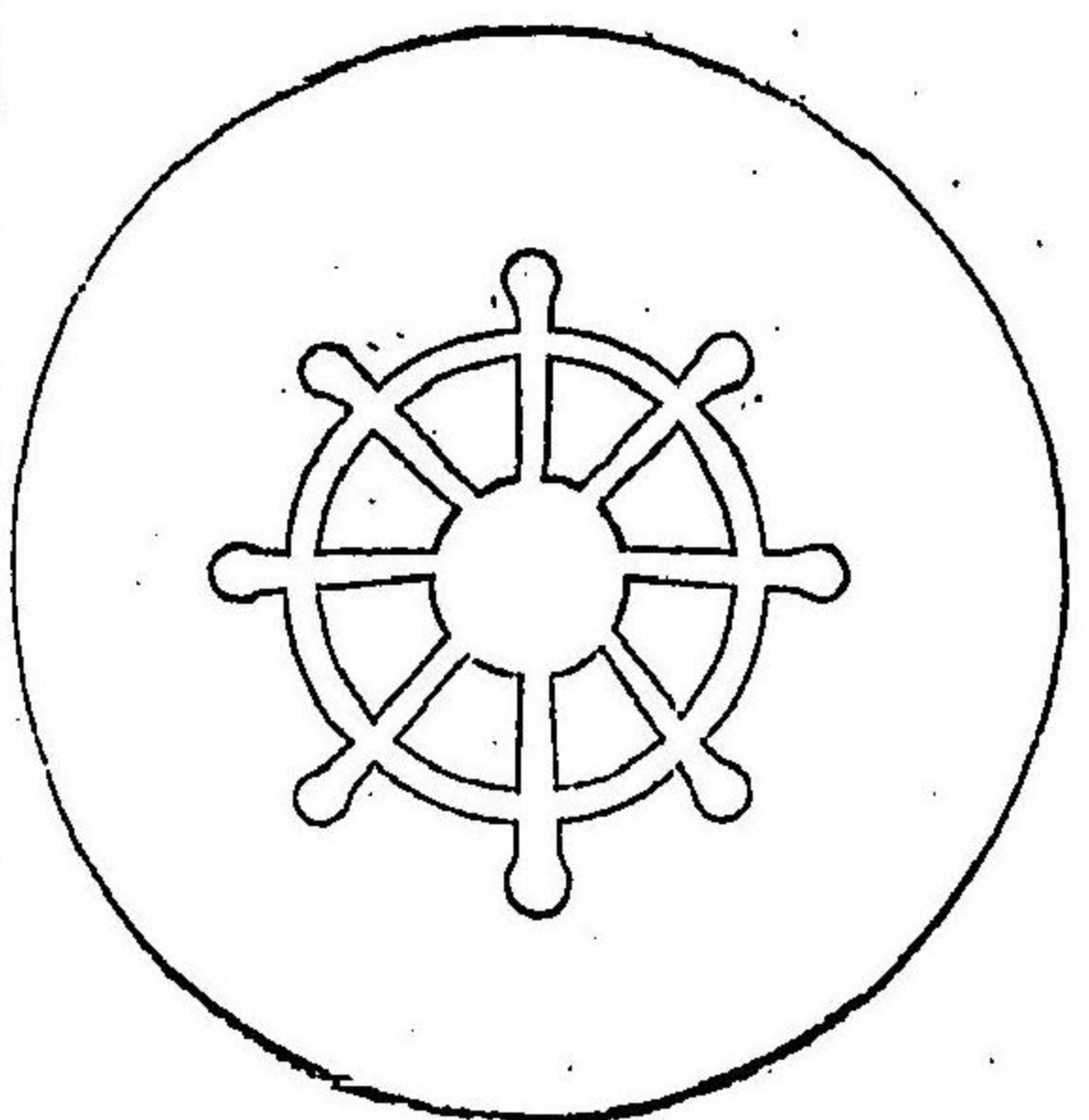
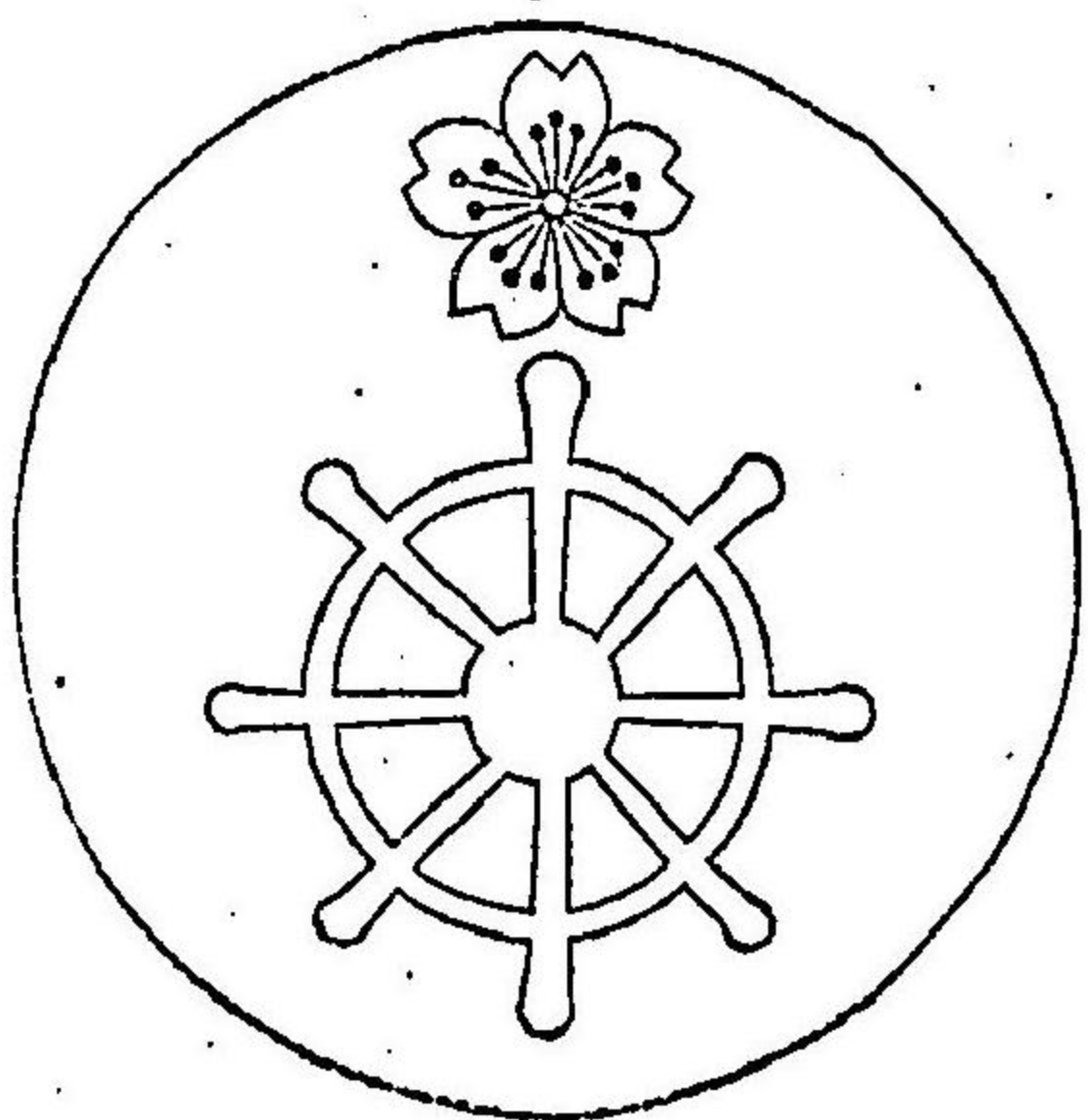
一等運用術修業 証狀ヲ有スル者	二等運用術修業 証狀ヲ有スル者
花ヲ附ス	花ヲ附ス

海軍服制圖中臂章ノ部ニ等掌工証狀ヲ有スル者ノ圖ノ次ニ別圖ヲ加フ

(別圖)

一等運用術修業証狀ヲ有スル者

二等運用術修業証狀ヲ有スル者



朕南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事務主管ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
外務大臣 子爵寺內正毅  
遞信大臣 男爵後藤新平

勅令第七十九號(官報 七月二十一日)

南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事項ハ遞信大臣ノ管理ニ屬セシム

前項ノ事項ニ付テハ關東都督ハ遞信大臣ノ監督ヲ承クルモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍現役軍人結婚條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十三日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第百八十號(官報七月二十四日)

海軍現役軍人結婚條例

第一條 海軍現役軍人結婚ヲ爲サントスルトキハ將官同相當官ニ在リテハ海軍大臣ノ奏請ニ依リ  
勅許ヲ仰キ、上長官士官准士官ニ在リテハ海軍大臣、下士卒ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官ノ許  
可ヲ受クヘシ

第二條 候補生及二等卒以下ハ結婚ヲ許サス

第三條 配偶者タルヘキ婦人ハ品行端正ノ者タルヘシ

附則

海軍軍人結婚條例ハ之ヲ廢止ス

朕陸軍錄事、陸軍監獄看守長、陸軍監獄看守及陸軍警守服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十四日

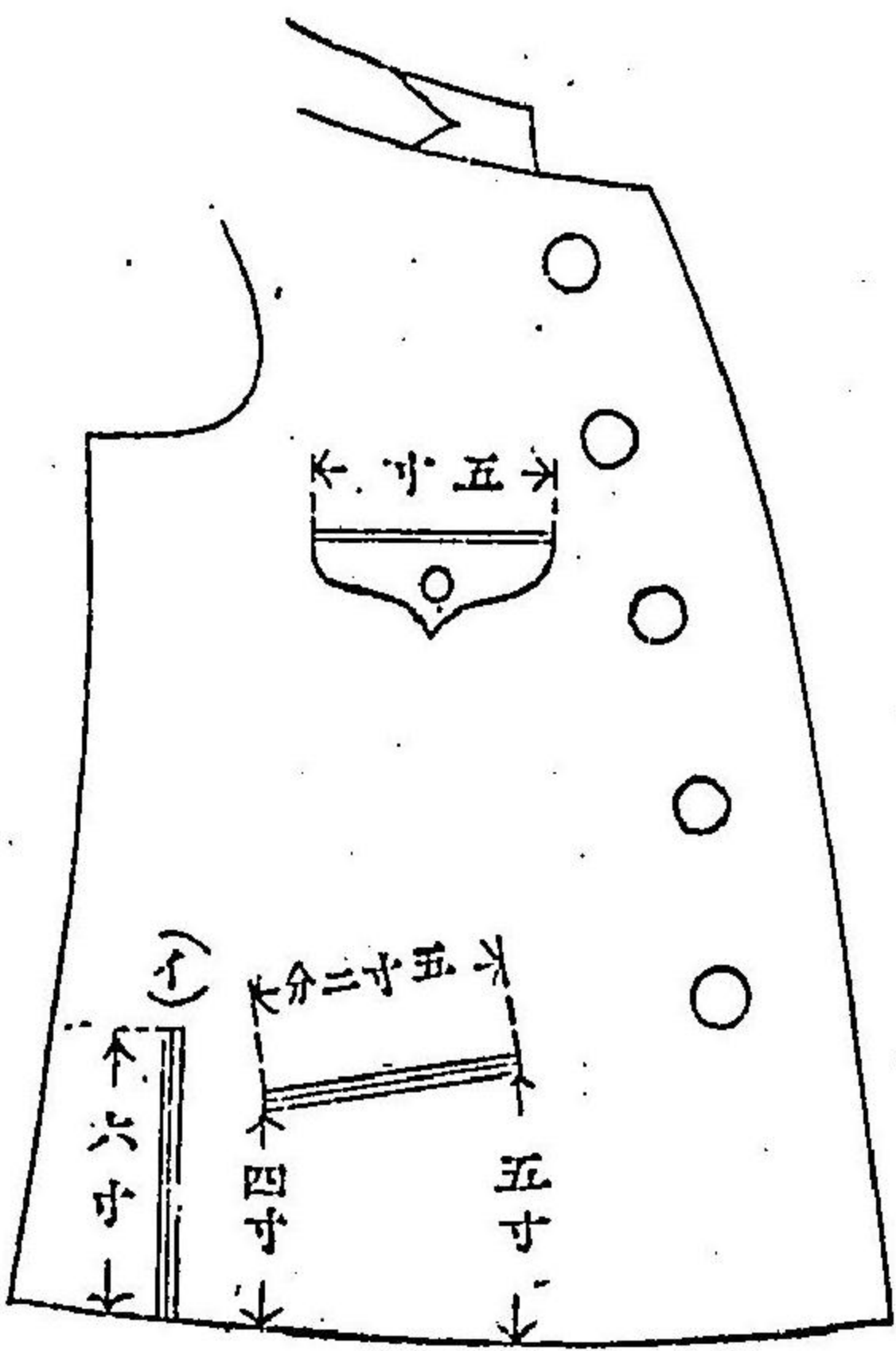
内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第百八十一號(官報七月二十五日)  
陸軍錄事、陸軍監獄看守長、陸軍監獄看守及陸軍警守服制左ノ通定ム

帽	衣	袴	襦	夏	夏	襦	外	防	雨	肩	劔	刀	劔	帶	刀
陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ緋絨ハ白絨トシ近衛師團ニ屬スルトキト雖徽章ニ櫻枝ヲ附セス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ袖章及側章ハ蛇腹組白毛絲、襟章ノ品質ハ白絨トシ、餘事、監獄看守長ニ在リテハテハ衣及夏衣ハ白絨トシ、除キ左右ニ物入各二箇ヲ附ス其ノ寸法位置圖ノ如シ又其ノ夏衣及夏袴ニハ茶褐色薄毛織ヲ用ウルコトヲ得	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ袖章ハ蛇腹組白毛絲トシ、襟章ノ品質ハ白絨トシ、餘事、監獄看守長ニ在リテハテハ衣及夏衣ハ白絨トシ、除キ背面ニ緊收紐、左脇下ニ裂目ヲ附ス其ノ寸法位置圖ノ如シ	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス	陸軍軍服服制各部トシ同シ 但シ襟章、側章、星章ノ數ハ一箇トシ、線章ハ餘事、監獄看守長ノミ之ヲ附シ其ノ幅ハ三分トス

縫 刀	縫 鈕
監 獄 監 獄 監 獄 守 守 守 長 長 長	錄 事
形 品 狀 質	形 緒 緒 狀 緒 緒
圖 褐 色 牝 牛 革 ノ 如 シ	圖 白 黒 毛 絲 ノ 絹 絲 丸 打 如 シ

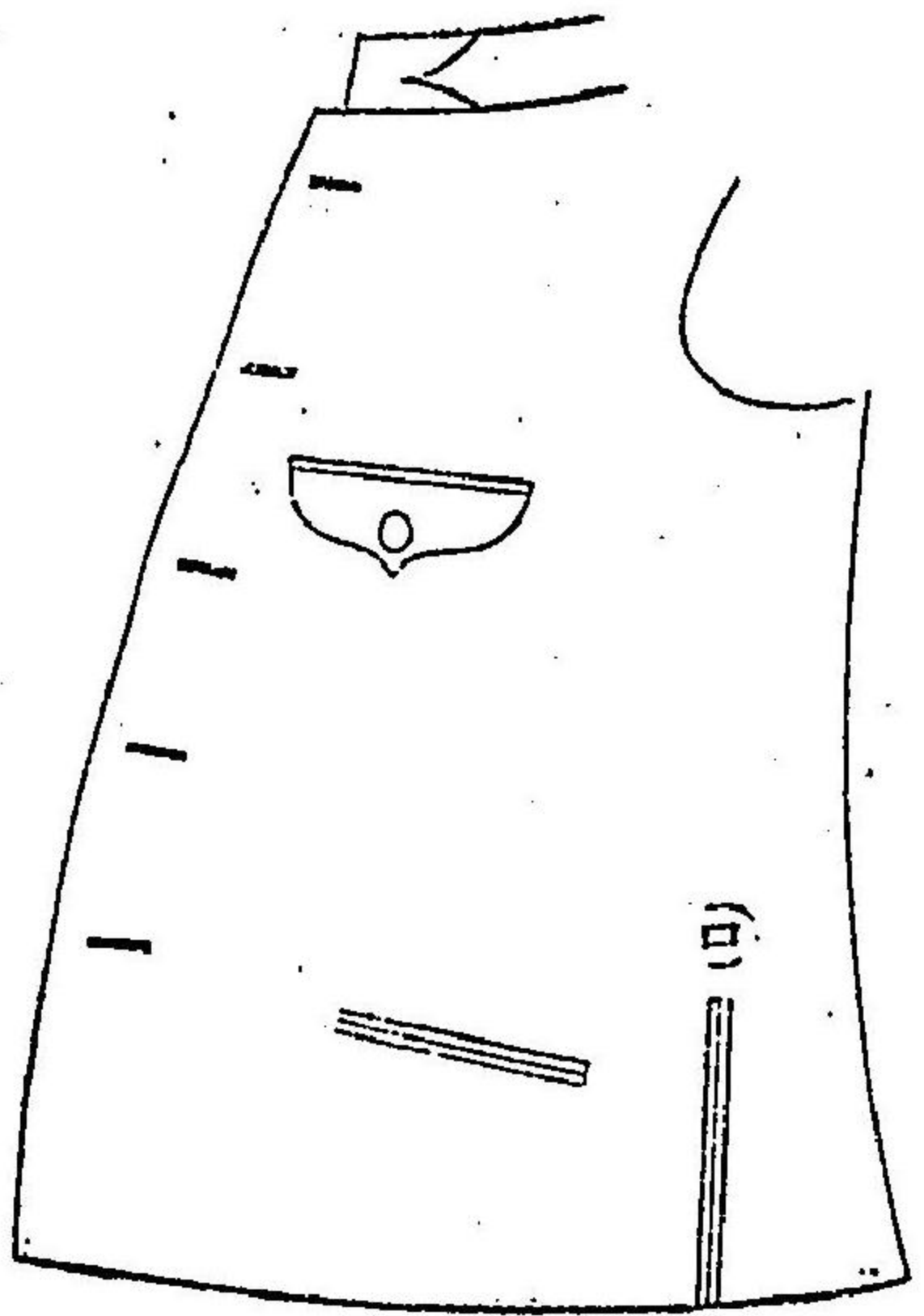
服制圖



(イ)ハ裂カスシテ只裂目ヲ示ス  
(ロ)ノ裂目ハ裏面ノ下端ニ卸ヲ附シ開閉シ得ル如クス

衣 録 事

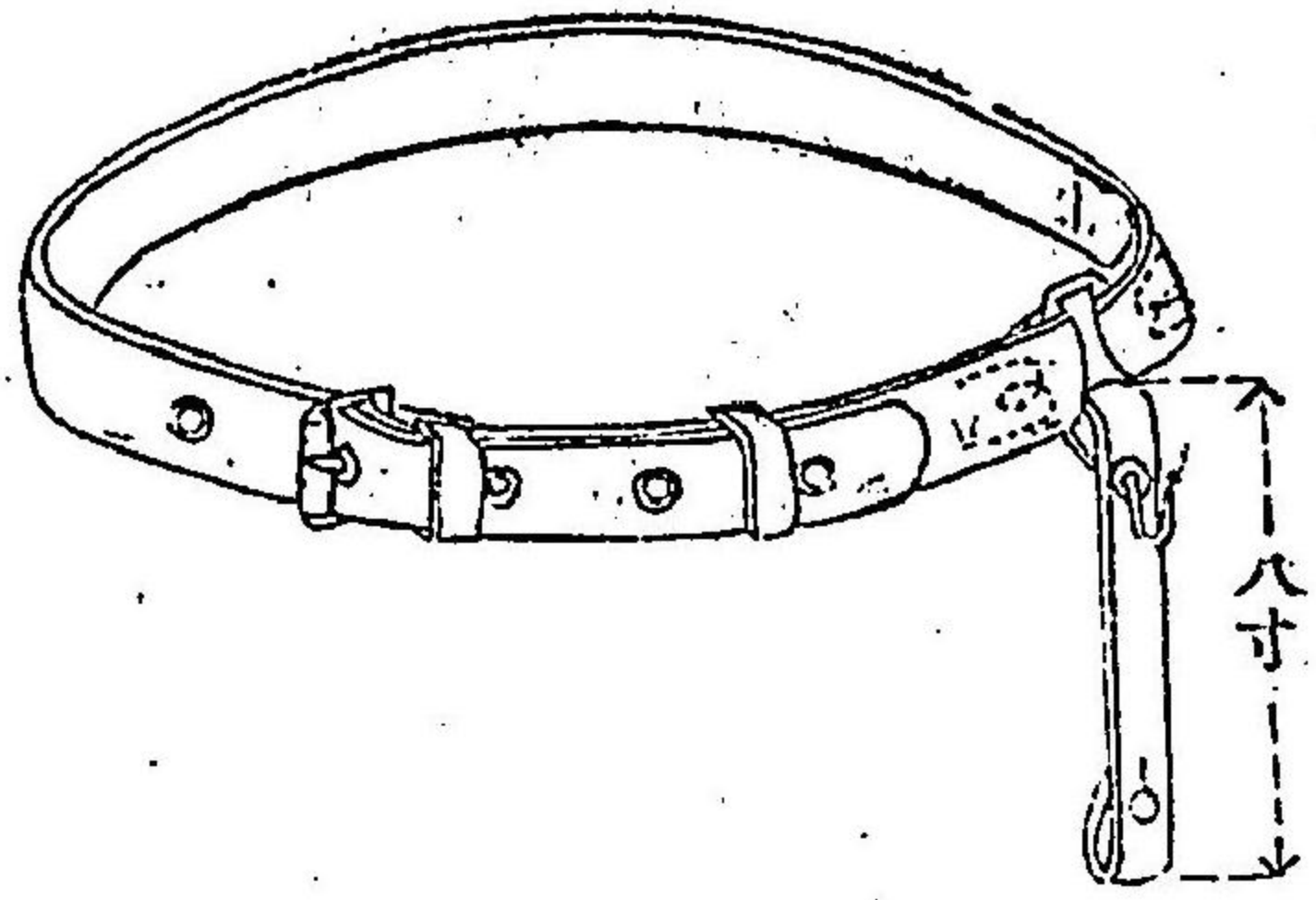
夏衣 監獄看守長



下部ノ物入ニハ蓋ヲ附スルコトヲ得但シ卸ヲ附セス

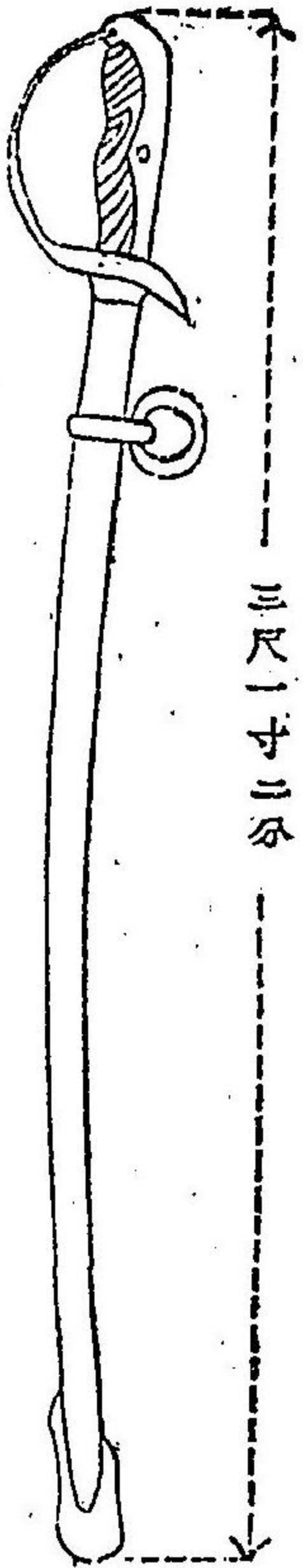
明治四十一年七月 勅令 第百八十一號

刀 帶  
監獄看守長  
監獄看守  
警守



八寸

刀  
監獄看守  
警守

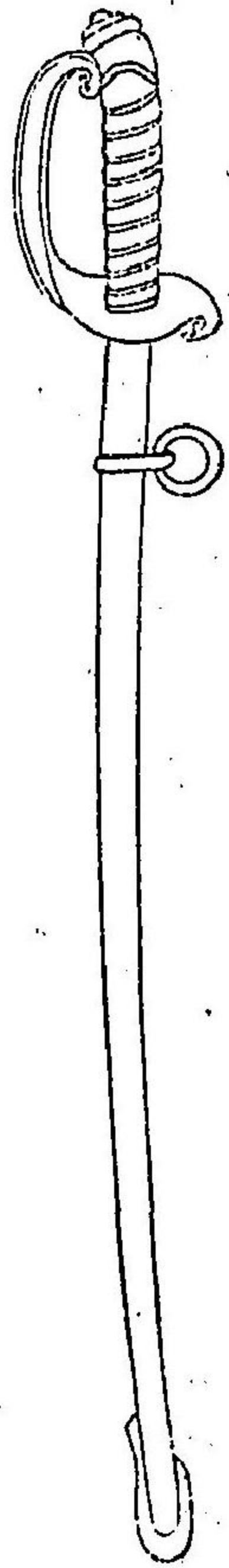


三尺一寸二分

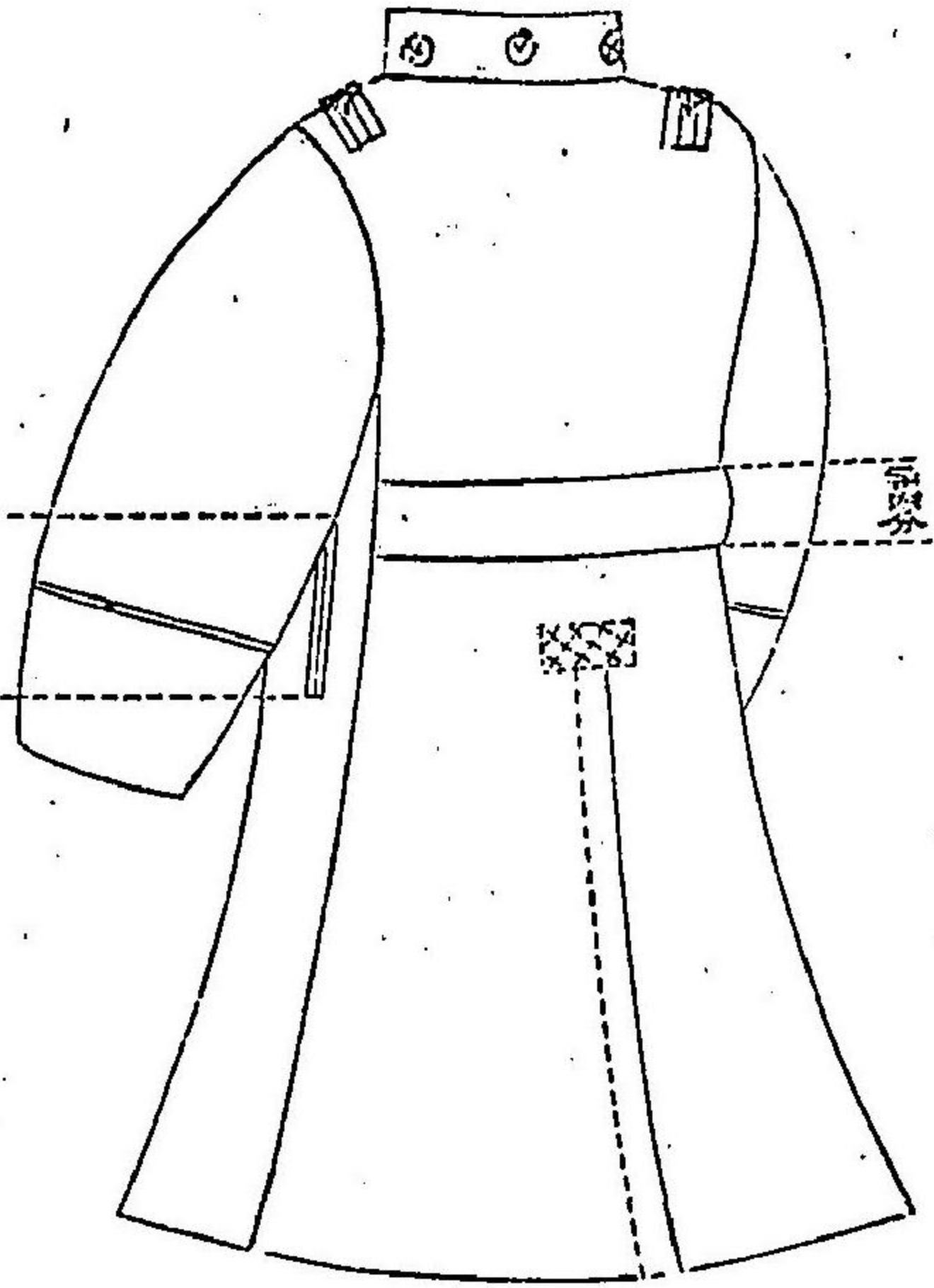
明治四十一年七月 勅令 第百八十一號

外 錄 事  
監獄看守長

刀  
監獄看守長



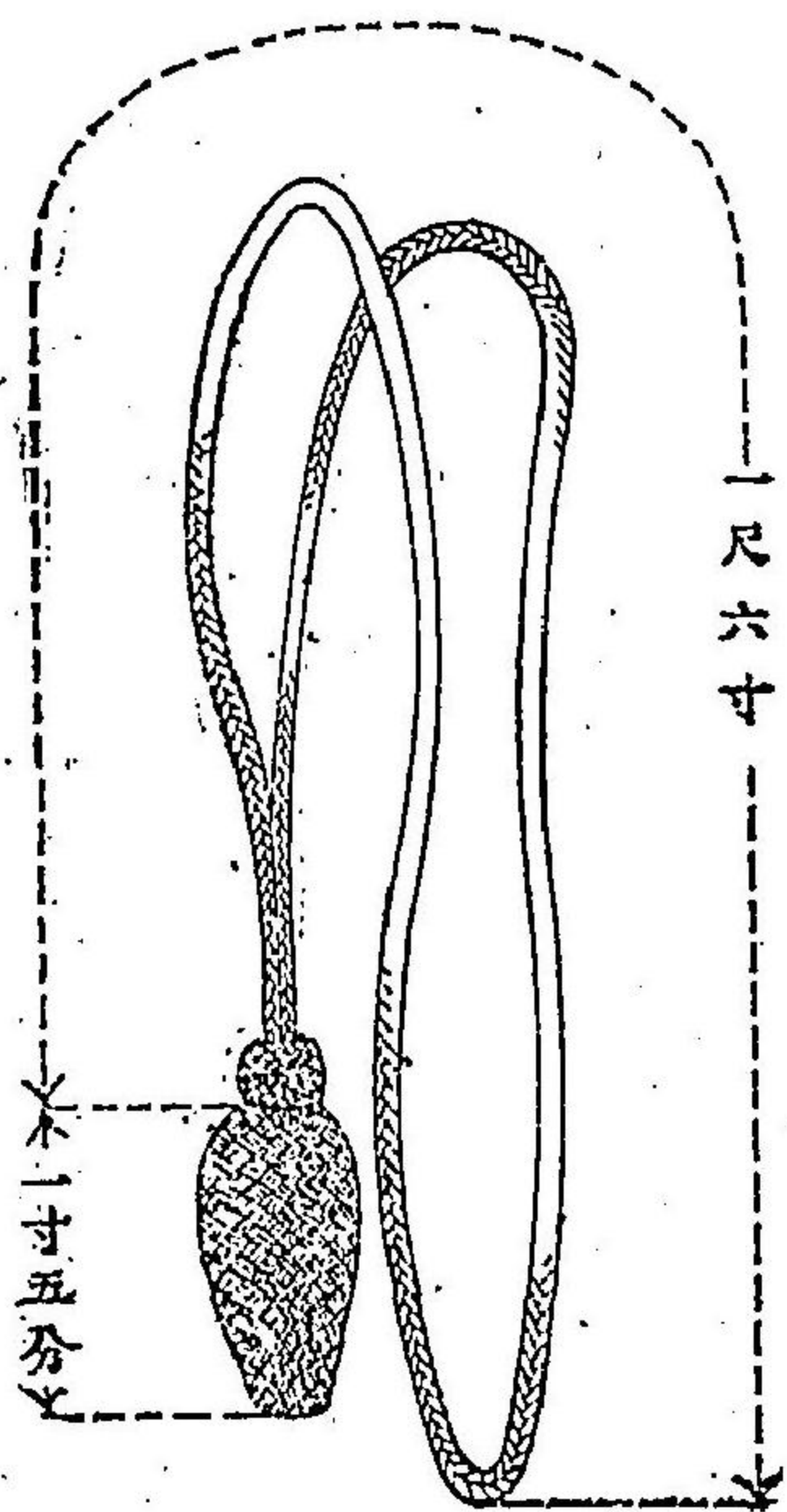
七寸五分



五分

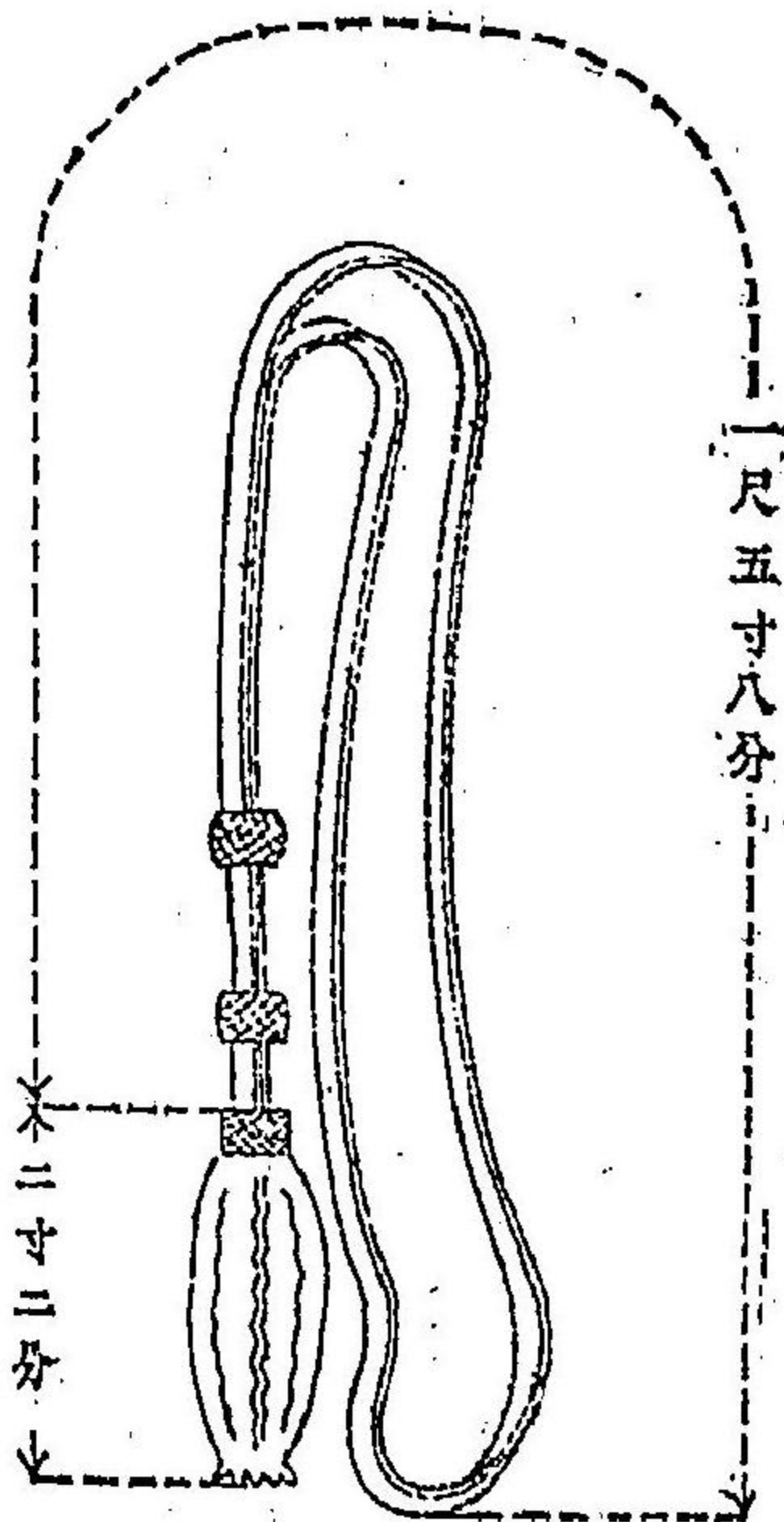
緒 劍

録 事



緒 刀

監獄看守長  
監獄看守  
警 守



附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ陸軍大臣ハ當分ノ内明治二十六年勅令第二百號ノ制服ヲ着用セシムルコトヲ得

陸軍大臣ハ録事ニ限り當分ノ内制服ヲ着用セシメサルコトヲ得

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ宮内高等官ヨリ高等文官ニ任用セラルル者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治四十一年七月二十五日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第百八十二號 (官報 七月二十七日)

宮内高等官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者高等文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ明治二十九年勅令第百二十五號第一項及高等官官等俸給令第七條第二項第三項ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍卒ニシテ陸軍懲治隊ニ收容シタル者ノ懲罰ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽



明治四十一年七月二十七日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第百八十三號(官報七月二十八日)

海軍卒ニシテ陸軍懲治隊ニ收容シタル者ハ懲罰ハ海軍懲罰令ニ依ラス別ニ其ノ制ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕海軍下士卒服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十七日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第百八十四號(官報七月二十八日)

海軍下士卒服役條例中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ陸軍懲治隊ニ收容シタル懲治卒ニ付テハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四十七條 本條例中市町村長ノ職務ハ區長ヲ戶籍吏ト爲シタル人口二十萬以上ノ市ニ在テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ市町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第百二十四號海軍下士卒服役條例(明治三十一年六月二十三日官報)抄録

第六條 下士卒ノ現役又ハ兵役ヲ免セントストキハ先ツ之ヲ在籍鎮守府ニ因スル海兵團ニ入團セシメ鎮守府司令長官之ヲ免ス

第四十七條 市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

朕海軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十七日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第百八十五號(官報七月二十八日)

海軍給與令中左ノ通改正ス

第八條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍懲治隊入隊中ノ卒ニハ前項ノ規定ニ拘ラス乙額十分ノ二ヲ給ス

第十二條第二項中「規定」ノ下ニ「陸軍懲治隊入隊中ノ卒ニ關シテハ前項ノ規定」ヲ加フ

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ陸軍懲治隊入隊中ノ卒ニ之ヲ適用セス  
第三十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

卒陸軍懲治隊入隊中ハ其ノ加俸ヲ停止ス

第七十二條但書中「下士卒」ノ下ニ「及陸軍懲治隊入隊中ノ卒」ヲ加フ

第八十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ陸軍懲治隊入隊中ノ卒ニハ同隊ニ於ケル糧食ヲ給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵集ノ期ニ後レタル陸海軍現役兵決定者處罰ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布  
セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十八日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
陸軍大臣 子爵寺內正毅  
海軍大臣 男爵齋藤 實

勅令第百八十六號(官報 七月二十九日)

陸海軍ノ現役兵ニ決定シタル者正當ノ事由ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過キタルトキハ六月以下ノ  
禁錮ニ處シ戰時ニ在リテ五日ヲ過キタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ規定ハ志願ニ依リ陸海軍ノ現役ニ服スル者ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕臨時臺灣工事部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士男爵平田東助

勅令第百八十七號(官報 七月三十日)

臨時臺灣工事部官制

第一條 臨時臺灣工事部ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 基隆及打狗ノ築港ニ關スル事項

二 灌溉及排水ニ關スル事項

三 電氣事業ニ關スル事項但シ電信電話ヲ除ク

四 水力ノ利用ニ關スル事項

第二條 臨時臺灣工事部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

次長

事務官

專任六人

奏任

技師

專任十七人

奏任

書記

專任五十人

判任

技手

專任八十人

判任

通譯

專任二人

判任

第三條 部長ハ臺灣總督府民政長官ヲ以テ之ニ充ツ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ部務ヲ總理ス

部長ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ

行フ

第四條 次長ハ臺灣總督府土木局長ヲ以テ之ニ充ツ部長ヲ補佐シ部長事故アルトキ其ノ職務ヲ代

理ス

第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌ル

第六條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第九條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ従事ス

第十條 臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ支部ヲ置クコトヲ得

第十一條 支部長ハ事務官、技師又ハ支部所在地ノ廳長ヲ以テ之ニ充ツ部長ノ指揮監督ヲ承ケ支

部ノ事務ヲ掌理ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時臺灣基隆築港局官制、臺灣總督府電氣作業所官制及明治四十年勅令第百二十二號ハ之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治四十年四月十八日勅令第百二十二號ハ埤圳改良ノ事務ニ従事スル職員ニ關スル件ナリ

朕臺灣總督府職員官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎

内務大臣 法學博士 平田東助

勅令第百八十八號 (官報 七月三十日)

臺灣總督府職員官等俸給令中左ノ通改正ス

別表中「築港局事務官」ヲ「臨時臺灣工事部事務官」ニ改メ「電氣作業所事務官」ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臨時臺灣工部事務官特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年七月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 男爵平田東助

勅令第百八十九號(官報 七月三十日)

臨時臺灣工部事務官ハ當分ノ内三年以上土木、水利、電氣、租稅又ハ會計ニ關スル事務ニ從事シ現ニ判任官三級俸以上ノ官職ニ在ル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時臺灣基隆築港局事務官特別任用令及臺灣總督府電氣作業所事務官特別任用令ハ之ヲ廢止ス

朕水利組合法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 男爵平田東助

勅令第百九十號(官報 八月三日)

水利組合法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕水利組合吏員ノ賠償責任及身元保證ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月一日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
内務大臣 法學博士 男爵平田東助

勅令第百九十一號(官報 八月三日)

第一條 組合吏員ハ本令ノ定ムル所ニ依リ組合ニ對シ現金、證券又ハ物品ノ亡失又ハ毀損ニ付賠償ノ責任ヲ有ス

第二條 組合ノ會計事務ヲ掌ル吏員其ノ管掌ニ屬スル現金、證券又ハ物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ管理者ニ於テ期間ヲ指定シ其ノ賠償ヲ命スヘシ但シ避クヘカラサル事故ニ原因シタルトキ又ハ其ノ亡失若ハ毀損シタル物品組合吏員其ノ他ノ者ノ使用ニ供シタルモノニシテ合規ノ監督ヲ怠ラサル場合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經テ其ノ賠償ノ責任ヲ免除スヘシ

組合ノ會計事務ヲ掌ル吏員以外ノ吏員ニシテ其ノ執務上必要ナル物品ノ交付ヲ受ケタル者其ノ物品ヲ故意又ハ怠慢ニ因リ亡失又ハ毀損シタルトキハ管理者ニ於テ期間ヲ指定シ其ノ賠償ヲ命スヘシ

本條管理者ノ處分ニ不服アル吏員ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ訴願ハ命令書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ

第三條 賠償金ノ徵收ニ關シテハ水利組合法第五十六條第一項、第五十七條及第五十九條第四項

第五項ノ例ニ依ル

第四條 組合ノ會計事務ヲ掌ル吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認メタルトキハ組合ハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ其ノ種類、程度其ノ他身元保證ニ關シ必要ナル規定ヲ設ケルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕刑法施行法及監獄法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月六日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
 内務大臣 法學博士 田東助  
 司法大臣 子爵岡部長職

勅令第百九十二號(官報 八月七日)

刑法、刑法施行法及監獄法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕明治四十一年法律第四十一號施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月六日

内閣總理大臣 兼  
 大藏大臣 侯爵桂 太郎

勅令第百九十三號(官報 八月七日)

明治四十一年法律第四十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治四十一年四月一法律第四十一號ハ關稅定率法輸入稅表中改正ノ件ナリ

朕明治三十九年勅令第八十七號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月六日

內閣總理大臣兼  
大藏大臣 侯爵桂太郎

勅令第九十四號(官報八月七日)

明治三十九年勅令第八十七號中「二人」ヲ「三人」ニ「六人」ヲ「十一人」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第八十七號(明治三十九年四月二十四日官報)抄錄

關稅率調査ノ爲大藏省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ主稅局ニ屬セシム

屬 專任二人

技手 專任六人

朕海軍候補生及海軍諸生徒死傷手當金給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十一日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎  
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第九十五號(官報八月十二日)

第一條 海軍候補生及海軍諸生徒ニシテ演習ノ爲死歿シ又ハ演習ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ將來服役ニ堪ヘス兵籍ヲ除キ又ハ退校ヲ命シタル者ニハ左ノ各號ニ依リ一時限リ手當金ヲ給スルコトヲ得

一 軍人恩給法第九條各號ノ一ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表

乙號ノ金額六分分

二 前號ヨリ輕症ナル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ軍人恩給法第三號表乙號第六項ノ金額一年乃至五年分

三 死歿シタルトキハ軍人恩給法第五號表乙號ノ金額六分分

第二條 前條ニ依リ給與スヘキ金額ハ海軍候補生ニ在リテハ判任官三等ノ額共ノ他ハ海軍四等本

ノ額ニ依ル  
第三條 手當金ハ傷痍疾病ノ場合ニ在リテハ本人ニ、死歿ノ場合ニ在リテハ軍人恩給法ノ規定ニ準シ遺族ニ給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

除韓國特許令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
外務大臣 子爵寺内正毅

勅令第九十六號 (官報 八月十三日)

韓國特許令

第一條 韓國ニ於ケル特許ニ關シテハ特許法ニ依ル但シ同法中帝國トアルハ韓國ニ、特許局トアルハ統監府特許局ニ、裁判所トアルハ理事廳及統監府法務院ニ、區裁判所トアルハ理事廳ニ、大審院トアルハ統監府法務院ニ該當ス

特許法第六條ノ帝國ハ本令ノ適用上日本國若ハ韓國ニ該當ス

第二條 本令ハ日韓兩國ノ臣民ニ對シ發明ニ付同様ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ發明ノ保護ニ關シテ治外法權ヲ行使セサル國ノ臣民及人民ニモ之ヲ適用ス

附則

第三條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ日本國ニ於テ受ケタル特許ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ特許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ特許ノ期間

ニ從フ

前項ノ特許證主ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該發明ニ係ル物品又ハ方法ヲ用ウル者及其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 本令施行前米國ニ於テ特許ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ニシテ其ノ發明ニ付本令施行ノ日ヨリ一年内ニ統監府特許局ニ特許ヲ出願シタル場合ニ於テハ無料ニテ特許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ特許ノ期間ハ米國ニ於ケル其ノ特許ノ期間ニ從フ

朕韓國意匠令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
外務大臣 子爵寺内正毅

勅令第九十七號 (官報 八月十三日)

韓國意匠令

第一條 韓國ニ於ケル意匠ニ關シテハ意匠法ニ依ル但シ同法中農商務大臣トアルハ統監ニ、特許局トアルハ統監府特許局ニ、裁判所トアルハ理事廳及統監府法務院ニ、區裁判所トアルハ理事廳ニ、大審院トアルハ統監府法務院ニ該當ス  
特許法第六條ノ帝國ハ本令ノ適用上日本國若ハ韓國ニ該當ス

第二條 日本國若ハ韓國ノ皇室御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀、模様ヲ有スル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得ス

登録ヲ受ケタル意匠ニシテ前項ノ規定ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登録ヲ無効トス  
登録ヲ受ケタル意匠前項ノ規定ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ登録ヲ無効トスル爲統監府特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三條 本令ハ日韓兩國ノ臣民ニ對シ意匠ニ付同様に保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ意匠ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル國ノ臣民及人民ニモ之ヲ適用ス

附則

第四條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ登録ヲ受ケタル意匠ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ登録セラレタルモノト看做ス但シ其ノ意匠専用ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ意匠専用ノ期間ニ從フ

前項ノ登録意匠主ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該意匠ヲ用ウル者及其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

第六條 本令施行前米國ニ於テ意匠ノ登録ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ニシテ其ノ意匠ニ付本令施行ノ日ヨリ一年内ニ統監府特許局ニ意匠ノ登録ヲ出願シタル場合ニ於テハ無料ニテ登録ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ意匠専用ノ期間ハ米國ニ於ケル其ノ意匠専用ノ期間ニ從フ

朕韓國商標令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
外務大臣 子爵寺內正毅

勅令第九十八號 (官報 八月十三日)

韓國商標令

第一條 韓國ニ於ケル商標ニ關シテハ商標法ニ依ル但シ同法中帝國トアルハ韓國ニ、農商務大臣トアルハ統監ニ、特許局トアルハ統監府特許局ニ、裁判所トアルハ理事廳及統監府法務院ニ、區裁判所トアルハ理事廳ニ、大審院トアルハ統監府法務院ニ該當ス

第二條 日本國若ハ韓國ノ皇室御紋章又ハ其ノ國旗、軍旗、勳章又ハ他國ノ國旗ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得ス

登録ヲ受ケタル商標ニシテ前項ノ規定ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登録ヲ無効トス  
登録ヲ受ケタル商標前項ノ規定ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ登録ヲ無効トスル爲統監府特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三條 本令ハ日韓兩國ノ臣民ニ對シ商標ニ付同様に保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ商標ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル國ノ臣民及人民ニモ之ヲ適用ス



附則

第四條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ登録ヲ受ケタル商標ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ登録セラレタルモノト看做ス但シ其ノ商標專用ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ商標專用ノ期間ニ從フ

第六條 前條ニ依リ保護ヲ受クヘキ商標又ハ之ニ類似スル商標ヲ本令施行前使用シタル商品ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ六月後其ノ商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ販賣ノ爲所藏シタル者ニ對シテノ商標法第十六條ノ規定ヲ適用ス

第七條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ米國ニ於テ登録ヲ受ケタル商標ニ付其ノ登録商標主カ本令施行ノ日ヨリ一年內ニ統監府特許局ニ共ノ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ登録ニ付テハ商標料ヲ徴收セス

朕韓國商號令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
外務大臣 子爵寺內正毅

勅令第九十九號(官報 八月十三日)

韓國商號令

第一條 韓國ニ於ケル商號ニ關シテハ商法及非訟事件手續法ニ依ル但シ同法中市町村トアルハ府郡ニ、府縣トアルハ道ニ、裁判所トアルハ理事廳及統監府法務院ニ、日本トアルハ韓國ニ、司法大臣トアルハ統監ニ該當ス

第二條 本令ハ日韓兩國臣民ノ商號ニ關シ同様ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ商號ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル國ノ臣民又ハ人民ニモ之ヲ適用ス

附則

第三條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 商法第十八條ノ規定ハ本令施行前ヨリ韓國內ニ於テ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

朕韓國著作權令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
外務大臣 子爵寺內正毅

勅令第二百號(官報 八月十三日)

韓國著作權令

第一條 韓國ニ於ケル著作權ニ關シテハ著作權法ニ依ル但シ同法中帝國トアルハ韓國ニ、裁判所

トアルハ理事廳及統監府法務院ニ該當ス

第二條 本令ハ日韓兩國ノ臣民ニ對シ著作權ニ付同様ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ著作權ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル國ノ臣民及人民ニモ之ヲ適用ス

附則

第三條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ノ日本國ニ於テ享有スル著作權ハ本令ニ依リ保護セラルルモノトス

第五條 本令施行前米國ニ於テ著作權ノ登録ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ハ本令施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ統監府特許局ニ共ノ著作權ノ無料登録ヲ出願スルコトヲ得

第六條 日本國又ハ米國ニ於テ保護セラルル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ノ著作物ヲ本令施行前韓國ニ於テ著作權者ノ承諾ナクシテ複製シタル者、翻譯シタル者若ハ興行シタル者又ハ複製、翻譯、興行ニ著手シタル者ハ本令施行後一年間ハ之ヲ完成シテ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テハ統監府令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

朕關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
外務大臣 子爵寺内正毅

勅令第二百一號(官報 八月十三日)

第一條 帝國臣民又ハ韓國臣民カ帝國ニ於テ享有スル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ及フモノトス

第二條 特許法、意匠法、商標法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

第三條 日韓兩國以外ノ國ノ臣民又ハ人民カ帝國ニ於テ享有スル工業所有權及著作權ニ付テハ其所屬國カ治外法權ヲ有スル外國ニ於テ日韓兩國ノ臣民ニ對シ工業所有權及著作權ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ工業所有權及著作權ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル場合ニ限り前二條ノ規定ヲ適用ス

附則

第四條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行ノ際本令ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スル商標ヲ不正ニ附シタル商品ヲ販賣ノ爲所藏スル者ハ本令施行後六月内ニ其ノ商標ヲ除去若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ要ス

第六條 日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ帝國又ハ米國內ニ於テ著作權ヲ享有セル著作物ヲ本令施行前清國ニ於テ著作權者ノ承諾、ナクシテ複製シタル者、翻譯シタル者若ハ興行シタル者又ハ複製、翻譯、興行ニ著手シタル者ハ本令施行後一年間ハ之ヲ完成シテ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得

朕統監府特許局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第二百二號(官報八月十三日)

統監府特許局官制

第一條 統監府特許局ハ統監ノ管理ニ屬シ韓國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 統監府特許局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	專任	五人	判任
事務官	專任	二人	奏任
技師	專任	五人	奏任
審査官	專任	五人	奏任

審査官補	專任	五人	判任
屬	專任	五人	判任
技手	專任	一人	判任
通譯	專任	一人	判任

局長ハ參與官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 局長ハ統監ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第四條 局長、事務官及技師ヲ以テ審査官トス

第五條 審査官ハ特許、意匠及商標ニ關スル審判ヲ掌ル

第六條 審査官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ特許、意匠及商標ニ關スル審査ヲ掌ル

第七條 審査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ審査官ヲ助ケテ審査ニ從事ス

第八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府特許局職員官等俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月十二日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

勅令第二百三號 (官報 八月十三日)

統監府特許局職員官等俸給令

第一條 統監府特許局高等官ノ官等ハ事務官ハ三等乃至七等、審査官ハ四等乃至七等トス  
 第二條 統監府特許局職員ノ本俸ノ年額ハ事務官ニ付テハ統監府及理事廳職員給與令中委任文官  
 本俸第一號表審査官ニ付テハ同第二號表ヲ準用ス  
 第三條 統監府及理事廳職員給與令第七條ノ規定ハ統監府特許局職員ニ之ヲ準用ス  
 第四條 本令ニ規定セサルモノハ高等官官等俸給令ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂 太郎  
陸軍大臣 子爵寺內正毅

勅令第二百四號 (官報 八月二十一日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第二十一表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三 大麥ニ燕麥ヲ、秣ニ牧草ヲ換ヘ給スルコトヲ得其ノ定量ハ大麥一貫匁ニ對シ燕麥九百匁、秣一貫匁ニ對シ牧草八百匁トス

朕海軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十一年八月二十日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎  
海軍大臣 男爵齋藤實

勅令第二百五號 (官報 八月二十一日)

海軍給與令中左ノ通改正ス

第三十一條第二項中「臺灣」ノ下ニ「又ハ清國」ヲ加フ  
 第六十三條第二項中「外國旅費規則ニ依リ」ヲ削ル

第五表及第六表末欄第一號中「第五欄ノ額ヲ」ノ下ニ「亞細亞露領沿岸北緯六十度以北ニ於テハ第四欄ノ額ヲ」ヲ、第七表末欄第一號中「第六欄ノ額ヲ」ノ下ニ「亞細亞露領沿岸北緯六十度以北ニ於テハ第五欄ノ額ヲ」ヲ加フ

附則

本令中第五表乃至第七表ノ改正ハ公布ノ日ヨリ其ノ他ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス